

京都国立近代美術館
活動報告

令和3年度



WOMAK Report 2021

京都国立近代美術館 活動報告
令和3年度(2021)

目次

[展覧会／コレクション展]	
4	展覧会一覧表
12	令和3年度 展覧会一覧表
13	令和3年度 コレクション展記録
14	令和3年度 キュレトリアル・スタディズ
15	令和3年度 エデュケーショナル・スタディズ
16	令和3年度 展覧会記録
[作品の収集、保存、貸出]	
30	令和3年度 作品の収集、保存、貸出
[展覧会協力事業]	
52	令和3年度 展覧会協力事業
[普及・学習支援・出版事業]	
53	令和3年度 普及・学習支援・出版事業
59	令和3年度 広報
[調査・研究]	
60	令和3年度 研究員業績一覧
[名簿]	
63	評議員・職員

Contents

[Exhibitions / Collection Gallery Exhibitions]	
4	Table of Exhibitions
12	Table of Exhibitions 2021
13	Collection Gallery Exhibitions 2021
14	Curatorial Studies 2021
15	Educational Studies 2021
16	Exhibitions 2021
[New Acquisitions, Conservation, Loans from MoMAK Collection]	
30	New Acquisitions, Conservation, Loans from MoMAK Collection 2021
[Exhibition-related Cooperation]	
52	Exhibition-related Cooperation 2021
[Public, Learning Programs and Publications]	
53	Public, Learning Programs and Publications 2021
59	Publicities 2021
[Research Activities]	
60	Research Activities 2021
[Nominal List]	
63	The Board of Trustees and Museum Staff

国立近代美術館京都分館

昭和38年度 [1963]

- 1 現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向
- 2 ビュッフェ展—その芸術の全貌
- 3 工芸における伝統と現代
現代絵画の動向—西洋と日本
- 4 村上華岳の芸術
- 5 工芸における手と機械
- 6 シャガール展
- 7 北大路魯山人の芸術
- 8 近代日本の洋画と工芸—明治・大正期
- 9 近代日本の洋画と工芸—昭和期

昭和39年度 [1964]

- 10 現代美術の動向—絵画と彫塑
- 11 児島善三郎遺作展
- 12 現代イギリス彫刻展
- 13 ピカソ展—その芸術の70年
- 14 浅井忠の芸術
- 15 現代日本の工芸
- 16 現代国際陶芸展
- 17 禅の美術
- 18 日本・カラー1964—現代写真代表作展
特別陳列：東京オリンピック報道写真
- 19 近代日本画の歩み

昭和40年度 [1965]

- 20 小出楯重展
- 21 世界の染織(1)—エジプトとベルシア
- 22 現代美術の動向
- 23 近代絵画の流れ
- 24 前衛絵画の先駆者たち
- 25 入江波光展
- 26 フォーブ展
- 27 具象絵画の新たな展開
- 28 戦後の油絵と版画
- 29 現代ヨーロッパのリビングアート

昭和41年度 [1966]

- 30 稲垣稔次郎展
- 31 現代美術の動向
- 32 岡田謙三展
併陳：近代日本の工芸
- 33 日本の近代絵画
- 34 富田溪仙展
- 35 ミロ展
- 36 現代アメリカ絵画展
- 37 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
- 38 現代アメリカのリビングアート

昭和42年度 [1967]

- 39 近代日本の絵画(日本画)と工芸
- 40 近代日本の絵画(洋画)と工芸

京都国立近代美術館

昭和42年度 [1967]

- 41 近代日本画の名作
- 42 現代美術の動向
- 43 異色の近代画家たち
- 44 近代日本の工芸
- 45 現代イタリア美術展
- 46 勅使河原蒼風の彫刻
- 47 デュフィ展
- 48 現代陶芸の新世代

昭和43年度 [1968]

- 49 土田麦僊展
- 50 ボナール展
- 51 モジリアニ名作展
- 52 現代美術の動向
- 53 陶工河井寛次郎展
- 54 ロートレック展
- 55 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
- 56 近代デザインの展望

昭和44年度 [1969]

- 57 山口薫回顧展
- 58 日本画の新人たち
- 59 菅井汲展
- 60 現代美術の動向
- 61 ゴーガン展
- 62 現代イギリス版画展
- 63 近代日本の工芸
- 64 東洋の染織

昭和45年度 [1970]

- 65 石黒宗麿回顧展
- 66 富本憲吉遺作展
- 67 現代美術の動向
- 68 現代の陶芸—ヨーロッパと日本
- 69 パーバラ・ヘップワース展
- 70 英国風景画展
- 71 エドワルド・ムンク展
- 72 第7回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和46年度 [1971]

- 73 所蔵作品展
- 74 小合友之助・河合卯之助 二人展
- 75 近代日本の彫刻
- 76 ルネ・マグリット展
- 77 染織の新世代
- 78 現代の陶芸
—アメリカ・カナダ・メキシコと日本
- 79 現代ドイツ美術展

- 80 カルティエ=ブレッソン写真展
併陳：所蔵作品による近代日本の工芸

昭和47年度 [1972]

- 81 近代イタリア美術の巨匠たち
- 82 現代スウェーデン美術展
- 83 デューラーとドイツ・ルネッサンス展
- 84 現代美術の鳥瞰
- 85 ペーテル・ブリューゲル版画展
- 86 ヨーロッパの日本作家
- 87 ジェームズ・アンソール展
- 88 第8回東京国際版画ビエンナーレ展
- 89 シカゴ美術館浮世絵名品展

昭和48年度 [1973]

- 90 所蔵品による欧米の陶芸
併陳：新収作品の紹介
- 91 吉原治良展 明日を創った人
- 92 現代工芸の鳥瞰
- 93 グラフィック・イメージ '73
- 94 アメリカの日本作家
- 95 近代日本美術史におけるパリと日本
- 96 キリシタン美術の再発見
—西洋と日本の出会い
- 97 デ・キリコによるデ・キリコ展

昭和49年度 [1974]

- 98 ダダの女流画家
ハンナ・ヘッヒの芸術
- 99 アンドリュウ・ワイエス展
- 100 グラフィック・イメージ '74
(ワード+イメージ)
- 101 沖縄の工芸
- 102 現代メキシコ美術展
- 103 第9回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和50年度 [1975]

- 104 現代衣服の源流展
- 105 ポール・デルボー展
- 106 異色の水墨画家
—野沢如洋・泥谷文景・小川千壺
- 107 香月泰男遺作展
- 108 フランス工芸の美
—15世紀から18世紀のタピスリー
- 109 シュルレアリスム展
- 110 ポール・デービス展
- 111 ソ連寄贈福田平八郎作品展
併陳：近代の日本画
—所蔵作品による—

昭和51年度 [1976]

- 112 ドイツ・リアリズム 1919—1933
ドイツ民主共和国所蔵 絵画・彫刻・版画
- 113 ドイツの現代陶芸
- 114 アメリカのキルト
- 115 異色の水墨画家
—水越松南・山口八九子・楠瓊州
- 116 今日の造形(織)—ヨーロッパと日本
- 117 キュービズム展
- 118 オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館所蔵 ヴァン・ゴッホ展
- 119 第10回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和52年度 [1977]

- 120 イタリア古版画展
—15世紀から18世紀—
併陳：近代日本の版画—所蔵作品より
- 121 金鈴社の画家たち
—錦木清方、吉川靈華、平福百穂、
松岡映丘、結城素明
- 122 「第九の怒濤」を中心とするロシア美術館名作展
併陳：ソ連政府寄贈福田平八郎作品展
—絵画・版画・工芸—
- 123 近代の日本画—所蔵作品より—
- 124 現代美術の鳥瞰
—明日を探る作家たち—
- 125 今日の造形(織)—アメリカと日本
- 126 フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術
- 127 ピカソ展
- 128 牛島憲之の芸術
—50年の歩み その静温な風景詩—

昭和53年度 [1978]

- 129 オスカー・ココシュカ展
- 130 没後50年記念 佐伯祐三展
- 131 世界の現代画家50人展
—サザールランドからフォロンまで—
- 132 現代日本の工芸
- 133 ヨーロッパのポスター：
その源流から現代まで—
- 134 世界の現代工芸
—スキャンディナヴィアの工芸—
- 135 新収作品を中心とする所蔵作品展
—絵画・版画・彫刻—
- 136 安井曾太郎展 京都が生んだ洋画の巨匠

昭和54年度 [1979]

- 137 ソ連邦所蔵のフランス近代絵画展
—ブーシキン、エルミターージュ両美術館から—
- 138 没後50年 岸田劉生展
- 139 異色の水墨画家
—西晴雲・近藤浩一路・山下摩起
- 140 天野博物館所蔵品によるプレ・インカの染織
- 141 フランス絵画の巨匠たち
—ボストン美術館秘蔵展—
コローからブラックまで
- 142 速水御舟の芸術展 写実と幻想の天才画家

昭和55年度 [1980]

- 143 浪漫衣裳展「洋装事始」をうながした西欧の波
- 144 銅版画の巨匠 長谷川潔展
- 145 現代ガラスの美
—ヨーロッパと日本—
- 146 ボンビドゥ・センター／
20世紀の美術
- 147 新収作品を中心とする所蔵作品展
—絵画・版画・工芸—
- 148 イタリア・ルネッサンス美術展
- 149 八木一夫展

昭和56年度 [1981]

- 150 須田国太郎展
- 151 マチス展
- 152 異色の水墨画家
—日高昌克・井上石郵・董牛人—
- 153 現代ガラスの美
—オーストラリア・カナダ・アメリカと日本—
- 154 モーリス・ドニ展
- 155 所蔵作品展—近代の絵画
- 156 1960年代—現代美術の転換期

昭和57年度 [1982]

- 157 ザオ・ウーキー展 油彩と墨絵
- 158 坂本繁二郎展
- 159 菊池契月展
- 160 アメリカに学んだ日本の画家たち
国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画
- 161 イギリスのニードルワーク
- 162 モネ展
- 163 新しい紙の美術—アメリカ

展覧会一覧表

Table of Exhibitions

昭和58年度 [1983]	190 現代イタリア陶芸の4巨匠展	平成3年度 [1991]	252 ヴィクトリア&アルバート美術館展 英国のモダン・デザイン —インテリアにみる伝統と革新—	277 写真の誕生から現代まで —館所蔵世界の近代写真 I	マイ・ポートレート
164 榊原紫峰展	191 ジェリコ展	222 フランク・ロイド・ライト回顧展	253 ブルーノ・タウト展 近代建築のあけ ぼの／宇宙建築師の夢	278 漂流教室：イメージの図書館から —18人の中学生が創る18の展覧会	306 ルネ・ラリック 1860—1945展
165 河井寛次郎展	192 ヤン・グロート展	223 生誕100年記念 長谷川潔展	254 日本の美—伝統と近代	279 土田麦僊展 日本画の偉才 —清雅なる理想美の世界	平成13年度 [2001]
166 現代彫刻の異才 辻智堂展	昭和63年度 [1988]	224 ロバート・ヴェンチューリ&スコット・ ブラウン展 —建築とデコラティブ・アート	255 写実の系譜IV：『絵画』の成熟 —1930年代の日本画と洋画	280 文人画の近代 —鉄斎とその師友たち展	307 前田青邨展
167 フランス・ペーコン展	193 北大路魯山人展	225 フィレンツェ・ルネサンス芸術と修復	256 京を描く—近代日本画に見る京都—	281 村岡三郎展 熱の彫刻 —物質と生命の根源を求めて	308 ミニマルマキシマル —ミニマル・アートとその展開 1990年代の現代美術
168 ニューヨーク近代美術館所蔵品によ る20世紀アメリカのポスター	194 ファイバーアートの新領域 —アメリカ	226 野島康三とその周辺 日本近代写真と絵画の一断面	257 ピーター・ヴォーコス展	282 生誕100年記念 豊田勝秋展	309 京都の工芸 [1945—2000]
169 現代美術における写真 —1970年代の美術を中心として	195 梅原龍三郎遺作展	227 京都の未来像 建築展	平成7年度 [1995]	283 新収蔵品展 1993～1997	310 オーストリア・デザインの現在 —広がるデザインの世界
昭和59年度 [1984]	196 1986、87年度新収作品展	228 大英博物館所蔵品によるアフリカの 染織	258 クロッシング・スピリッツ カナダ現代美術展 1980—94	平成10年度 [1998]	311 生誕100年記念 小松均展
170 京都国立近代美術館所蔵 —近代洋画名作展	197 つながれた形の間に—飯田善國展	229 金田和郎回顧展	259 神秘の顕現 ギュスターヴ・モロー展	284 没後90年記念 浅井忠展	312 シェナ美術展 —絵画・彫刻・工芸の精華
171 バルチュス展	198 現代イギリスの工芸	230 荒川修作の実験展 —見る者がつくられる場	260 思索する色とかたち 作陶50年 タカエズ・トシコ展	285 森村泰昌 [空装美術館] —絵画になった私	313 銅版画の巨匠 長谷川潔展
172 今日のジュエリー —世界の動向	199 写実の系譜III —明治中期の洋画	231 ゴッホと日本展	261 情熱の画家・フォーヴの旗手 生誕100年記念 里見勝蔵展	286 テキスタイルの発言：イギリスの今日	平成14年度 [2002]
173 現代美術への視点 —メタファーとシンボル展	200 萩須高德遺作展	平成4年度 [1992]	262 ドナウの夢と追憶 ハンガリーの建築 と応用美術 1896—1916	287 生誕100年記念 岡鹿之助展	314 日本画への招待—人・花・風景—
昭和60年度 [1985]	201 大きな井上有一展	232 在米35年 孤高の軌跡 川端美展	263 ピカソ 愛と苦悩 —「ゲルニカ」への道	288 京都の工芸 [1910—1940] —伝統と変革のはざまに—	315 カンディンスキー展 抽象絵画への道 1896—1921
174 京都国立近代美術館所蔵 —近代洋画名作展	平成元年度 [1989]	233 イサム・ノグチ展	264 現代美術への視点 —絵画、唯一なるもの	289 土谷武展 しなやかな造形、生成するかたち	316 アメリカ現代陶芸の系譜 1950—1990 自由の国のオブジェとうつわ
175 マチス、ミロ、ピカソら巨匠による近 代の挿絵 併陳：フィラデルフィア美術館所蔵 の版画24点による見えない敵—伝 染病	202 華麗な革命 —ロココと新古典の衣裳	234 オーストラリア絵画の200年 —自然・人間・芸術—	平成8年度 [1996]	290 ムンク版画展	317 スーラと新印象派 —光と点描の画家たち
176 現代デザインの展望 —ポストモダンの地平から—	203 くるまからバスタまで ジウジアーロ・デザインの世界	235 アポリジニの美術 伝承と創造／ オーストラリア大地の夢	265 生誕100年記念 徳岡神泉展	平成11年度 [1999]	318 クッションから都市計画まで —ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作 連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900—1927
177 写実の系譜 I—洋風表現の導入： 江戸中期から明治初期まで	204 ル・サロン(1667—1881)の巨匠たち フランス絵画の精華	236 フランク・O・ゲーリー展 —建築と家具—	266 リチャード・ロング展 山行水行	291 身体の夢 ファッションOR見えないコルセット	319 ウィーン美術史美術館名品展 —ルネサンスからバロックへ—
昭和61年度 [1986]	205 現代デザインの水脈： ウルム造形大学展	237 現代美術への視点 形象のはざまに	267 身体と表現 1920—1980 ポンピ ドゥー・センター所蔵作品から	292 生誕110年・没後20年記念展 小野竹喬	平成15年度 [2003]
178 新館開館記念特別展： 京都の日本画1910～1930 大正のこころ・革新と創造	206 ヴァチカン美術館特別展 —古代ギリシャからルネサンス、 バロックまで	238 フォーヴィズムと日本近代洋画	268 増殖するイメージ 小牧源太郎遺作展	293 倉俣史朗の世界	320 知られざる西アフリカの美術 富と権力、王国2000年の歴史
179 写実の系譜II—大正期の細密描写	207 美の旅人 池田逸邨遺作展	239 京都国立近代美術館創立30周年 記念展 I：世界の工芸—所蔵作品 による—	269 テキスタイルの冒険—現代オランダ の4人のアーティスト—	294 京都新聞社創刊120年記念展 近代京都画壇と「西洋」 —日本画革新の旗手たち—	321 東松照明の写真 1972—2002
180 レンブラント・巨匠とその周辺	208 能弁なオブジェ —現代アメリカ工芸の展開	240 京都国立近代美術館創立30周年 記念展 II：近代の美術 —所蔵作品による—	270 プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪： プロジェクト [意志的・投機的] な実践の再発見に向けて	295 エディンバラの工芸	322 韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展
181 山口華揚・六代清水六兵衛遺作展	209 ファイバーアートの先駆者 —高木敏子遺作展	241 ゴーガンとポン＝タヴァン派展	271 結成100年記念 白馬会 —明治洋画の新風	296 パリ オランジュリー美術館展 ジャン・ヴァルテル&ポール・ギョーム コレクション	323 横尾 by ヨコオ：描くことの悦楽 —イメージの遍歴と再生
昭和62年度 [1987]	210 現代美術への視点 —色彩とモノクローム	242 賈又福中国画展 東洋画の新星	272 大正日本画の異才 —いきづく情念 甲斐庄楠音展	297 日本の前衛 Art into Life 1900—1940	324 神坂雪佳展—琳派の継承・近代デ ザインの先駆者
182 宮殿からピラミッド計画へ 「大改造すむブルーブル美術館」展	211 生誕100年記念 ニューヨークの憂愁 国吉康雄展	243 谷角日沙春展	273 北脇昇展 —理知と幻想のシュルレアリスト	298 所蔵品でたどる 新しい造形表現 —1960年から今日まで—	325 オーストラリア現代工芸3人展： 未知のかたちを求めて
183 館コレクションから選んだ写真： 近代の視覚・100年の展開	平成2年度 [1990]	244 メランコリア—知の翼— アンゼラム・キーファー展	274 モダンデザインの父 —ウィリアム・モリス	299 顔 絵画を突き動かすもの	326 ヨハネス・イッテン —造形芸術への道
184 スウェーデンのテキスタイル・アート	212 モランディ展	245 京の記憶／ スティーヴン・ファージング展	平成9年度 [1997]	平成12年度 [2000]	327 デカダンスから光明へ 異端画家・ 秦テルヲの軌跡—そして竹久夢二・ 野長瀬晩花・戸張孤雁…
185 カンディンスキー展	213 スペイン現代陶芸展	246 国画創作協会回顧展	275 ドイツ現代写真展《遠・近》 —ベルント&ヒラ・ベッヒャーとその 弟子たち—	300 麻田鷹司展	328 京都国立近代美術館コレクション から 日本洋画の130年—見つめ、 感じ、表現する画家たち
186 日本現代陶芸展—4人の視点	214 高橋秀展 エロス・極限の赤と黒	247 柳原義達展	276 宿命の画家—土着と前衛のはざま に—萬鐵五郎展	301 粟辻博展 色彩と空間のテキスタイル	329 彫刻家：堀内正和の世界展
187 ブリュッセル王立美術歴史博物館 所蔵：ヨーロッパのレース	215 プラハ国立美術館所蔵 ブリュッゲ ルとネーデルランド風景画展	248 オーストラリアのジュエリー展	平成6年度 [1994]	302 STILL\MOVING： 境界上のイメージ—現代オランダの 写真、フィルム、ビデオ—	
188 北歐クラフトの今日 —白い光・深い森のオブジェたち	216 イメージ&オブジェクト日本展	249 ルフィーノ・タマヨ展	250 モードのジャポニスム展 —キモノから生まれたゆとりの美—	303 没後70年記念 小出楢重展	
189 若林奮展	217 移行するイメージ： 1980年代の映像表現		251 イスラエルの工芸展	304 万国博覧会と近代陶芸の黎明	
	218 写真の過去と現在			305 トーマス・シュトゥルルト：	

平成16年度 [2004]

- 330 COLORS ファッションと色彩
VICTOR®ROLF®KCI
- 331 近代日本画壇の巨匠 横山大観展
- 332 ブラジル:ポディ・ノスタルジア
- 333 没後25年 八木一夫展
—現代陶芸の異才—
- 334 ジャパニーズモダン
—剣持勇とその世界展—
- 335 痕跡—戦後美術における身体と思考
- 336 草間彌生展—永遠の現在
- 337 京都国立近代美術館所蔵
—川勝コレクションの名品
河井寛次郎展

平成17年度 [2005]

- 338 村上華岳展
- 339 through the surface: 表現を通して
—現代テキスタイルの日英交流—
- 340 20世紀陶芸界の鬼才
加守田章二展
- 341 近代日本画の名匠 小林古径展
- 342 堂本尚郎展
- 343 須田国太郎展
- 344 ドイツ写真の現在 —かわりゆく「現実」と向かいあうために
- 345 ドイツ表現主義の彫刻家
エルンスト・バルラハ

平成18年度 [2006]

- 346 人と自然:ある芸術家の理想と挑戦
フンデルトヴァッサー展
- 347 生誕120年 藤田嗣治展:
パリを魅了した異邦人
- 348 生誕120年 富本憲吉展
- 349 プライスコレクション
若沖と江戸絵画展
- 350 都路華香展
- 351 揺らぐ近代
日本画と洋画のはざまに
- 352 アール・デコ・ジュエリーの世界
輝きの詩人シャルル・ジャコ、ブ
シュロン、ラリックらの宝飾デザイン

平成19年度 [2007]

- 353 ノイズレス:
鈴木昭男 + ロルフ・ユリウス
- 354 福田平八郎展
- 355 舞台芸術の世界 ディアギレフの
ロシアバレエと舞台デザイン
- 356 シビル・ハイネン:
テキスタイル・アートの彼方へ
- 357 没後10年 麻田 浩展

- 358 文承根 + 八木正 1973-83の仕事
- 359 カルロ・ザウリ展
イタリア現代陶芸の巨匠
- 360 新収作品展
—寄贈されたM&Yコレクション
池田満寿夫の版画
- 361 玉村方久斗展
- 362 ドイツ・ポスター 1890-1933

平成20年度 [2008]

- 363 生誕100年記念 秋野不矩展
- 364 ART RULES KYOTO 2008
- 365 ルノワール+ルノワール展
- 366 「日本画」再考への序章
没後10年 下村良之介展
- 367 没後30年 W. ユージン・スミスの写真
- 368 生活と芸術—アーツ&クラフツ展
ウィリアム・モリスから民芸まで
- 369 現代美術への視点
—エモーショナル・ドローイング
- 370 上野伊三郎+リチ コレクション展
ウィーンから京都へ、建築から工芸へ
- 371 椿昇 2004-2009:
GOLD/WHITE/BLACK

平成21年度 [2009]

- 372 ラグジュアリー:ファッションの欲望
- 373 京都新聞創刊130年記念
京都学「前衛都市・モダニズムの京
都」1895-1930
- 374 東京国立近代美術館フィルムセン
ター所蔵《袋一平コレクション》より
無声時代ソビエト映画ポスター展
- 375 生誕120年 野島康三 ある写真家
が見た日本近代
- 376 ウィリアム・ケントリッジ
—歩きながら歴史を考える そしてド
ローイングは動き始めた……
- 377 ボルゲーゼ美術館展
- 378 マイ・フェイバリット—とある美術の
検索目録/所蔵作品から

平成22年度 [2010]

- 379 稲垣伸静・稔次郎兄弟展
- 380 ローマ追想—19世紀写真と旅
- 381 Trouble in Paradise/
生存のエシックス
- 382 「日本画」の前衛 1938-1949
- 383 上村松園展
- 384 麻生三郎展
- 385 パウル・クレー
—おわらないアトリエ

平成23年度 [2011]

- 386 没後100年 青木繁展
—よみがえる神話と芸術
- 387 視覚の実験室 モホイ=ナジ/
イン・モーション
- 388 「織」を極める
—人間国宝 北村武資
- 389 川西英コレクション収蔵記念展
夢ことともに

平成24年度 [2012]

- 390 すべての僕が沸騰する
—村山知義の宇宙—
- 391 井田照一の版画
- 392 KATAGAMI Style
—もうひとつのジャポニスム
- 393 近代洋画の開拓者 高橋由一
- 394 日本の映画ポスター芸術
- 395 山口華楊展
- 396 開館50周年記念特別展
交差する表現 工芸/デザイン/
総合芸術

平成25年度 [2013]

- 397 芝川照吉コレクション展〜
青木繁・岸田劉生らを支えたコレク
ター
- 398 泥象 鈴木治の世界—「使う陶」から
「観る陶」、そして「詠む陶」へ—
- 399 映画をめぐる美術
—マルセル・ブロータースから始める
- 400 皇室の名品—近代日本美術の粹
- 401 Future Beauty 日本ファッション:
不連続の連続
- 402 チェコの映画ポスター
テリー・ポスター・コレクションより

平成26年度 [2014]

- 403 上村松篁展
- 404 うるしの近代
—京都、「工芸」前夜から
- 405 ホイッスラー展
- 406 現代美術のハードコアはじつは世
界の宝である展
ヤゲオ財団コレクションより

平成27年度 [2015]

- 407 ポスターにみる
ミュージカル映画の世界
- 408 ユネスコ無形文化遺産登録記念
北大路魯山人の美 和食の天才
- 409 現代陶芸の鬼才 栗木達介展
- 410 琳派400年記念「琳派イメージ」展

- 411 文化勲章受章記念 志村ふくみ
—母衣への回帰—

平成28年度 [2016]

- 412 オーダーメイド:それぞれの展覧会
- 413 キューバの映画ポスター
竹尾ポスターコレクションより
- 414 ポール・スミス展 HELLO, MY
NAME IS PAUL SMITH
- 415 あの時みんな熱かった!
アンフォルメルと日本の美術
- 416 メアリー・カサット展
- 417 茶碗の中の宇宙
樂家—子相伝の芸術
- 418 endless 山田正亮の絵画

平成29年度 [2017]

- 419 戦後ドイツの映画ポスター
- 420 技を極める
—ヴァン クリーフ&アーベル
ハイジュエリーと日本の工芸
- 421 絹谷幸二 色彩とイメージの旅
- 422 岡本神草の時代
- 423 ゴッホ展 巡りゆく日本の夢
- 424 明治150年展 明治の日本画と工芸

平成30年度 [2018]

- 425 生誕150年 横山大観展
- 426 バウハウスへの応答
- 427 生誕110年 東山魁夷展
- 428 没後50年 藤田嗣治展
- 429 世紀末ウィーンのグラフィック
デザインそして生活の刷新にむけて
- 430 京都の染織
1960年代から今日まで

平成31年度/令和元年度 [2019]

- 431 京都新聞創刊140年記念
川勝コレクション 鐘溪窯
陶工・河井寛次郎
- 432 トルコ文化年2019
トルコ至宝展 チューリップの宮殿
トプカプの美
- 433 ドレス・コード?
—着る人たちのゲーム—
- 434 円山応挙から近代京都画壇へ
- 435 記憶と空間の造形
イタリア現代陶芸の巨匠
ニーノ・カルーソ

令和2年度 [2020]

- 436 チェコ・デザイン 100年の旅

- 437 日本・ポーランド国交樹立100周年
記念 ポーランドの映画ポスター

- 438 京都国立近代美術館所蔵作品にみる
京のくらし
—二十四節気を愉しむ—
- 439 人間国宝 森口邦彦 友禅/デザ
イン—交差する自由へのまなざし
- 440 分離派建築会100年
建築は芸術か?

令和3年度 [2021]

- 441 ビピロッチェ・リスト:
Your Eye Is My Island
—あなたの眼はわたしの島—
- 442 モダングラフトクロニクル
—京都国立近代美術館コレクショ
ンより—
- 443 発見された日本の風景
美しかりし明治への旅
- 444 上野リチ:ウィーンからきた
デザイン・ファンタジー
- 445 新収蔵記念:岸田劉生と
森村・松方コレクション
- 446 サロン! 雅と俗
—京の大家と知られざる大坂画壇

令和3年度 展覧会

Exhibitions 2021

令和3年度 展覧会一覧表

Table of Exhibitions 2021

回数	展覧会名	会期	開催日数	入場者数		備考
				総数	1日平均	
441	ピピロッチェ・リスト： Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの島—	4.6～6.20	52	21,025	404	共催：京都新聞
442	モダンクラフトクロニクル —京都国立近代美術館コレクション より—	7.9～8.22	37	9,119	246	共催：京都新聞
443	発見された日本の風景 美しかりし明治への旅	9.7～10.31	48	17,614	367	共催：毎日新聞社、 NHK京都放送局
444	上野リチ： ウィーンからきたデザイン・ファンタジー	11.16～ 2022.1.16	49	36,122	737	共催：朝日新聞社、 関西テレビ放送
445	新収蔵記念： 岸田劉生と森村・松方コレクション	2022.1.29 ～3.6	32	19,322	604	共催：毎日新聞社、京都新聞、 NHK京都放送局
446	サロン！ 雅と俗 —京の大家と知られざる大坂画壇	3.23～3.31 [5.8]	8 [42]	1,744 [11,740]	218 [280]	共催：朝日新聞社
合計			226	104,946	464	[]は会期通算期間、参考として 記載、合計には含まない。
	コレクション展(全5回)	3.23～ 2022.3.13	269	81,541	303	コレクション展のみの入館者数： 13,488(2021.4.1～2022.3.31)

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、感染予防・拡散防止のために2021年4月25日(日)～5月11日(火)まで臨時休館。この影響により「ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの島—」展(会期：4月6日(火)～6月13日(日))および「モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—」展(会期：7月2日(金)～8月22日(日))は会期を変更し、「ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island」展は6月20日(日)まで、「モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—」展は7月9日(金)からの開催となった。

コレクション展 Collection Gallery Exhibitions

当館所蔵の日本画、洋画、版画、彫刻および陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリーなどの工芸、写真などの中から適宜作品を選択して紹介。年間約5回の展示替により、日本の近代美術の大きな流れの中の代表作や記念的な作品をおりまぜて展示するとともに、欧米の近・現代の作品もあわせて展示し、キュレトリアル・スタディズを含む、以下のようなテーマ展示を行った。

令和3年度 コレクション展記録

Collection Gallery Exhibitions 2021

第1回コレクション展

前期：2021年3月23日(火)～5月9日(日)／
後期：5月11日(火)～6月20日(日)、計168点〔前期：
139点、後期：142点(展示替え：29点)〕
(新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため、4月25日
(日)～5月11日(火)臨時休館)

- ・西洋近代美術作品選(胸像)
- ・ひとを描く—日本画にみる人物表現—
- ・体当たりの美術—アーティストと身体—
- ・世界の工芸
- ・川勝コレクション 河井寛次郎作品選
- ・日本の外光派 太田喜二郎と大久保作次郎を中心に
- ・パンリアル美術協会前史：歴程美術協会—山崎 隆
と山岡良文を中心に—

第2回コレクション展

前期：2021年6月24日(木)～8月1日(日)／
後期：8月3日(火)～8月29日(日)、計131点〔前期：
101点、後期：105点(展示替え：30点)〕

- ・西洋近代美術作品選
(ソニア・ドローネー＝テルクとアーシル・ゴーキー)
- ・あやしげな絵(前期)
- ・いきものの絵(後期)
- ・長谷川潔の版画
- ・里見勝蔵と渡仏画家たち

第3回コレクション展

2021年9月2日(木)～11月7日(日)、計261点

- ・西洋近代美術作品選(水辺の風景)
- ・明治・大正時代の日本画
- ・見出された時間：写真コレクションより
- ・明治の工芸
- ・川勝コレクション 河井寛次郎作品選
- ・明治の光景
- ・版画にみる四都(京・阪・神・東)の風景—川西 英
を中心に—

第4回コレクション展

2021年11月11日(木)～2022年1月16日(日)、計242
点

- ・西洋近代美術作品選(マルク・シャガール)
- ・生誕150年・没後90年 都路華香
- ・モダン⇄ポストモダン 揺れ動く建築と建築家
- ・近代工芸の意匠
- ・前衛陶芸の時代
- ・香月泰男と洋画における「単純化」
- ・キュレトリアル・スタディズ15：八木一夫の写真
〔キュレトリアル・スタディズ〕の項目を参照

第5回コレクション展

2022年1月20日(木)～3月13日(日)、計168点

- ・冬の日本画 2022
- ・芸術家とモデルの関係
- ・大正時代の工芸
- ・詩人・河井寛次郎
- ・岸田劉生の友と敵
- ・劉生が生きた時代の西洋美術

「2021年度第3回コレクション展」の一角にて、八木家の悉皆調査を通じて発見された陶芸家・八木一夫が撮影した写真を展示し、知られざる作家の一面を紹介した。

キュレトリアル・スタディズ15:

八木一夫の写真

2021年11月11日(木)~2022年1月16日(日)、
計105点



招待ハガキデザイン: 倉澤洋輝



会場風景(撮影: 守屋友樹)

写真集
Photo Album

「カメラを手にした前衛陶芸家 八木一夫の写真」

日本語: 21 cm×15 cm、143頁

図版 モノクロ224点

写真: 八木一夫

編集: 京都国立近代美術館

編集補助: 八木明(陶芸家)、花里麻理(茨木県陶芸美術館学芸課長)

執筆: 八木明、花里麻理、大長智広(京都国立近代美術館)

デザイン: 倉澤洋輝

発行所: 京都新聞出版センター

印刷: ニューカラー写真印刷株式会社



デザイン: 倉澤洋輝

「感覚をひらく」事業では2020年度より、作家 (Artist)、視覚に障害のある方 (Blind)、学芸員 (Curator) がそれぞれの専門性や感性を生かして協働し、所蔵作品をテーマとする新たな鑑賞プログラムを開発する「ABCプロジェクト」に取り組んでいる。今回は「2022年度第1回コレクション展※」の一角にて、河井寛次郎《三色打薬陶彫》を出発点として、会場に触察の音声や手でふれる造形物等を設え、身体感覚を用いて作家の暮らしぶりに触れていくことで、その造形感覚を読み解く体験型の展示を行った。

※開催時期は「2022年度第1回コレクション展」の会期となっているが、事業としては令和3年度(2021年度)の事業のため掲載。

感覚をひらく

—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業

エデュケーショナル・スタディズ03:

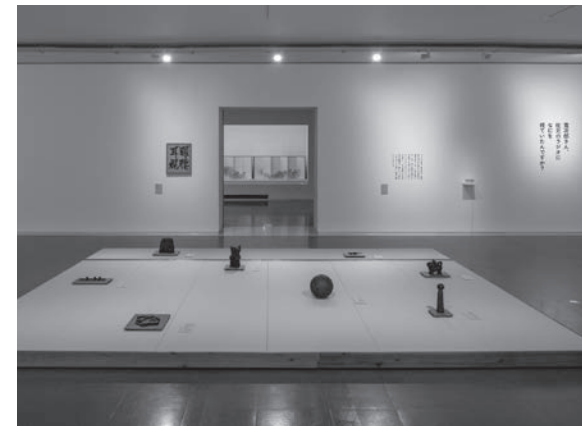
眼で聴き、耳で視る |

中村裕太が手さぐる河井寛次郎

2022年3月18日(金)~5月15日(日)、計9点

特別協力: 河井寛次郎記念館

助成: 令和3年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業



会場風景(撮影: 表恒匡)



フライヤーデザイン: Studio Kentaro Nakamura

ピピロッチェ・リスト： Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの島—

Pipilotti Rist: Your Eye Is My Island

主催：京都国立近代美術館、京都新聞
 後援：在日スイス大使館
 協賛：クヴァドラ
 協力：株式会社長谷ビル、国立新美術館、ユニバーサル・ビジネス・テクノロジー株式会社
 助成：スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団
 企画協力：Hauser & Wirth、一色事務所
 映像技術コーディネート：山田晋平、岸本康(Ufer! Art Documentary)
 会期：2021年4月6日(火)～6月20日(日) (52日間)
 入場者数：21,025人(一日平均：404人)
 ※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のための臨時休館(4月25日～5月11日)により、当初閉幕日2021年6月13日(日)が上記の通り変更となった。

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, The Kyoto Shimibun
 Support: Embassy of Switzerland in Japan
 Sponsorship: Kvadrat
 Cooperation: Hase Building Co., Ltd.; the National Art Center, Tokyo; Universal Business Technologies Corporation
 Support: The Swiss Arts Council Pro Helvetia
 Project coordination: Hauser & Wirth, Yoshiko Isshiki Office
 Video technical coordination: Yamada Shimpei, Kishimoto Yasushi (Ufer! Art Documentary)
 Dates: Tuesday, April 6 - Sunday, June 20, 2021
 Visitors: 21,025(404per day)
 *Due to the temporary closure from April 25 to May 11 against the COVID-19 Pandemic, originally scheduled closing date of the exhibition, June 13 had to be changed as shown above.

スイス出身のピピロッチェ・リスト(1962年生)は、1980年代からビデオを用いて女性の身体やジェンダー、自然をテーマとした作品を制作・発表、一貫して人間の眼を「血の通ったカメラ (blood-driven camera)」と呼び、身体的リアリティとテクノロジーの融合によって映像作品の可能性を拡張してきた。色彩豊かな映像と心地よい音楽が融合したマルチメディア・インスタレーションは、国や世代を超えて幅広い観客を魅了してきた。日本での個展としては13年ぶりとなる今回の展覧会は、近年収蔵した1990年代フェミニズムの記念碑的作品として知られるリストの代表作や、当館所蔵の陶芸作品とのコラボレーション作品を含むおよそ40点で構成され、約30年間の活動の全体像を本格的に紹介した。

美術館を「共用の居住空間/shared apartment」と語るリストの映像インスタレーションでは、鑑賞者はカーペットやソファ、ベッドでくつろぎながら鑑賞するスタイルをとる。コロナ禍の衛生管理上、展示室内では靴を脱ぐこととしたが、家で過ごすような気分を演出でき、多くの来場者から好



ポスターデザイン：岡崎真理子

Since the 1980s, Swiss-born Pipilotti Rist (b. 1962) has worked with video to produce and present works that focus on the female body, gender, and nature, consistently describing the human eye as a “blood-driven camera” and expanding the possibilities of video art through a fusion of physical reality and technology. Her multimedia installations, combining vividly colorful moving images with comforting, sensorially stimulating music, have charmed viewers of all ages throughout the world. Functioning as a complete overview of Rist’s approximately 30-year career, this exhibition, her first solo show in Japan in 13 years, consisted of some 40 works. These included one of her best-known pieces, recognized as a seminal work of feminist art in the 1990s, which was recently acquired by the museum, and a series of collaborations made by superimposing moving images on ceramics in the museum collection.

Rist equates a museum to a “shared apartment,” and visitors were invited to view her video installations while relaxing on carpets, sofas, and beds. For sanitary reasons relating to the COVID-19 pandemic, people were required to remove their shoes in these areas, but a cozy, home-like atmosphere was created and the works were positively received by numerous visitors. Through Rist’s humorous and playful immersive video experiences, the exhibition

評であった。リストのユーモアと遊び心あふれる没入型の映像体験を通して、コロナ禍における鑑賞者と美術館の関係を再構築するとともに、初めてリスト作品に触れる若年層の鑑賞者を開拓する格好の機会となった。また本展は、近年のジェンダーバランスについての美術館の意識変化を反映し、女性作家をより積極的に紹介するという世界的な機運とも合致していた。

あいにくコロナ禍による渡航制限のためスイスの作家チームの来日が叶わず、リモートで展示作業を行った。国内の映像技術チームの優れたスキルとチームワーク、そして作家との綿密なコミュニケーションによって無事に展示を完成させることができた。会期中は作家のインタビューやトーク映像、会場風景などオンライン上で閲覧できるコンテンツを充実させ、作品理解を促した。

なお、本展は京都会場終了後、水戸芸術館現代美術ギャラリーに巡回した。

(牧口千夏)

カタログ Exhibition Catalogue

2分冊：ヴィジュアルブック、テキストブック
 日本語、英語：1)ヴィジュアルブック17.5cm×26cm、178頁 2)テキストブック18.5cm×26cm、92頁
 図版 カラー70点；参考図版 カラー8点

収録論文等

「〈ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island〉展について」 牧口千夏
 「ピピロッチェ・リストの色鮮やかな世界」 カルヴィン・トムキンズ
 「水面下の愛」 マッシミリアーノ・ジオーニ

カタログVol.1：ヴィジュアルブック

編集：牧口千夏(京都国立近代美術館)、後藤桜子(水戸芸術館現代美術センター)
 編集補助：松山沙樹、福家梨紗、渡邊くらら(京都国立近代美術館)、影山侑恵、柴尾万葉、柴野倫子、山本幸子(京都国立近代美術館キュレトリアル・インターン)
 デザイン：岡崎真理子+後藤尚美

カタログVol.2：テキストブック

編集：牧口千夏、後藤桜子
 編集補助：松山沙樹、福家梨紗、渡邊くらら、影山侑恵、柴尾万葉、柴野倫子、山本幸子
 翻訳：クリストファー・スティヴンズ(和文英訳)、奥村雄樹(英文和訳)、ベンジャール・桂(英文和訳)
 デザイン：岡崎真理子+泉美葉子

印刷・製本：NISSHA株式会社
 -プリンティングディレクター：福本安男
 -印刷進行：和田智之
 発行：京都国立近代美術館

offered an excellent opportunity to restructure relationships between museums and viewers during the pandemic, as well as to reach younger viewers who were experiencing Rist’s work for the first time. The exhibition also reflected museums’ changing attitudes toward gender balance in recent years, in line with a global trend toward more active showcasing of women artists.

Unfortunately, due to travel restrictions resulting from the pandemic, the artist and her team were unable to come to Japan from Switzerland. However, thanks to the excellent skills and teamwork of the museum’s audiovisual team and close communication with the artist, the exhibition was successfully installed. During the exhibition period, there were enhanced offerings of online content such as interviews with the artist, videos of talks, and virtual tours of the show to promote understanding of Rist’s art.

(MAKIGUCHI Chinatsu)



会場風景(撮影：表恒匡)

【新聞記事】

京都：4月5日「現代映像アート、先駆者の伝言 痛烈に、鮮やかに女性の視線」（前芝直介）

京都：4月11日「ピピロッチェ・リスト展覧会 子らワークショップ プラごみ作品挑む」（北村哲夫）

毎日：4月14日「心の世界と外部をつなぐ ピピロッチェ・リスト展 京都」（執筆・写真：清水有香）

京都：4月17日「詩的映像・女性・エコ想起」（前芝直介）

赤旗：4月18日「アートなにちよう《ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island -あなたの眼はわたしの島-》京都国立近代美術館」

教育家庭：4月19日「ピピロッチェの30年間の活動を紹介」

大阪日日：4月27日「映像の中に漂う身体」（藤本流位）

朝日：5月11日「映像にユーモア 解放される私たち」（田中ゑれ奈）

京都：5月27日「体験できないような心地よさ」（林屋祐子）

神戸：5月29日「〈見る〉ことの意味 根源から問う 京都で《ピピロッチェ・リスト展》」（小林伸哉）

公明：6月2日「《ピピロッチェ・リスト》展 生きている実感の疑似体験」（藤田一人）

読売：6月3日「色彩 ユーモア たっぷり 現代美術家 リストの個展」（藤本幸大）

読売：6月3日(夕)「美術館の「舞台裏」発信」（藤本幸大）

産経：6月11日(夕)「映像 音楽 癒やしの空間」（T生）

京都：6月23日「オリジナルグッズ人気 京近美 ピピロッチェ・リスト展」

山陽：8月22日 アート逍遙「ピピロッチェ・リスト展 体の中を泳ぐ感覚」／中園：8月31日 アート逍遙「ピピロッチェ・リスト展 空間に溶け込む感覚に」（朝吹真理子）

日経：9月4日「映像に没入 五感を刺激」（窪田直子）

京都：12月18日「戦争、表現の自由…時代刻む」（前芝直介）

毎日：12月22日(夕)「関西の芸術 この1年 久保田成子ら女性作家に光」（清水有香）

朝日：12月28日(夕)「回顧2021 美術〈長期戦〉の創意工夫 関西でも」（田中ゑれ奈）

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース 〈見る〉No.514 (5-6月号)「プライヴェートとパブリックの境界を行き来する—ピピロッチェ・リストのフェミニン」（伊村靖子）

京都国立近代美術館ニュース〈見る〉No.515(7-8月号)「《ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island あなたの眼はわたしの島》—朝吹真理子さんに聞く」（編集・聞き手：牧口千夏、協力：一色事務所・一色與志子）

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年2月号 no.75 「ピピロッチェ・リスト：Your eye Is My Isalnad -あなたの眼はわたしの島-」

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年4月号 no.76 「ピピロッチェ・リスト：Your eye Is My Isalnad -あなたの眼はわたしの島-」

芸術新潮2021年4月号「番外編2 2021年、これだけは見ておきたい美術展 伝説の60年代からコロナ禍の現在まで 今年は貴重な海外現代作家展」

文教速報2021年4月19日 第2645号「京都国立近代美術館で開幕《ピピロッチェ・リスト》展」

文化庁広報誌ぶんかる(Web)2021年5月12日アートダイアリー079「ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island—あなたの眼はわたしの島—」（牧口千夏）

BAZAAR 2021年5月号No. 70 Recommended Exhibitions (Yoshio Suzuki)

GINZA 2021年5月号ISSUE 287「アーティストによるおしゃれマーチ」
SODA 2021年5月 SODA RECOMMEND ART 「コンセプトはリ

ビングルーム」（木谷節子）

ELLE 2021年5月「ピピロッチェ・リストのリビングへ」（Naoko Aono）

芸術新聞 The Art Newspapaer China 2021年5月第86期「皮洛蒂・瑞斯特：在影像中穿越身体的旅行」（王崇桥）

FIGARO 2021年6月No. 540 「やわらかく解きほぐされるフェミニズムと身体性。」

月刊コンフォルト2021年6月No. 179 「映像、空間、身体が展示室で溶け合う」（取材・文：渡辺未央）

芸術新潮2021年6月「ピピロッチェ・リストの感じる映像 撫で解き ほぐす」（撮影：筒口直弘／©Pipilotti Rist）

月刊 クーヨン 2021年6月「自然と人間の共生をうたうスイスの現代作家展」

men's FUDGE 2021年7月 Vol. 133 ART 「遊び心満載!靴を脱いで解きほぐされる『ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island -あなたの眼はわたしの島-』」

全国美術館会議2021年9月 Vol. 20 「関西は展覧会が元気だ。」（越智裕二郎）

美術手帖2021年2月27日「ピピロッチェ・リストの大規模個展が京都国立近代美術館で開催へ。初期作から最新作までを紹介」

ARTiT 2021年3月16日 おすすめ展覧会「ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island -あなたの眼はわたしの島- @ 京都国立近代美術館」

GIRL HOUYHNHM 2021年4月1日「当日必要なのは靴下と靴袋? ピピロッチェ・リストの大規模展覧会で新感覚なアート体験を。」

TOKYO ART BEAT 2021年4月5日フォトレポート「身体、女性、自然、エコロジー：京都国立近代美術館《ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island -あなたの眼はわたしの島-》展レポート」

Luhring Augustine 2021年4月6日 'Pipilotti Rist: Your Eye Is My IsLand'

美術手帖 2021年4月6日「日本国内の美術館では13年ぶり。ピピロッチェ・リストの大規模個展が京都国立近代美術館でスタート」

Pen 2021年4月12日「ピピロッチェ・リストの映像作品にどっぷり浸かれる展覧会が、京都でスタート」（Pen編集部）

JAPAN AIRLINES 2021年4月14日 'Pipilotti Rist Exhibition Your Eye is my Island'

VOGUE 2021年4月18日「ピピロッチェ・リストの展覧会が開催中。靴を脱いで作品鑑賞を。」

花椿 2021年4月26日「女性と身体をめぐる難題を解きほぐす眼球マッサージ」（文：住吉智恵）

BRUTSU 2021年5月1日 BRUTUSCOPE No. 938「ピピロッチェ・リストの回顧展が、京都で開催。」（撮影：Kunihiro Fukumori、テキスト：Mako Yamato）

Casa BRUTUS 2021年5月21日「ピピロッチェ・リストの夢の中のような空間が美術館に出現中!」（撮影：Kunihiro Fukumori、テキスト：Naoko Aono、編集：Keiko Kusano）

神戸新聞NEXT 2021年5月28日 動画「ピピロッチェ・リスト展 心地よく自由な映像体験 京都で6月20日まで」

Fika 2021年6月7日「様々な境界を曖昧に。ピピロッチェ・リストが起こすフェミニズム」（インタビュー・テキスト：島貫泰介、編集：宮原朋之）

美術手帖 2021年6月18日「隈研吾展からピピロッチェ・リスト展まで。今週末に見たい展覧会ベスト3」

美術手帖 2021年7月12日「〈しなやかさ〉を大きくはみ出す。中村史子評《ピピロッチェ・リスト》展」（文：中村史子）

artscape 2021年7月15日号「泳ぐ彼女を観るあなたの眼差しを寝そべるわたしが視てあげよう、叩き割ってあげよう。そして……—ピピロッチェ・リスト展に寄せて」（北野圭介）

Jodo Journal 3 2022年4月 特集:距離と創造性「作家不在の美術館で作られた『作品』たち」

モダンクラフトクロニクル —京都国立近代美術館コレクションより—

A Chronicle of Modern Crafts:
Works from the National Museum of Modern Art, Kyoto Collection

主催：京都国立近代美術館、京都新聞
会期：2021年7月9日(金)～8月22日(日)（37日間）
入場者数：9,119人(一日平均：246人)

※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のための臨時休館（4月25日～5月11日）により、当初開幕日2021年7月2日(金)が上記の通り変更となった。館内設備の点検補修等のため7月27、28日は臨時休館した。

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto, The Kyoto Shimbun
Dates: Friday, July 9 - Sunday, August 22, 2021
Visitors: 9,119 (246 per day)

*Due to the temporary closure from April 25 to May 11 against the COVID-19 Pandemic, originally scheduled opening date of the exhibition, July 2 had to be changed as shown above. Temporarily closed from July 27-28 for inspection and repair of facilities.

1963年に開館した当館は活動の柱の一つに工芸を置き、国内有数の工芸コレクションを形成してきた。本展では、当館の工芸コレクションを用いて、これまでの展覧会活動の一端を振り返るとともに、現代から過去へと近現代工芸史の主なトピックを取り上げながら七章立てで近代工芸の展開を300点近い作品を通じて紹介した。

第1章は「世界と出会う 起点としての京都国立近代美術館」と題して、当館の活動が日本の工芸界にどのような影響を与えたのかを過去の展覧会出品作とともに振り返った。第2章「四耕会、走泥社からクレイ・ワーク、ファイバー・ワークへ」では戦後の非実用的で多様な工芸表現を紹介した。第3章「[美術]としての工芸 第8回帝展前後から現在まで」では1927年に官展である帝展に組み込まれた工芸がその後、美術という制度の中でどのように展開したのかを、そして第4章では「古典の発見と伝統の創出」と題して、人間国宝を中心とした伝統工芸の世界を紹介した。第5章「新興工芸の萌芽 自己表現としての工芸」では大正期に登場する個人作家の仕事や、第6章では「図案の近代化 浅井忠と神坂雪佳を中心に」と題して工芸の近代化に向けた図案改良運動について紹介した。そして最終章となる第7章では「手わざの行方」と題して、明治の工芸を軸に工芸における精緻な手わざから生まれる造形世界を紹介した。時系列を遡る構成としたことで、多様にみえる現代の工芸表現の根幹へと来館者の意識を向けさせ、工芸



ポスターデザイン：
大向デザイン事務所(坂本佳子)

Crafts have always been one of the key areas of focus for the National Museum of Modern Art, Kyoto, which opened in 1963, and this emphasis has helped form one of Japan's premiere collections of crafts. This exhibition, which took a look back at some of the museum's major past exhibitions of crafts through works from the museum collection, consisted of seven sections that covered major topics in the history of modern and contemporary crafts from past to present, retracing the development of modern crafts through nearly 300 works.

The first section, titled “Encountering the World at The National Museum of Modern Art, Kyoto,” presented works featured in past exhibitions and looked back on the impact of the museum's activities on the Japanese craft world. Section 2, “From Shikokai and Sodeisha to Clay Work and Fiber Work,” presented a wide range of non-functional crafts from the post-World War II period. Section 3, “Crafts as Art: From the 8th Teiten Exhibition to the Present Day,” examined how crafts were incorporated into the official Teiten (Imperial Art Exhibition) in 1927 and how they developed within the Japanese art-world system, and the fourth section, “Rediscovery of the Classics and Creation of Tradition,” showcased the world of traditional crafts, with a focus on works by Living National Treasures. Section 5, “A New Dawn for Crafts as a Form of Self-Expression,” presented works by independent crafts creators from the Taisho Era (1912-1926), while Section 6, “Modernization of Design, Led by Asai Chu and Kamisaka Sekka,” highlighted the movement to improve design quality and modernize the crafts field. The seventh and final section, “Hand-Crafting, Then and Now,” introduced the world of artistic expression

表現には変わることなく「手わざ」と「素材美」が存在することを明らかにすることができた。

(大長智広)

that emerged from the exquisite hand-crafting techniques of the Meiji Era (1868-1912). A chronological structure helped to direct visitors' attention to the common roots of diverse contemporary crafts, and to reveal that hand-crafting and the beauty of materials have always been common threads in crafts and endure to this day.

(DAICHO Tomohiro)

カタログ Exhibition Catalogue

なし
※展覧会に合わせて『京都国立近代美術館所蔵作品目録XIII [工芸]』を発行
日本語、英語：29.7×21.0 cm、440頁
図版 カラー3,335点

収録論文等
「京都国立近代美術館工芸コレクションについて」大長智広

編集：大長智広、平井啓修、池田祐子、渡邊くらら、高見澤なごみ、福家梨紗(京都国立近代美術館)
執筆：大長智広
翻訳：クリストファー・スティヴンズ
デザイン：大向デザイン事務所(大向務+坂本佳子+吉澤七海)
印刷：能登印刷株式会社
発行：京都国立近代美術館

鑑賞ガイド Self Guide

「モダンクラフトクロニクル 京都国立近代美術館コレクションより 鑑賞のおとも」
日本語：21 x 59 cm、蛇腹折り
図版 カラー14点、無料配布

執筆・編集：大長智広、松山沙樹(京都国立近代美術館)
デザイン：坂本佳子(大向デザイン事務所)
印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社
発行：京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】
京都：7月5日「所蔵品が語る工芸史」(前芝直介)
京都：8月5日「多様な表現の中で工芸を考える」(林屋祐子)
京都：8月7日「欧米に触れた衝撃、起点に」(前芝直介)
朝日：8月17日(夕)「美術と溶け合う 工芸の近代化」(加藤義夫)
京都：11月4日「図録物語 工芸作品 混ざり合う感覚」(林屋祐子)

【雑誌記事その他】
京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 515 (7-8月号)「近代美術館における工芸コレクションの形成—1960年代～80年代」(中ノ堂一信)
京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 516 (9-10月号)「近代工芸の行き先—「モダンクラフトクロニクル」展によせて」(前崎信也)
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年4月号 no. 76「モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—」
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年6月号 no. 77「モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—」
文教速報2021年7月16日 第9009号「京近美がモダンクラフト展」
炎芸術2021秋 No. 147「展覧会スポットライト モダンクラフトクロニクル 京都国立近代美術館コレクションより」(大長智広)

美術京都2022年3月 No. 53「巻頭エッセイ《クラフト展》会場から」(福永治)



会場風景(撮影：守屋友樹)

443 共催展

発見された日本の風景 美しかりし明治への旅

Japanese Landscapes Discovered: Views from and for the Outside World

主催：京都国立近代美術館、毎日新聞社、NHK京都放送局
会期：2021年9月7日(火)～10月31日(日) (48日間)
入場者数：17,614人(一日平均：367人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto; The Mainichi Newspapers; NHK Kyoto Station
Dates: Tuesday, September 7 - Sunday, October 31, 2021
Visitors: 17,614 (367 per day)



ポスターデザイン：シルシ (SHIRUSHI DESIGN FACTORY) 上田英司

日本近代の始まりの時代である「明治」は1868年から1912年までの44年間。その始まりから150年を超え、その終わりから110年を数えつつあった2021年、その明治という時代を、当時の油彩画・水彩画を通して、そしてそこに描かれた風景・風俗を通して旅してみようと企画したのが本展覧会である。

19世紀後半はヒトやモノが国境を越えて流動した時代であり、そうした世界情勢の中へ急に投げ込まれた日本も、西洋諸国からさまざまな文物や人々を迎え入れ、一大変革を経験した。もちろん美術も例外ではなかったが、西洋式の画法で制作された当時の絵画には、むしろ変わる前の日本の風景や風俗が記録されたという面もあった。西洋から日本へ来た画家たちは西洋とは異なった日本の文化や自然に興味を抱き、その様子や印象を絵にしたが、日本人の画家たちもまた西洋人から学んだ画法で、自分たちの生活や環境を描いた。それは西洋の画法とともに西洋人の「眼」を学ぼうとした日本人たちの、自己の再発見でもあったろう。

本展覧会では明治の日本を描いた当時の油彩画・水彩画をご覧いただいたが、出品作品は全て美術コレクター高野光正氏が一代で収集したもので、永年にわたり綿密な調査を重ね、海外で発見し、日本へ帰郷させて築いたコレクションであるという点でも極めて意義深く、このこと自体が現代日本の美術界にとって失われた自己の再発見になったといえる。

(梶岡秀一)

The Meiji Era, the dawn of the modern age in Japan, lasted 44 years, from 1868 to 1912. In 2021, more than 150 years after the beginning and 110 years after the end of that era, this exhibition was planned as a journey through the oil and watercolor paintings of the time and the landscapes and customs depicted in them.

The late 19th century was a time of great mobility of people and goods across national borders, and Japan, having suddenly become part of a world in flux after the opening of its borders, experienced a massive transformation as it took in a wide variety of cultural products and people from Western countries. Of course art was no exception, but while paintings of the time were created using Western-style painting methods, they were in some ways a record of Japan's pre-modern landscape and customs. While Western artists who came to Japan took an interest in the country's culture and natural scenery, which differed from those of the West, and captured their impressions of these aspects in paint, Japanese painters also depicted their own lifestyles and environments using techniques learned from Western people. This was surely a time of self-rediscovery for the Japanese, who sought not only to absorb overseas painting methods but also to internalize the Western gaze.

This exhibition featured oil and watercolor renderings of Japan in the Meiji Era, all of which were acquired by the art collector Takano Mitsumasa during his lifetime. This collection is highly significant in that it is the outcome of many years of meticulous research, discoveries of artworks overseas, and the return of these items to Japan, and from the perspective of the present-day Japanese art world, this in itself can be seen as a rediscovery of lost identity.

(KAJIOKA Shuichi)

カタログ
Exhibition Catalogue

日本語、英語：29.7×22.7 cm、214頁
図版 カラー286点；参考図版モノクロ4点

収録論文等

- 「西洋人に見出された明治期の日本」山梨絵美子
- 「子守の子供イメージ 外から見るか、内から見るか」梶岡秀一
- 「中川八郎、その芸術とありよう」喜安 嶺
- 「描かれた日光と五百城文哉」田中正史

編集：梶岡秀一(京都国立近代美術館)、毎日新聞社
編集補助：福家梨紗(京都国立近代美術館)
執筆：山梨絵美子(千葉市美術館)、梶岡秀一、喜安嶺(愛媛県庁)、田中正文(長野県立美術館)、志賀秀孝(府中市美術館)
翻訳：ベス・ケーリ
デザイン：角田美佐子、高橋美瑛(ニューカラー写真印刷)
制作・印刷：ニューカラー写真印刷株式会社
発行：毎日新聞社

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】

- 毎日：9月2日「文化伝える新鮮な〈目〉」(清水有香)
- 毎日：9月7日「日本の風景〈再発見〉きょうから企画展」(谷田朋美)
- 毎日：9月9日「発見された日本の風景 作品紹介① 美しさ 外国人を魅了」(梶岡秀一)
- 毎日：9月11日「発見された日本の風景 作品紹介② 劇的な表現 今も新鮮」(梶岡秀一)
- 毎日：9月12日「発見された日本の風景 作品紹介③ 花満ちる庭園に感動」(梶岡秀一)
- 朝日：9月21日(夕)「明治日本 ノスタルジーの旅」(西田理人)
- 京都：9月25日「美しかりし明治への旅展 西洋介し〈風景〉発見」(前芝直介)
- 大阪日日：9月28日「〈発見された日本の風景—美しかりし明治への旅〉展 欧米に残された異国ニッポンのイメージ」(末永航)
- 毎日：9月29日(夕)「交錯する国内外の眼差しと欲望」(小林公)
- 週間 京都市報：10月3日「西洋人の〈眼〉に学び描いた日本」(白沢正)
- 読売：10月9日(夕)「明治の風景 西洋のまなざし 新鮮な美 日本人画家を触発」(浪川知子)
- 産経：10月12日「絵画が誘う 明治の旅」(秋山紀浩)
- 赤旗：10月15日「欧米が求めた極東の理想」(林哲夫)

【雑誌記事その他】

- 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 516(9-10月号)「〈発見された日本の風景 美しかりし明治への旅〉によせて」(山梨絵美子)
- 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 517(11-12月号)「発見された明治の風景」(内呂博之)
- 京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年8月号 no. 78「発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」
- 和楽 2021年8・9月号 No. 199 Column「外国人画家が描いた、これも日本美術!？」
- 文化庁広報誌ぶんかる(Web)2021年9月13日アートダイアリー084「発見された日本の風景 美しかりし明治への旅」(梶岡秀一)
- 文教ニュース2021年9月20・27日 第2667・68合併号「京近美で開幕《発見された日本の風景 美しかりし明治への旅》展」
- 文教速報2021年9月22日 第9033号「～美しかりし明治への旅～京近美《発見された日本の風景》展が開幕」
- 日本歴史2021年10月号 第881号「2021年度後期 全国博物館企画展案内」
- 芸術新潮2021年11月「REVIEW編集部が展覧会見て歩き 水彩の明治維新、または絵筆の日英同盟」

- 産業新潮2021年12月 No. 828「シリーズ ミュージアム：京都国立近代美術館」
- Pen 2021年8月18日「外国人の目線で明治の日本を描いた《発見された日本の風景 美しかりし明治への旅》が開催」(荒井貴彦)
- Lmaga.jp 2021年8月29日「明治の日本へタイムスリップ? 古き良きルーツを再確認」(小吹隆文)
- アートの森 2021年9月2日「《発見された日本の風景 美しかりし明治への旅》文化伝える新鮮な〈目〉」(清水有香)
- もしもしっぼん 2021年9月14日「京都国立近代美術館にて《発見された日本の風景 美しかりし明治への旅》展示中」
- eTOKI 2022年3月28日「まだ見ぬ色鮮やかな〈江戸〉の風景」(三木学)



会場風景(撮影：河田憲政)

444 共催展

上野リチ：
ウィーンからきたデザイン・ファンタジー

Felice [Lizzi] Rix-Ueno: Design Fantasy Originating in Vienna

主催：京都国立近代美術館、朝日新聞社、関西テレビ放送
後援：オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム
協賛：ダイキン工業、竹中工務店
特別協力：MAK－オーストリア応用芸術博物館／現代美術館、ウィーン
会期：2021年11月16日(火)～2022年1月16日(日) (49日間)
入場者数：36,122人(一日平均：737人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto; The Asahi Shimbun; Kansai Television Co., Ltd.
Support: Austrian Embassy Tokyo, Austrian Cultural Forum Tokyo
Sponsorship: DAIKIN INDUSTRIES, LTD., Takenaka Corporation
Special Cooperation: MAK – Museum of Applied Arts, Vienna
Dates: Tuesday, November 16, 2021 - Sunday, January 16, 2022
Visitors: 36,122 (737 per day)



ポスターデザイン：西岡勉

本展は、ウィーンと京都で活躍したデザイナー、上野リチ・リックス (Felice [Lizzi] Rix-Ueno, 1893-1967) の世界で初めての包括的な回顧展として開催された。

展覧会では、まずプロローグで愛用のマントやスケッチブック、数多くのポートレートを展示することで、これまで一般にはほとんど知られていなかったリチという人間を身近に感じてもらえるよう工夫し、その後時系列で彼女の経歴を追うこととした。第1章では、リチが学んだウィーン工芸学校と活躍の場となったウィーン工房について、教師や同僚たちの作品も加えて、彼女の制作とその背景を詳しく紹介した。第2章では、ウィーンさらにはリチ自身と日本(美術)との関係性に注目し、ウィーンそして、建築家・上野伊三郎との結婚を機に移り住んだ京都という二つの都市を往来しながらデザイナーとして活動を続けた軌跡を追った。第3章では、京都市染織試験場での仕事を中心に、第二次世界大戦中から戦後にかけての豊かな仕事を、教師として勤めた京都市立芸術大学の学生たちとともに手がけたレストラン「アクトレス」の壁画を含む多彩な作品によって紹介した。エピローグでは、リチのデザインが、彼女の没後も人々を魅了していた事例を示した。本展の目的は、第一に上野リチに関する総合的情報を提示することにあったが、それによってこれまで等閑視されてきた20世紀モダンデザインにおける女性デザイナーの活躍とその重要性を明らかに

This exhibition was the world's first comprehensive retrospective of the work of Felice [Lizzi] Rix-Ueno (1893-1967), a designer active in Vienna and Kyoto.

It began with a prologue that included Lizzi's favorite cloak, her sketchbooks, and a number of portraits, giving visitors a sense of familiarity with a designer hitherto largely unknown to the general public. This was followed by a chronological survey of her work. The first section showcased in detail the context of her practice, in part by displaying works by teachers and colleagues at School of Applied Arts Vienna where she studied and the Wiener Werkstätte (Vienna Workshops) where she worked. The second section focused on Vienna's, and Lizzi's, relationship to Japan and Japanese art, and traced her activities as a designer who divided her time between Vienna and Kyoto, where she moved after her marriage to architect Ueno Isaburo. The third section explored the rich variety of her work during and after World War II through a variety of projects, including a mural for the restaurant Actress created with her students from the Kyoto City University of Arts, and with an emphasis on her work with the Kyoto Municipal Textile Research Institute. The exhibition's epilogue offered examples of how Lizzi's designs continued to fascinate people even after her death. The purpose of this exhibition was first and foremost to present a comprehensive picture of Felice [Lizzi] Rix-Ueno, but it also aimed to highlight more broadly the activities and significance of female designers in 20th-century modern design, which have unfortunately been neglected until now.

After the exhibition closed in Kyoto, it traveled to the Mitsubishi Ichigokan Museum, Tokyo, from February 18 to May 15, 2022, and both venues received far more visitors than expected. The

することも目指した。

本展は、当館終了後、2022年2月18日から5月15日まで三菱一号館美術館へと巡回し、両会場において予想を大きく上回る入場者を迎えることができた。また、展覧会図録も4刷を記録し、本展開催は結果として、上野リチとそのデザインが広く認知・評価されることに大きく寄与したと言える。
(池田祐子)

exhibition catalogue has gone into its fourth printing, and it is safe to say that the exhibition contributed greatly to the wider recognition and appreciation of Felice [Lizzi] Rix-Ueno and her design.
(IKEDA Yuko)

新美術新聞2022年2月21日 No. 1592「上野リチ 京都で活躍したウィーン工場のスターデザイナー」（阿佐美淑子）
家庭画報特選きものサロン2022年春夏号「上野リチーウィーンと京都で花開いた〈ファンタジー〉の名手」（構成・文：森内千鶴）
週刊京都民報 2022年5月29日(日) 3032号「書評『マイ・ファースト・リチ 上野リチのデザイン』軽やかに羽広げる鳥たち」（並木誠士）
ぶらぶら美術・博物館 プレミアムアートブック 2022-2023「上野リチ ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」
FASHIONSNAPO.COM 2021年6月13日「ウィーンと京都で活躍したデザイナー上野リチ、世界初の大規模回顧展を開催」
FASHION PRESS「上野リチの大回顧展が京都&東京で - ウィーンと京都で活躍したデザイナー、色彩豊かなその世界の全貌」
美術手帖2021年10月24日「世界初の大規模回顧展が開催。ウィー

ンと京都で生きたデザイナー・上野リチとは何者か?」（編集部）
ARTiT 2021年11月10日「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー@京都国立近代美術館」
アイエム(Internet Museum)2021年11月15日「豊かな色彩と創造力、上野リチの魅力を紹介 ― 京都国立近代美術館」
Lmaga.jp 2021年11月24日「京都で活躍したデザイナー・上野リチ、世界初の包括的回顧展」（取材・文・写真一部：沢田眉香子）
美術展ナビ2021年11月26日「開幕レビュー《上野リチ》激動の時代にウィーンと京都で活躍した女性デザイナーの生涯をたどる 京都国立近代美術館で来年1月16日まで」（三間有紗）
AMeeT(ウェブ) 2022年2月5日「上野リチ:ウィーンから来たデザイン・ファンタジー」（松尾恵）

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語：22.9×19.0cm、339頁
図版 カラー370点；参考図版 モノクロ28点

収録論文等

「上野リチ・リックス：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」池田祐子
「上野リチ・リックス：ウィーン工房唯一無二のアーティスト」アンネ=カトリン・ロスベルク
「上野リチ・リックス：内在するジャポニスム」阿佐美淑子

編集：池田祐子(京都国立近代美術館)、阿佐美淑子(三菱一号館美術館)、宮川智美(京都国立近代美術館)
編集協力：木村しのぶ(福本事務所)
執筆：池田祐子、アンネ=カトリン・ロスベルク(MAKーオーストリア応用芸術博物館／現代美術館)、阿佐美淑子、本橋仁(京都国立近代美術館)、宮川智美
翻訳：マーティ・イエリネク(和文英訳)、ベス・ケーリ(和文英訳)、ニヴェネ・ラトファ(独文英訳)、池田祐子(独文和訳)
デザイン：西岡勉
印刷：株式会社ライブアートブックス
発行：朝日新聞社

TV・ラジオ関係放送 TV, Radio

関西テレビ「ピーチケパーチケ」：12月2日午前1時25分～1時55分「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」（出演：池田祐子）
FM COCOLO Breeze on Sunday：12月12日午前9時～11時「YaGi-NoMe」

NHK 日曜美術館：12月19日午前9時～9時45分「カワイイの向こう側 デザイナー・上野リチ」（出演：池田祐子）

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

朝日：11月13日「花や鳥 優しくリズムカル」（西田理人）
朝日：11月16日「上野リチ展 きょう開幕」（撮影：筋野健太）
朝日：11月16日(夕)「京都・ウィーンで活躍のデザイナー 上野リチ展が開幕」（撮影：飯塚晋一）
読売：12月2日(夕)「上野リチ 不朽のファンタジー」（浪川知子）
毎日：12月11日(夕)「京都 上野リチ展 息づく花鳥 ウィーン出身女性」（清水有香）
読売：12月14日「上野リチ 鮮やかなデザイン」
京都：12月18「五感でとらえ再構築」（前芝直介）

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 517(11-12月号)「上野リチとリチの協働について」（笠原一人）
京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 518(1-2月号)「上野リチ展：デザイン・ファンタジーの輝きと強さ」（角山朋子）
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年8月号 no. 78「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」
京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年10月号 no. 79「上野リ

チ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」
[完全ガイドシリーズ338] 美術展完全ガイド2022 2021年11月27日「最注目美術展PICK UP27上野リチー今も受け継がれる20世紀の新しいデザイン 海を渡ったデザイナーの大回顧展」
文教ニュース2021年11月29日 第2677号「ウィーンからきたデザイン 京近美で《上野リチ》展開幕」
美術の窓2021年12月 No. 459「上野リチ ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」（池田祐子）
芸術新潮2021年12月号「京都のウィーン 上野リチを知っていますか?」（構成・文：矢部智子）／「押し展in 2022 ナカムラクニオx橋本麻里x保坂健二朗」（撮影：筒口直弘）
月刊MOE 2021年12月号「上野リチ 夢と憧れのデザイン」（編集協力：内山さつき）／「リチのデザインに魅せられた人々」（竹中洋二・聡子、名久井直子）
日経おとなのOFF 2022年1月号 臨時増刊No. 487「(総合芸術)を日本で開花させた上野リチ」（Adviser：池田祐子、文：坂本裕子）
産業新潮2021年12月 No. 828「シリーズ ミュージアム：京都国立近代美術館」
隔月刊COMFORT 2022年2月 No. 18「境界を軽やかに横断した稀有なデザイナー」（取材・文：平塚桂 [ぼむ企画]）



会場風景(撮影：表恒匡)

新収蔵記念： 岸田劉生と森村・松方コレクション

Commemorative Exhibition of New Acquisition
KISHIDA Ryusei and the Morimura & Matsukata Collection

主催：京都国立近代美術館、毎日新聞社、京都新聞、NHK京都放送局
助成：一般財団法人きょうと視覚文化振興財団
会期：2022年1月29日(土)～3月6日(日) (32日間)
入場者数：19,322人(一日平均：604人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto; The Mainichi Newspapers; The Kyoto Shimbun; NHK Kyoto Station
Grant: Kyoto Foundation for Visual Culture
Dates: Saturday, January 29 - Sunday, March 6, 2022
Visitors: 19,322 (604 per day)



ポスターデザイン: シルシ (SHIRUSHI DESIGN FACTORY) 上田英司

当館は2021年3月、日本近代美術を代表する作家である岸田劉生(1891-1929)の作品42点を一括収蔵した。当館が保管する彼の作品は、寄託作品を加えて55点に及ぶこととなった。その全貌をご覧いただいたのが本展覧会である。

新収蔵の劉生作品は、油絵画・水彩画・素描・日本画・版画・彫刻の各分野にまたがるだけでなく、自画像・肖像画・宗教画・風景画・静物画・風俗画(芝居絵)など各領域を網羅し、画業の初期から晩期まで各時期の代表作を含む。中でも京都在住時代の代表作《舞妓図》があることは意義深い。これらだけでも彼の画業全体を展望することができるほどである。来歴にも意義がある。もともと当館が収蔵していた劉生作品のうち6点は彼の生前の支援者だった芝川照吉の旧蔵だが、新収蔵作品の多くは、かつて劉生歿後の顕彰に尽力した松方三郎とその兄森村義行の旧蔵として知られていた。当館の劉生コレクションは、作家・作品の評価と再評価における支援者の役割の大きさを物語る事例にもなっている。

本展覧会では、劉生の作品に加えて、森村・松方兄弟旧蔵の浮世絵や西洋絵画などとともに芝川照吉旧蔵の日本近代洋画コレクションの一部も併せて展示することにより、劉生の生涯と画業の流れの中で作品を味わっていただくとともに、支援者の「眼」にも思いを馳せていただけるように構成した。京都在住時代の彼の行動範囲を明らかにした点も今回の特色の一つとなった。

(梶岡秀一)

In March 2021, the National Museum of Modern Art, Kyoto acquired a group of 42 works by the painter Kishida Ryusei, bringing the total number of his works in the museum collection to 55, including those entrusted to the museum. An exhibition commemorating this acquisition offered a complete overview of the artist's career.

The newly acquired works by Ryusei are diverse not only in terms of media (oil painting, watercolor, drawing, Japanese-style painting, printmaking, sculpture) but also in terms of subject, including self-portraits, portraits, religious paintings, landscapes, still lifes, and genre paintings depicting the theater. Of particular significance is Portrait of Maiko, Satoyo, a painting emblematic of his years in Kyoto. These works alone might suffice to provide a well-rounded overview of his entire career, and their provenance is also of interest. Six of Ryusei's works already in the museum's collection were formerly owned by Shibakawa Terukichi, a patron of the artist, while many of the works in the new collection formerly belonged to Matsukata Saburo and his brother Morimura Yoshiyuki, who made great efforts to promote Ryusei's reputation after his death. The museum's collection of Ryusei's works is a testament to the role of patrons in establishing artists' careers and furthering reappraisal of their achievements.

In addition to works by Ryusei, this exhibition also included ukiyo-e, Western paintings and other works from the collections of the Morimura and Matsukata brothers, as well as a portion of Shibakawa's collection of modern Japanese Western-style paintings. The exhibition was designed to give visitors a sense of the overall arc of Ryusei's artistic career as well as a chance to reflect on the importance of the patron's eye. Another distinctive feature of the exhibition was that it revealed the scope of Ryusei's activities while he was living in Kyoto.

(KAJIOKA Shuichi)

カタログ Exhibition Catalogue

※展覧会公式カタログとして新潮社(とんぼの本)より『京都国立近代美術館のコレクションでたどる 岸田劉生のあゆみ』を発行
日本語：21.5×16.5cm、127頁
図版 カラー77点; 参考図版 カラー15点、モノクロ34点

収録論文等

- 「劉生の道程」梶岡秀一
- 「コレクターとパトロン—京都国立近代美術館の劉生コレクションの成り立ち」梶岡秀一
- 「京都劉生聖地巡礼案内」梶岡秀一
- 「劉生が麗子像に託したもの」岸田夏子

執筆：梶岡秀一(京都国立近代美術館)、岸田夏子
ブックデザイン：岡本洋平(岡本デザイン室)
シンボルマーク：nakaban
印刷：大日本印刷株式会社
製本：加藤製本株式会社
発行：株式会社新潮社

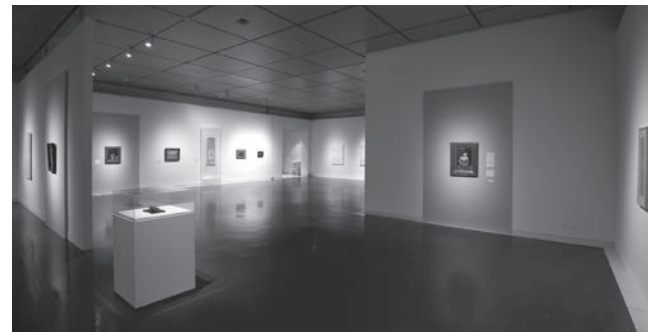
新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

- 京都：1月20日「麗子に理想の人間像重ね 父と娘 深い信頼関係」(林屋祐子)
- 中外日報：1月21日「イベントガイド」
- 毎日：1月26日「《麗子像》《舞妓》たどる変遷 居住地ごとに章立て」
- 京都：1月28日「〈内なる美〉歩み一望」(前芝直介)
- 京都：1月29日「岸田劉生の京都生活 南禅寺の湯豆腐」(梶岡秀一)
- 京都：1月29日「岸田劉生 画業たどる80点」(前芝直介)
- 毎日：1月30日「劉生画業の流れたどる」
- 読売：1月30日「岸田劉生 画業たどる」
- 毎日：2月3日「自信に満ちた表情 作品紹介①」(梶岡秀一)
- 京都：2月6日「岸田劉生の京都生活 錦市場の冬瓜」(梶岡秀一)
- 毎日：2月7日「世界で最愛の存在 作品紹介②」(梶岡秀一)
- 毎日：2月10日「劉生 自画像に見る魅力」(南陽子)
- 読売：2月10日(夕)「岸田劉生画家人生たどる 西洋から東洋美術へ独自の探求」(持丸直子)
- 毎日：2月11日「劉生の美学を象徴 作品紹介③」(梶岡秀一)
- 京都：2月12日「良質の収集 画業を一望」(前芝直介)
- 京都：2月15日「劉生の京都生活 祇園祭の見物」(梶岡秀一)
- 朝日：2月15日(夕)「岸田劉生の生涯 じっくりと まな娘麗子の肖像画など50点」(田中ゑれ奈)
- 京都：2月16日「岸田劉生、京での素の日常」(内田孝)
- 京都：2月17日「突き詰めた人間の本質」(林屋祐子)
- 産経：2月17日「岸田劉生 画風の変遷たどる」(秋山紀浩)
- 毎日：2月26日「内なる美の表現探求」

【雑誌記事その他】

- 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 518(1-2月号)「〈壺〉幻視—新収蔵の岸田劉生《壺》を契機として—」(吉田暁子)
- 京都国立近代美術館 友の会ニュース 2021年10月号 no. 79「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」
- 京都国立近代美術館 友の会ニュース 2022年1月号 no. 80「新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション」
- 和楽2021年8・9月号 No. 199「次は私の個人的“推し”を見に来てください! 麗子弾絃図 岸田劉生」(梶岡秀一)
- 芸術新潮2021年12月号「麗子像も、マリア像も自画像も“新入り”劉生42点のお目見え。」／「推し展in 2022 ナカムラクニオキ橋本麻里x保坂健二郎」
- Iru Miru 2022年1月29日-2月4日 vol. 092「あたらしい劉生、お披露目です。画業を一望する大コレクション」
- 新美術新聞2022年2月1日 No. 1590「画業を一望する大コレクション」(梶岡秀一)
- 文教ニュース2022年2月7日 第2686号「京都国立近代美術館で開幕 新収蔵記念《岸田劉生》展」
- 文教速報2022年2月9日 第9087号「京近美、《岸田劉生》展が開幕」
- 美術の窓2022年3月 No. 462「岸田劉生の絵画における〈内なる美〉と質感の表現」(梶岡秀一)
- note 2022年2月26日 【美術ブックリスト】梶岡秀一・岸田夏子『京都国立近代美術館のコレクションでたどる 岸田劉生のあゆみ』(西村秀俊)
- 美術館ナビ 2022年2月15日 【開幕レビュー】岸田劉生の多彩な画業を収蔵コレクションで振り返る《新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション》京都国立近代美術館で3月6日まで(三間有紗)



会場風景(撮影：河田憲政)

サロン! 雅と俗—京の大家と知られざる大坂画壇

Salon Culture and the Pictorial Arts of Kyoto and Osaka

主催：京都国立近代美術館、朝日新聞社
 特別協力：大阪歴史博物館
 協賛：関西大学アジア・オープン・リサーチセンター(KU-ORCAS)、一般財団法人きょうと視覚文化振興財団
 会期：2022年3月23日(水)～5月8日(日) (42日間)
 入場者数：11,740人(一日平均：280人)

Organizer: The National Museum of Modern, Kyoto, The Asahi Shimbun
 Special Cooperation: Osaka Museum of History
 Sponsorship: Kansai University Open Research Center for Asian Studies, Kyoto Foundation for Visual Culture
 Dates: Wednesday, March 23 - Sunday, May 8, 2022
 Visitors: 11,740 (280 per day)



ポスターデザイン：坂本佳子(大向デザイン事務所)

江戸時代から近代にかけて、京都、大坂(大阪)、江戸は日本を代表する重要な都市であり、文化面でも活発な活動が見られた。しかしながら、京都画壇や江戸(東京)画壇を紹介する展覧会は数多くあるにもかかわらず、大坂(大阪)画壇に関してはほとんど紹介される機会がなかったため一般にはあまり知られていない。そこで、本展では江戸時代から近代にかけて、京都と大坂で活躍した画家の代表作を含めた計239件の作品を紹介するとともに、その交流によって形成された文化サロンにも焦点を当てることで、当時の文化交流の様相に迫る内容とした。

第1章で与謝蕪村《夜色楼台図》(国宝)、池大雅《東山清音帖》(重文)、伊藤若冲《乗興舟》などの京都画壇の代表作を紹介し、第2章では合作や賛のある作品を中心に交友関係を示す作品を展示した。第3章では大坂(大阪)画壇の代表作や優品など120件を超える作品を展示し、大坂(大阪)画壇をまとまった形で紹介する初めての機会となった。

本展は、大英博物館、ロンドン大学SOAS、関西大学アジア・オープン・リサーチセンター(KU-ORCAS)、京都国立近代美術館が中心となって、さまざまな専門分野の研究者と共同で行ってきた研究を基盤としたもので、国際的な視野に立って京・大坂の美術を通覧する初めての大規模な展覧であり、大英博物館から出品された20件の作品はその多くが日本初展示であった。

図録には17名の研究者によるエッセイを収録し、落款集、系譜図、相関図、約200名の人物略伝を掲載して、京・大坂(大阪)画壇研究の基礎文献を更新するものとして好評を博した。

(平井啓修)

From the Edo Period (1603-1868) through modern times, Kyoto, Osaka, and Edo (present-day Tokyo) were Japan's key urban areas, and all were bustling with cultural activity. However, while many exhibitions have focused on the Kyoto and Edo (Tokyo) art worlds, the Osaka art world is not well known to the general public as it has rarely been showcased in this way. With this in mind, this exhibition presented a total of 239 works, including important paintings by artists active in Kyoto and Osaka from the Edo Period to the modern era, and also shed light on the cultural salons that were formed as a result of these exchanges, offering insights into the cultural exchanges of the time.

Part 1 presented masterworks of the Kyoto art world including Yosa Buson's Snowclad Houses in the Night (a National Treasure), Ikeno Taiga's Clear Sounds over the Eastern Hills (an Important Cultural Property), and Ito Jakuchu's Impromptu Pleasures Afloat [Jokyoshu]. Part 2 featured works that illustrate friendships among the artists, with a focus on collaborative works and those with dedications, and Part 3 showcased more than 120 items including important and outstanding works from the Osaka art world, an unprecedented opportunity to introduce the Osaka art world in a cohesive manner.

The exhibition was based on joint research conducted over the three preceding years in collaboration with specialists in a wide range of fields at the British Museum, SOAS University of London, and Kansai University Open Research Center for Asian Studies (KU-ORCAS). It was a large-scale survey of the art of Kyoto and Osaka from an international perspective, and many of the 20 works from the British Museum were shown for the first time in Japan.

The exhibition catalogue contains essays by 17 researchers as well as a collection of signatures and seals, genealogical charts, correlation diagrams, and biographical information on approximately 200 individuals, and has been well received as a significant advance in essential scholarship on the art worlds of Kyoto and Osaka.

(HIRAI Yoshinobu)

カタログ Exhibition Catalogue

なし
 日本語、英語：28.5×21.7cm、393頁
 図版 カラー239点；参考図版 モノクロ255点

収録論文等

「風雅な便り—俳諧摺物と芸能」アンドリュー・ガーストル
 「大坂と京の画家たちの交流—新しい近世近代絵画史研究を目指して」中谷伸生
 「床の間の美学—西山芳園・完瑛に見る浪華情緒」明尾圭造
 「円山・四條「派」について」ティモシー・T・クラーク
 「明治期のサロンと共同制作の絵画」ロジーナ・バックランド
 「京坂の文化人たちの接点—江戸時代から明治時代にかけての事例」平井啓修
 「文化ネットワークの育成—京の狂歌師・書肆、文屋茂喬を例に」エリス・ティニオス
 「来章が俳句にあてて描いた絵、のちに来章の四季絵にあてられた俳句」スコット・ジョンソン
 「場の感覚—上方絵師の描く京都」アルフレッド・ハフト
 「絵師と摺物—文化ネットワークの手がかり」矢野明子
 「海保青陵(1755-1817)」ミハエル・キンスキー
 「街道インフラの恩恵 画人・文人・大津絵」横谷賢一郎
 「絵画制作における題材の貸借を証する羅漢図—米山人と梅屋の交友として」松浦清
 「福原五岳の来坂と詩文」岩佐伸一
 「文人画壇の交流の構造と意味」ポール・ベリ
 「海運が広げた文人文化—泉州食野一統の活躍」高松良幸
 「“大阪イズム”大阪画壇の復権と特質」橋爪節也

編集：平井啓修(京都国立近代美術館)
 エッセイ執筆：明尾圭造(大阪商業大学)、岩佐伸一(大阪歴史博物館)、アンドリュー・ガーストル(ロンドン大学SOAS名誉教授)、ミハエル・キンスキー(フランクフルト大学)、ティモシー・T・クラーク(大英博物館)、スコット・ジョンソン(関西大学名誉教授)、高松良幸(静岡大学)、エリス・ティニオス(リーズ大学名誉講師)、中谷伸生(関西大学名誉教授/一般財団法人きょうと視覚文化振興財団)、橋爪節也(大阪大学)、ロジーナ・バックランド(大英博物館)、アルフレッド・ハフト(大英博物館)、平井啓修、ポール・ベリ(日本美術史家)、松浦清(大阪工業大学)、矢野明子(大英博物館)、横谷賢一郎(大津市歴史博物館)
 翻訳：まい子・ベア
 デザイン：坂本佳子、吉澤七海(大向デザイン事務所)
 印刷：能登印刷株式会社
 発行：京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

読売：3月31日(夕)「集う才能 大阪画壇に光」(測上り子)
 産経：4月8日(夕)「近世から近現代 京都画壇見比べ」(T生)
 京都：4月9日「作品が示す豊かな交流」(前芝直介)
 京都：4月28日(夕)「〈大阪文化〉脚光」(内田孝)
 毎日：7月2日(夕)「大規模展機に光〈大阪画壇〉 経済都市に多彩な文人集う」(山田夢留)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 519(3-4月号2022)「大阪の佇まい—大阪風流礼賛」(井田太郎)
 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 519(3-4月号2022)「風流なサロン文化と京阪の絵画」(林野雅人)
 大阪民主新報2022年3月27日 第4682号「江戸～昭和の京・大阪画壇を《サロン!雅と俗》」
 文教速報 2022年4月11日 第9109号「京近美で《京の大家と知られざる大阪画壇》展」
 文教ニュース第2696号 2022年4月18日「京都国立近代美術館〈サロン!雅と俗〉展開幕」
 美術の窓 2022年4月 No. 463「PREVIEW サロン!雅と俗—京の大家と知られざる大阪画壇 京阪文化サロンを通覧する初めての大規模展」／「和魂漢才—書画のスズメ 当展自慢の一巻 十時梅屋《訪米山人居宅図巻》」(平井啓修)
 いちよう並木2022年4月 No. 466「新おおさかKEYカード 第23回 三人寄れば“サロン”誕生?京都の美術館で大阪文化の精髓を見る」(橋爪節也)

新美術新聞2022年4月11日 No. 1597「サロン!雅と俗—京の大家と知られざる大阪画壇 大坂(阪)画壇の魅力と可能性」(平井啓修)
 書源2022年5月号 第791号「書壇ニュース サロン!雅と俗—京の大家と知られざる大阪画壇」
 京都民報2022年5月8日 第3029号「大阪画壇研究の可能性」(平井啓修)



会場風景(撮影：加藤成文)

新収蔵品
New Acquisitions

令和3年度に購入した美術作品は、油彩1点、版画1点、陶芸1点、漆工7点、木工1点、ガラス1点、その他11点であり、寄贈を受けた美術作品は、日本画3点、油彩4点、版画11点、陶芸15点、漆工10点、木工4点、染織43点、資料43点、その他13点であった。

この結果、令和3年度末までの本館収蔵作品の累計は、日本画1,168点、油彩755点、水彩355点、素描1,327点、版画3,293点、彫刻108点、陶芸1,741点、金工159点、漆工174点、木工59点、竹工7点、ガラス118点、染織748点、人形2点、ジュエリー101点、書84点、写真1,969点、資料2,673点、その他743点の総計15,584点となった。

The National Museum of Modern Art, Kyoto acquired the following works in the fiscal year of 2021 (April 1, 2021–March 31, 2022). Purchases: 1 oil painting, 1 print, 1 ceramic, 7 lacquer works, 1 wood work, 1 glass work, 11 Non-Category works. Donations: 3 Nihonga, or Japanese-style paintings, 4 oil paintings, 11 prints, 15 ceramics, 4 wood works, 43 textiles, 43 reference materials and 13 Non-Category works.

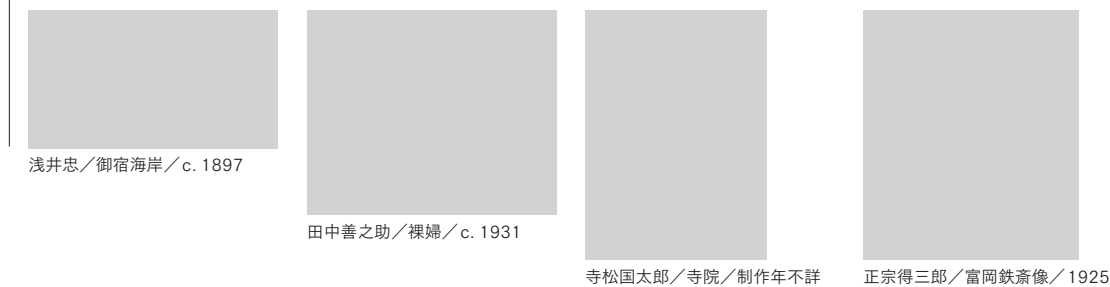
The total number of works in the collection of the Museum as of the end of the fiscal year of 2021 is 15,584; 1,168 Japanese-style paintings, 755 oil paintings, 355 watercolors, 1,327 drawings, 3,293 prints, 108 sculptures, 1,741 ceramics, 159 metal works, 174 lacquer works, 59 wood works, 7 bamboo works, 118 glass works, 748 textiles, 2 dolls, 101 jewelry works, 84 calligraphies, 1,969 photographs, 2,673 reference materials and 743 Non-Category works.

新収蔵品目録
New Acquisitions List

日本画 Japanese-style paintings



油彩 Oil paintings



山下新太郎/宇治川/制作年不詳

版画 Prints



須田国太郎/風景/制作年不詳

フェリーツェ・"リチ"・上野=リックス /『ウィーン・ファッション』(第5号第6葉)/1914-15

フリードリヒ・メクセベル/静物/1966

フリードリヒ・メクセベル/迷宮/1966

フリードリヒ・メクセベル/迷宮/1968

フリードリヒ・メクセベル/静物/1969

フリードリヒ・メクセベル/乳鉢/1972

フリードリヒ・メクセベル/アメリカのテーブル/1974

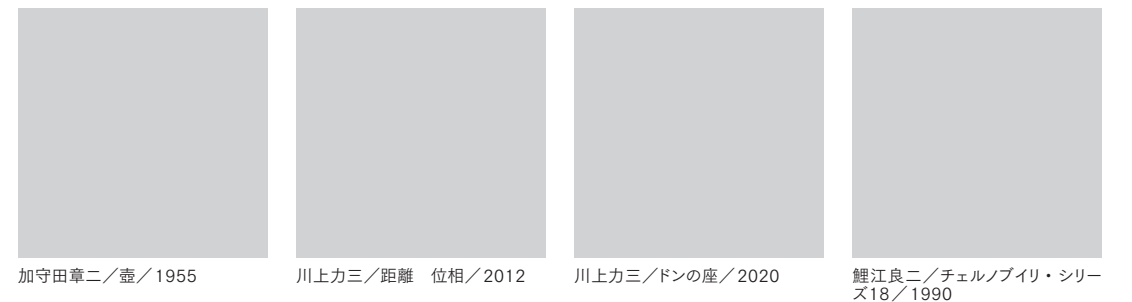
フリードリヒ・メクセベル/アトリエ/1974

フリードリヒ・メクセベル/寄せ集め/1974

フリードリヒ・メクセベル/自己—銅版画の重荷を負う/1977

フリードリヒ・メクセベル/本/1977

陶芸 Ceramics

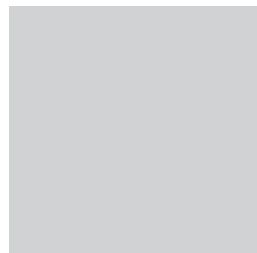


加守田章二/壺/1955

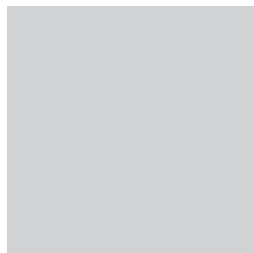
川上カ三/距離 位相/2012

川上カ三/ドンの座/2020

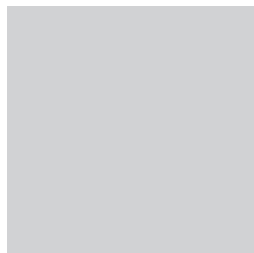
鯉江良二/チェルノブイリ・シリーズ18/1990



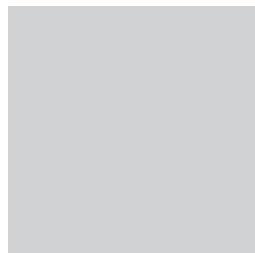
島岡達三／塩釉縄文象嵌皿／1979



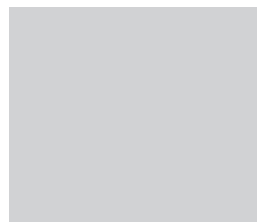
島岡達三／地釉象嵌縄文皿／c. 1979



島岡達三／白釉象嵌縄文壺／c. 1980



島岡達三／鉛釉象嵌唐草文皿／1981



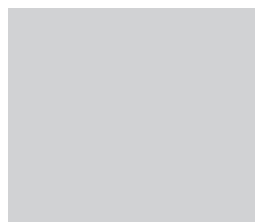
島岡達三／象嵌赤絵組皿／1996



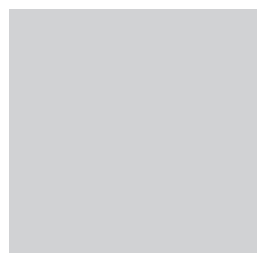
竹中浩／白瓷椿文長壺／2021



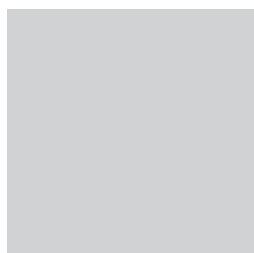
竹中浩／白磁シノギ大壺／2021



田辺彩子／作品／c. 1979



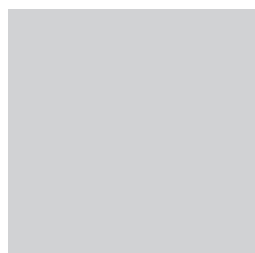
富本憲吉／色絵麦藁手湯呑／1955



藤原啓／備前大徳利／1920s

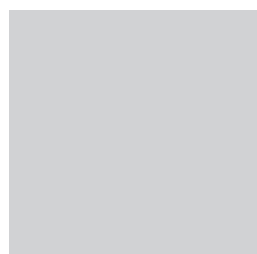


藤原啓／備前菱形大皿／1955

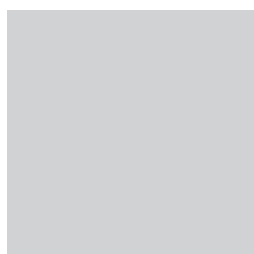


キティ・リックス／花瓶／1927

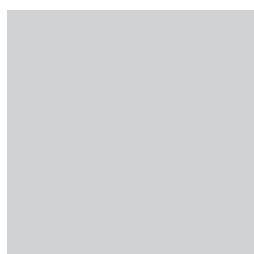
漆工 Lacquerware works



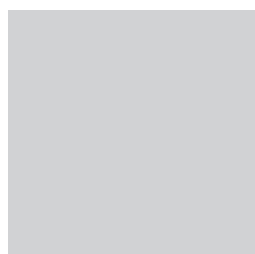
赤塚自得／桜蒔絵料紙硯箱／明治-大正時代(料紙箱)



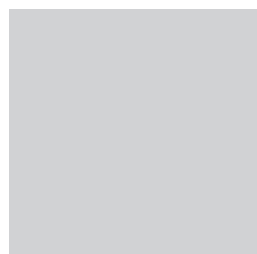
(硯箱)



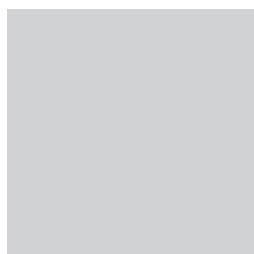
伊藤裕二／日月山水／1992



伊藤裕二／春涛／2000



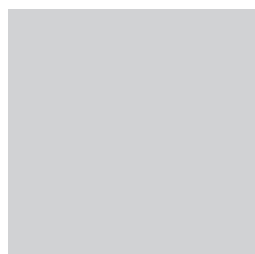
伊藤裕二／煌彩／2007



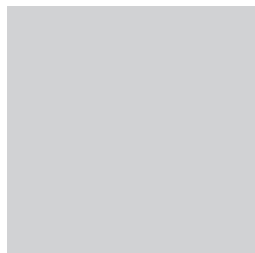
黒田辰秋／朱蒨粉塗鹿花文文庫／1925



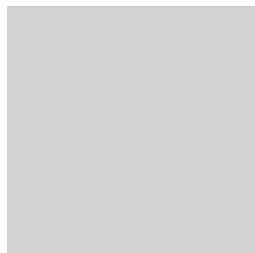
黒田辰秋／螺鈿唐花文座卓／1926



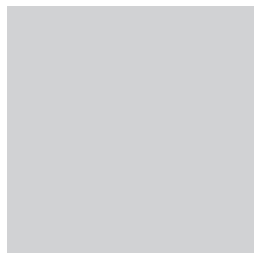
黒田辰秋／螺鈿象嵌菖蒲紋様手筈／1938



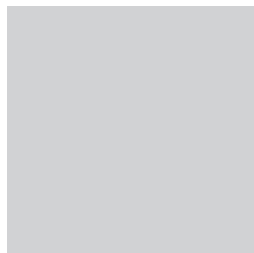
黒田辰秋／螺鈿卍文茶器／1940-44



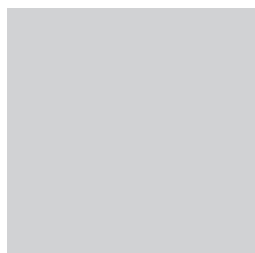
黒田辰秋／色沃地渦文中次／c. 1948



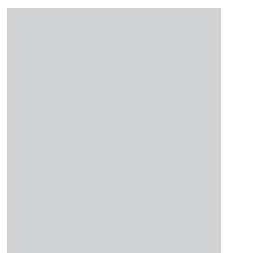
黒田辰秋／赤漆卍文飾筐／1955



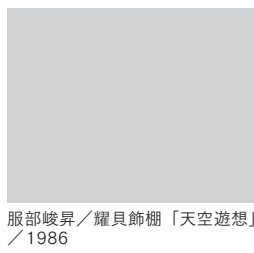
黒田辰秋／赤漆箸置／c. 1968



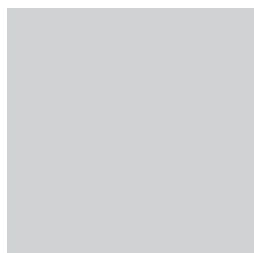
黒田辰秋／金鎌倉捻梅香合／c. 1968



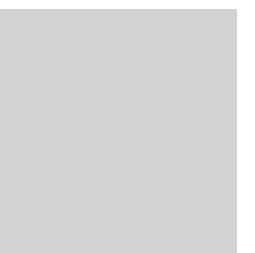
服部峻昇／パトラスの塔／1976



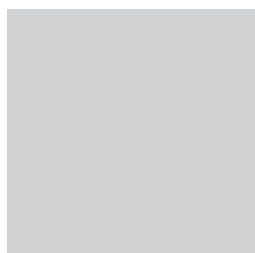
服部峻昇／耀貝飾棚「天空遊想」／1986



服部峻昇／螺鈿飾箱「水の燦」／2013



服部峻昇／飾箱「春」／2016

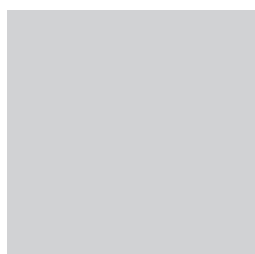


服部峻昇／棗「宙」／2016

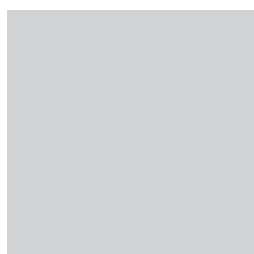
木工 Woodworks



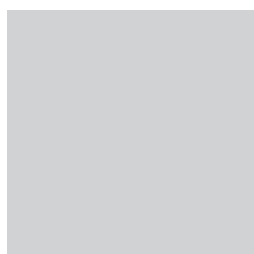
黒田辰秋／拭漆檜机椅子揃／昭和初期



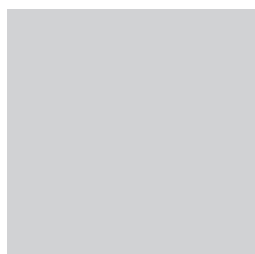
黒田辰秋／紙刀／1945-54



黒田辰秋／拭漆櫛額／1955-64

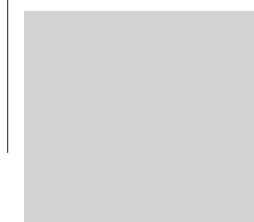


黒田辰秋／萬金輪寺茶器／1960-69

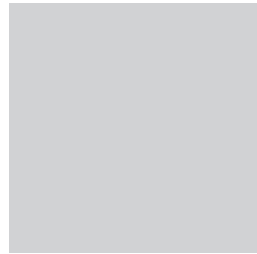


黒田辰秋／拭漆櫛飾棚／1961

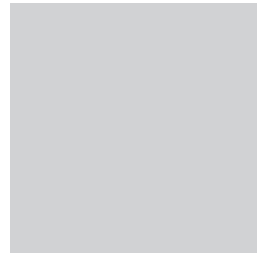
ガラス Glass work



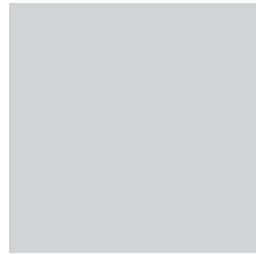
フェリーツェ・“リチ”・上野＝リックス(装飾)、ヨーゼフ・ホフマン(形)／リキュールグラス／1929[1917(形)／1929(装飾)]



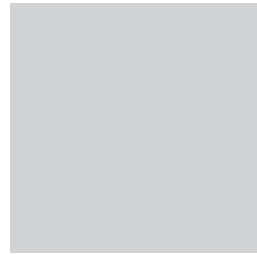
小合友之助／桶／1944



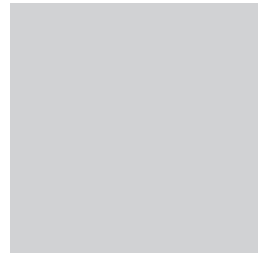
森口邦彦／友禅着物「光」／1967



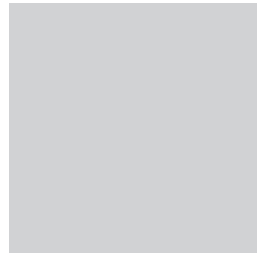
森口邦彦／友禅着物「響」／1968
(2020再制作)



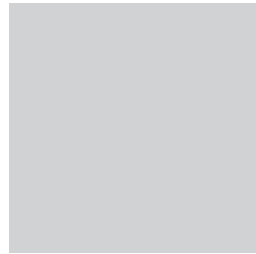
森口邦彦／友禅着物「干花」／
1969



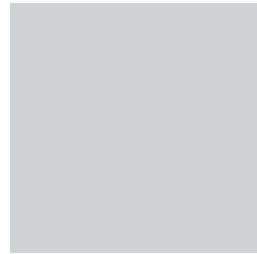
森口邦彦／友禅着物 花垣文／
1980



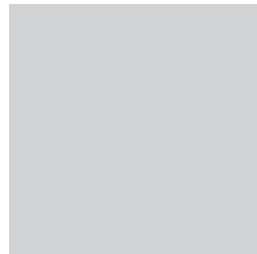
森口邦彦／友禅着物 流層文／
1982



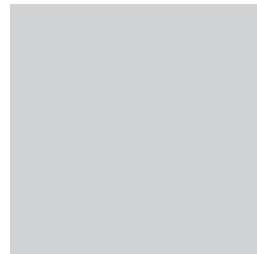
森口邦彦／友禅着物「清溪」／
1983



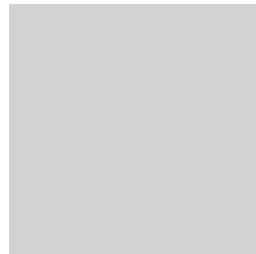
森口邦彦／友禅着物「花崖」／
1983



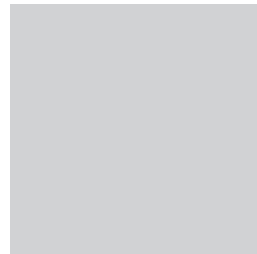
森口邦彦／友禅着物 持合鱗漸層
文様「花間」／1970



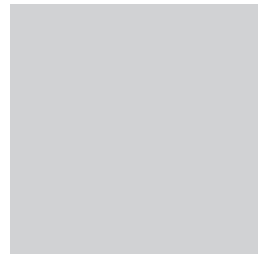
森口邦彦／友禅着物 集散漸層文様
「暁」／1971



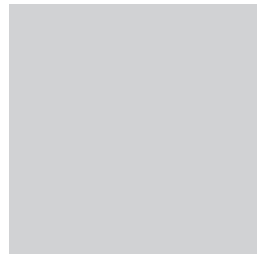
森口邦彦／友禅着物 籠目文様／
1971



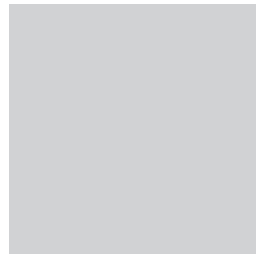
森口邦彦／友禅着物「遥」／1972



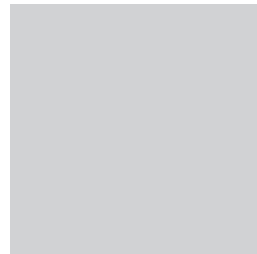
森口邦彦／友禅着物「茜格子」／
1984



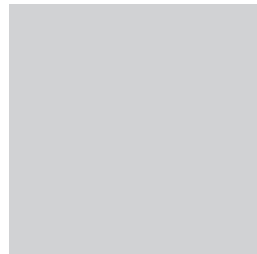
森口邦彦／友禅着物「われもこう」
／1984



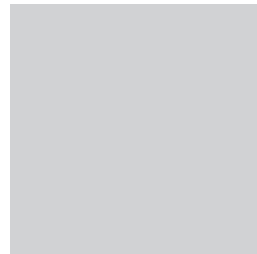
森口邦彦／友禅着物「聚」／1988



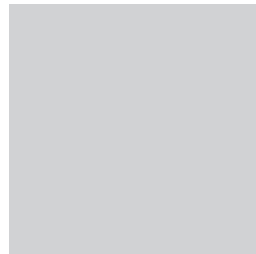
森口邦彦／友禅着物「玄」／1988



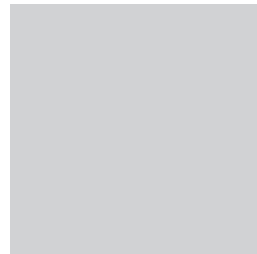
森口邦彦／友禅着物 網代文様／
1972



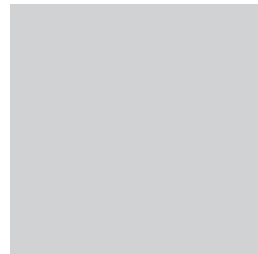
森口邦彦／友禅着物 漸層文様／
1974



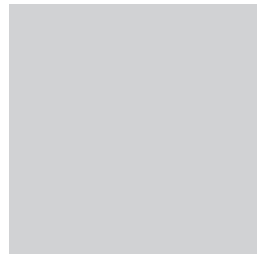
森口邦彦／友禅着物「曙」／1974



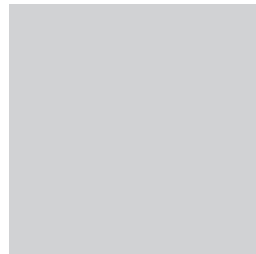
森口邦彦／友禅着物 漸層文様
「雲海」／1974



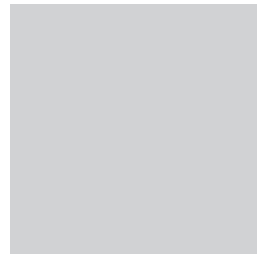
森口邦彦／友禅着物「輝」／1990



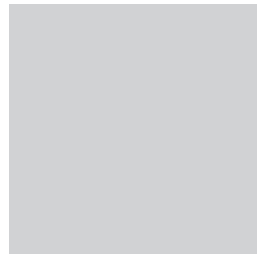
森口邦彦／友禅着物 位相櫛文様
／1993



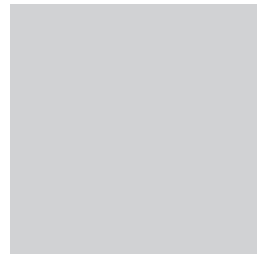
森口邦彦／友禅着物 角継ぎ暈網
文様／1994



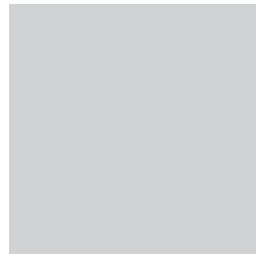
森口邦彦／友禅着物「深山格子」
／1995



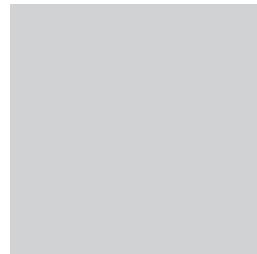
森口邦彦／友禅着物 滄海文／
1975



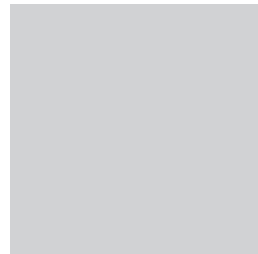
森口邦彦／友禅着物「光影」／
1975



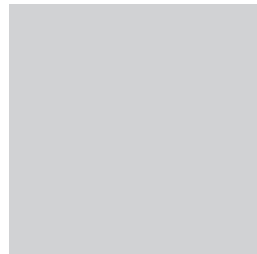
森口邦彦／友禅着物 漸層文様／
1976



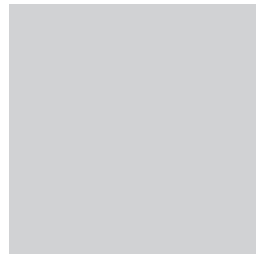
森口邦彦／友禅着物 漸層鱗文様
／1976



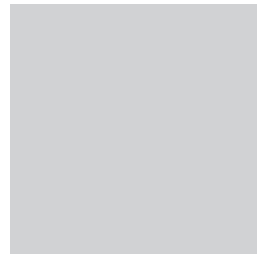
森口邦彦／友禅着物「暖流」／
1996



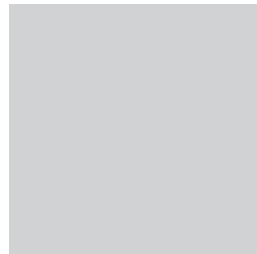
森口邦彦／友禅着物 七宝・花水
木文／1997



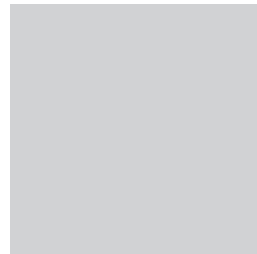
森口邦彦／友禅着物 茜花文／
1999



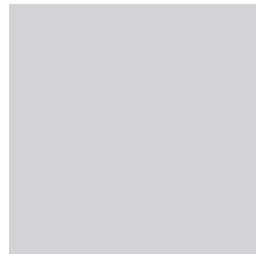
森口邦彦／友禅着物「雪溪」／
1999



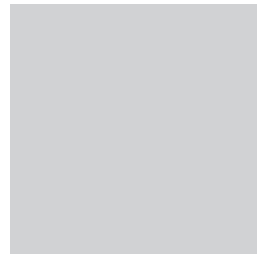
森口邦彦／友禅着物 白地熨斗文
様／1977



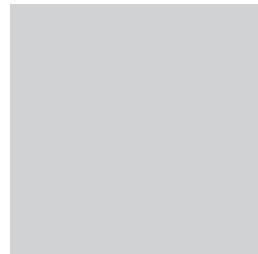
森口邦彦／友禅着物「汐」／1978



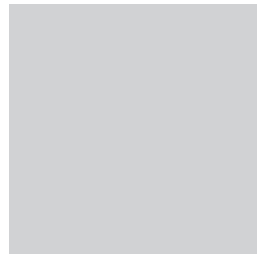
森口邦彦／友禅着物 網代文／
1978



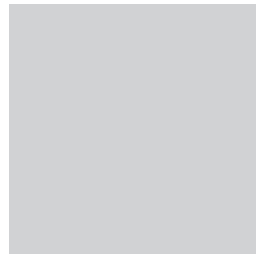
森口邦彦／友禅着物「青嵐」／
1979



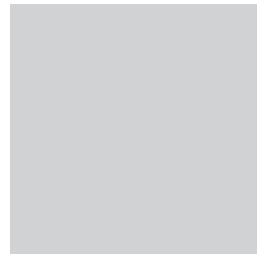
森口邦彦／『ヴァンクリーフ・アンド・
アーベル 技を極める ハイジュエリーと
日本の工芸』装幀(上装本)／2017



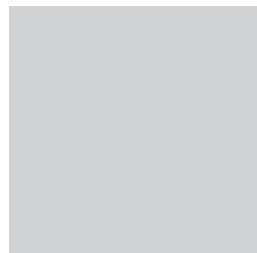
グレン・カウフマン／フィービーのフ
リーストーン・グローブ／1983



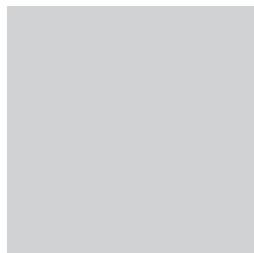
グレン・カウフマン／ハンド・オン・
グローブ／1983



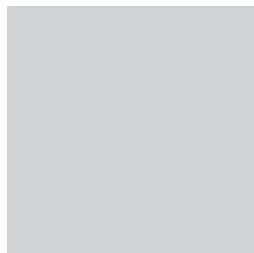
グレン・カウフマン／ペイル・ベッ
カリィ・グローブ／1984



グレン・カウフマン／ケイブ・グローブ ペンギン現る／1984

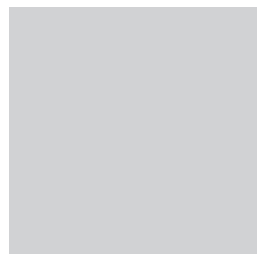


グレン・カウフマン／ジュパン・スイートI／2016



グレン・カウフマン／ジュパン・スイートII／2016

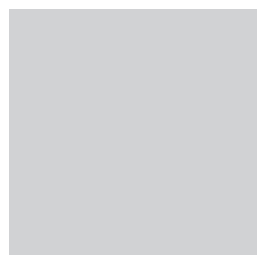
資料 Reference materials



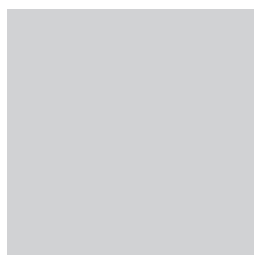
黒田辰秋／色紙「初心不忘」／制作年不詳



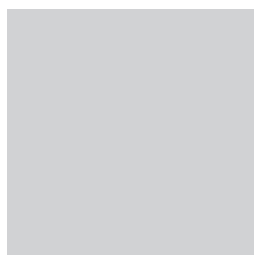
竹内栖鳳／鱗介真写／1881



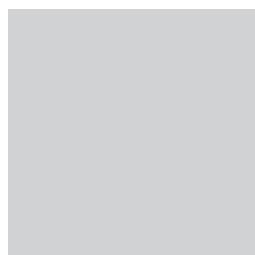
富本憲吉／鉄描銅彩花字鉢／1958



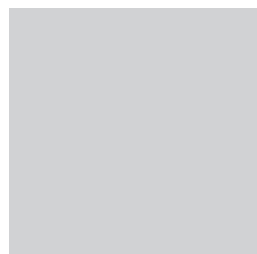
富本憲吉／土焼土鍋／1958



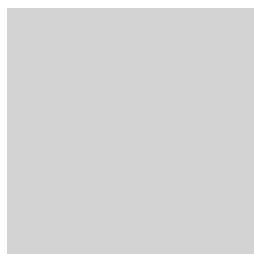
富本憲吉／染付色絵竹飾皿／1958



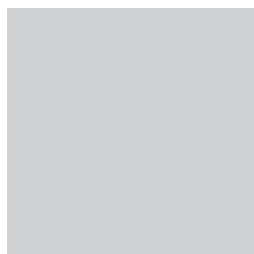
富本憲吉／染付色絵飯茶碗 大小／1958



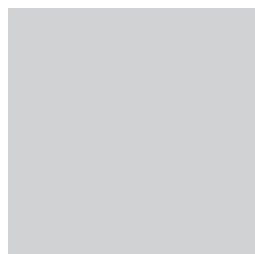
富本憲吉／染付色絵酒瓶・盃／1958



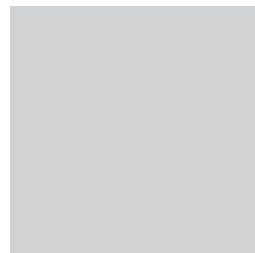
富本憲吉／鉄描銅彩蓋物／1958



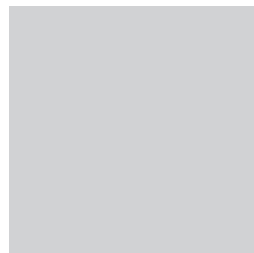
富本憲吉／染付色絵灰皿／1958



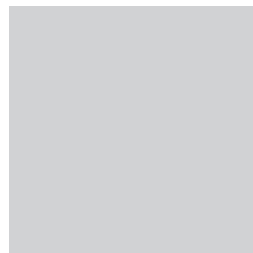
富本憲吉／染付色絵湯呑 大小／1958



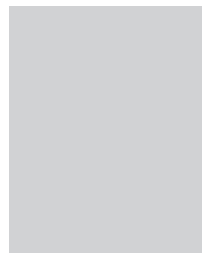
富本憲吉／色絵湯呑 大小／1959



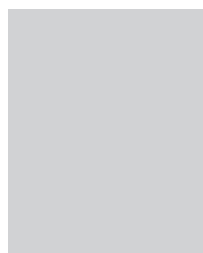
富本憲吉／色絵染付花字鉢／1960



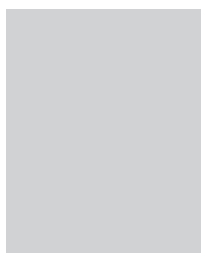
富本憲吉／色絵角皿 二種／1962



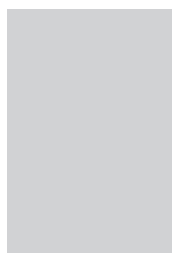
カミラ・ビルケ／スペイン風貝殻／1926-27



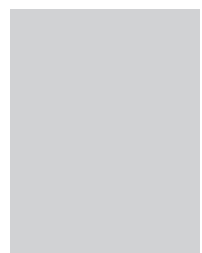
カミラ・ビルケ／無題／1926-27



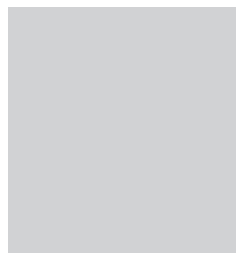
カミラ・ビルケ／閉じられた女／1926-27



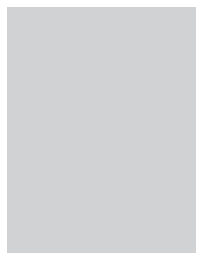
カミラ・ビルケ／コスチューム：Picasseuse／1926-27



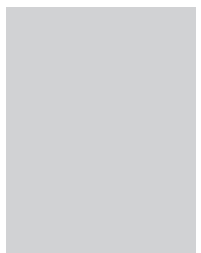
カミラ・ビルケ／コスチューム：ハーモニカ・ガール／1926-27



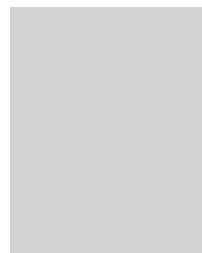
カミラ・ビルケ／コスチューム：グラディエーター／1926-27



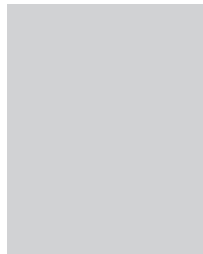
カミラ・ビルケ／コスチューム：世界の淑女／1926-27



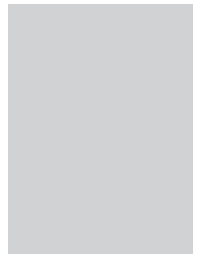
カミラ・ビルケ／スノップ／1926-27



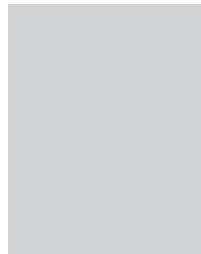
カミラ・ビルケ／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



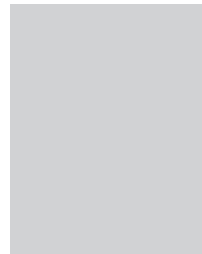
カミラ・ビルケ／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



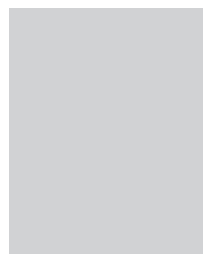
カミラ・ビルケ／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



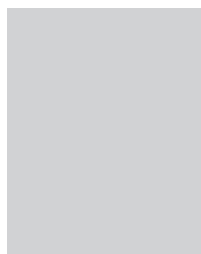
[カミラ・ビルケ]／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



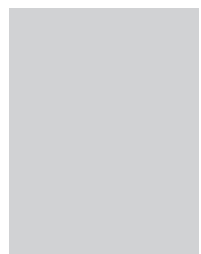
カミラ・ビルケ／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



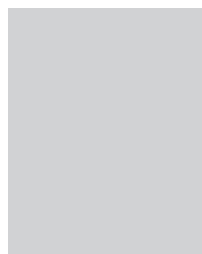
[カミラ・ビルケ]／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



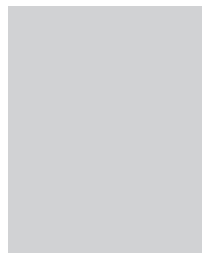
作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



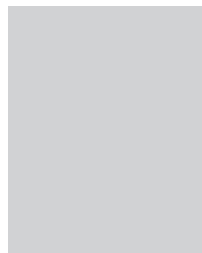
作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



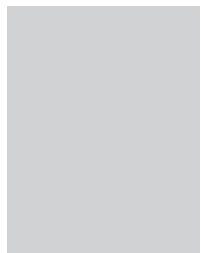
作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



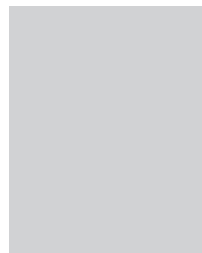
作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



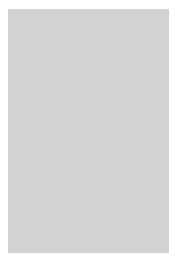
作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



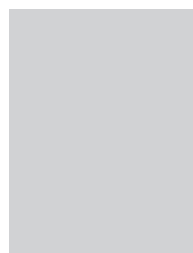
作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



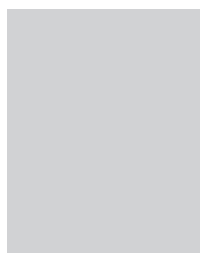
H. ヴェンツェル／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



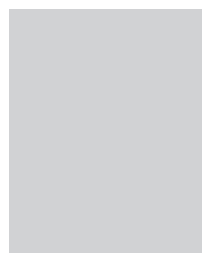
H. ヴェンツェル／ファッション・ドローイングより旅行にて／c. 1926-27



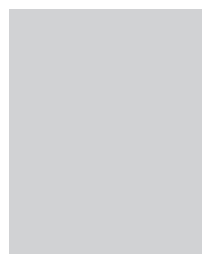
H. ヴェンツェル／ファッション・ドローイングより 湖畔の小道にて／c. 1926-27



作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



作者不詳／ファッション・ドローイングより(無題)／c. 1926-27



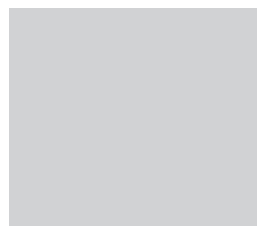
フェリーツェ・"リチ"・上野=リックス、上野伊三郎/高津邸(西宮市): 室内計画図(3面) (1) / 1933



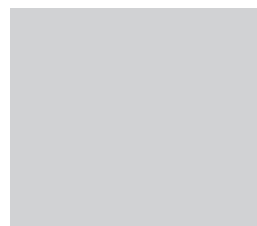
(2)



(3)



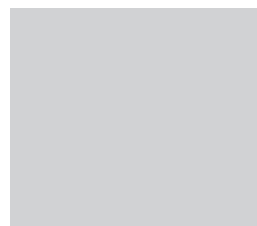
[フェリーツェ・"リチ"・上野=リックス] /旧カフェ・カフェレストラン「リックスガーデン」(木屋町、京都)の装飾タイル(1)青 / 1967以降



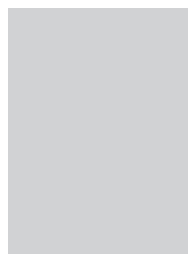
(2)青



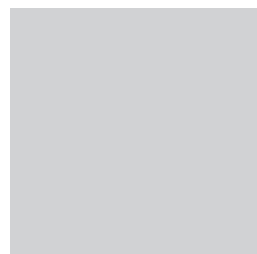
(3)赤茶



(4)赤茶



カレル・タイゲほか/チェコ・アヴァンギャルドのブックデザイン(関連資料を含む全349点)



バーナード・リーチ_円窓月柳図

その他 Non-Category works



青山悟 / Lonely Labourer / 2018-19



青山悟 / WHO SAID SO Mask / 2020



青山悟 / 喜びと恐れのマスク (Kissing) / 2020



上野伊三郎 / 柳本邸: 新築設計 投影図 / 1929



上野伊三郎 / 柳本邸: 新築設計 図 各階プラン(1) / 1929



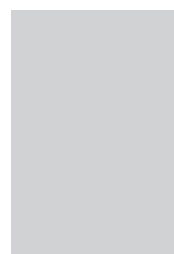
(2)



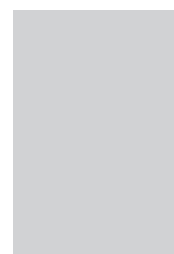
上野伊三郎 / 柳本邸: 新築設計 図 各面建図 / 1929



上野伊三郎 / 柳本邸: 新築設計 図 断面・屋根伏 / 1929



上野伊三郎 / 柳本邸: 新築工事 仕様書 / 1929



元田敬三 / ツッパルな / 2009-16



元田敬三 / ツッパルな / 2009-16



元田敬三 / OPEN CITY / 2009-14



元田敬三 / OPEN CITY / 2009-14



元田敬三 / 御意見無用 / 2016-18



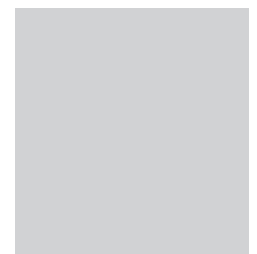
元田敬三 / 御意見無用 / 2016-18



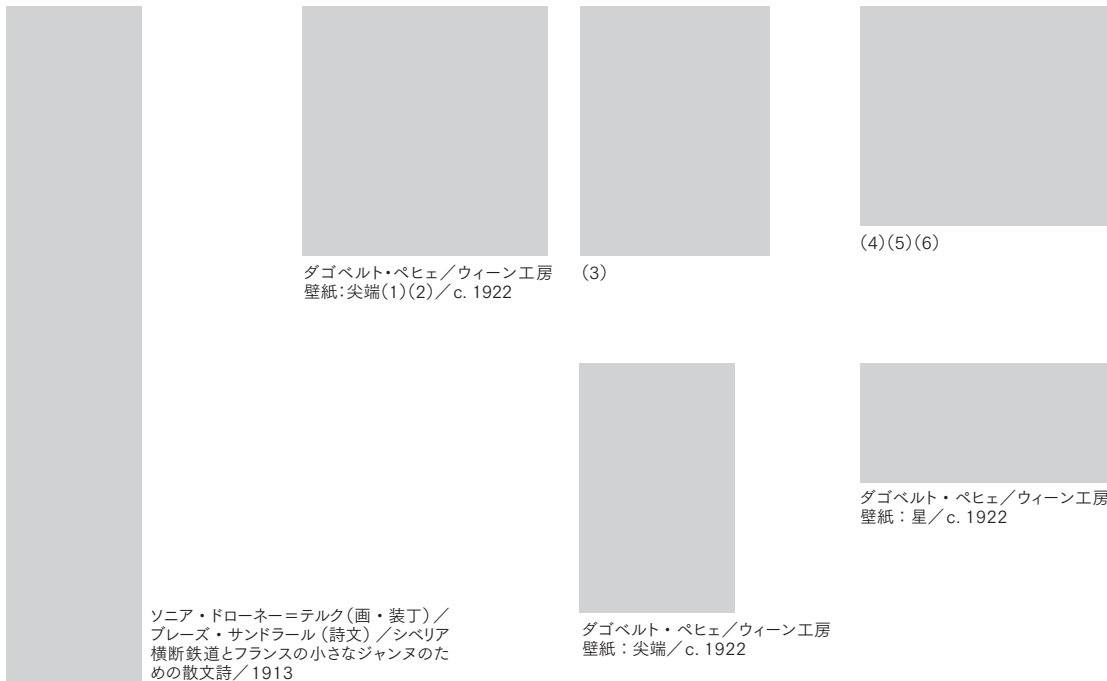
元田敬三 / Snap Osaka / 1995-2002



元田敬三 / Snap Osaka / 1995-2002



フェリーツェ・"リチ"・上野=リックス / [花鳥図屏風] / c. 1935



ダゴベルト・ペヒェ／ウィーン工房
壁紙：尖端(1)(2)／c. 1922

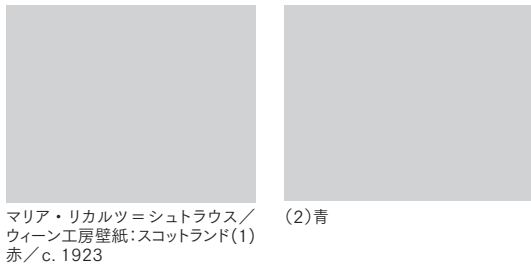
(3)

(4)(5)(6)

ダゴベルト・ペヒェ／ウィーン工房
壁紙：星／c. 1922

ダゴベルト・ペヒェ／ウィーン工房
壁紙：尖端／c. 1922

ソニア・ドローネー＝テルク(画・装丁)／
ブレース・サンドラール(詩文)／シベリア
横断鉄道とフランスの小さなジャンヌのため
の散文詩／1913



マリア・リカルツ＝シュトラウス／
ウィーン工房壁紙：スコットランド(1)
赤／c. 1923

(2)青

ヤン・ヴォー／1861年2月2日／
2009～

新収蔵品目録 New Acquisitions List

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法 [cm]	購入・寄贈
日本画						
岡本神草	(1894-1933)	梨花	c. 1916	絹本着色／軸	128.7×40.9	亀田邦明氏寄贈
吉川霊華	(1875-1929)	斎宮女御歌意	不詳	紙本着色／軸	129.5×31.9	加藤類子氏寄贈
山口玲熙	(1894-1979)	花鳥	不詳	紙本着色／軸	43.4×50.6	富岡曄氏寄贈
油彩						
浅井忠	(1856-1907)	御宿海岸	c. 1897	油彩、画布／額	41.5×72.7	購入
田中善之助	(1889-1946)	裸婦	c. 1931	油彩、板／額	36.7×44.3	高乗敬子氏寄贈
寺松国太郎	(1976-1943)	寺院	不詳	油彩、麻布／額	31.4×22.4	富岡曄氏寄贈
正宗得三郎	(1883-1962)	富岡鉄斎像	1925	油彩、麻布／額	51.7×44.2	富岡曄氏寄贈
山下新太郎	(1881-1966)	宇治川	不詳	油彩、板／額	36.8×44.4	富岡曄氏寄贈
版画						
須田国太郎	(1891-1961)	風景	不詳	エッチング、紙／額	6.8×9.0	富岡曄氏寄贈
フェリツェ・ "リチ"・上野= リックス	(1893-1967)	ファッションショップの室内 風景(『ウィーン・ファッション(Mode Wien 1914/15)』第5号第6葉)	1914/ 15	リノカット、手彩色、紙	34.9×26.0	購入
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	静物	1966	エッチング、アクアチント	36.0×50.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	迷宮	1966	エッチング、アクアチント、 ドライポイント	40.0×50.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	迷宮	1968	エッチング、ドライポイント、 アクアチント	60.0×50.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	静物	1969	エッチング、ドライポイント、 アクアチント	48.0×60.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	乳鉢	1972	エッチング、ソフトグランド・エッ チング、アクアチント、ルーレット	46.0×39.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	アメリカのテーブル	1974	エッチング、アクアチント、ド ライポイント、ルーレット	44.0×55.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	アトリエ	1974	エッチング、ドライポイント、 アクアチント	43.5×39.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	寄せ集め	1974	エッチング、アクアチント、 ドライポイント	42.0×55.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	自己—銅版画の重荷を負う	1977	ソフトグランド・エッチング、ドライ ポイント、メゾチント、ラインエッチ ング、アクアチント、ルーレット	35.0×24.0	三浦剛司氏寄贈
フリードリヒ・ メクセベル	(1936-2019)	本	1977	メゾチント、エッチング、アク アチント	33.0×22.0	三浦剛司氏寄贈
陶芸						
加守田章二	(1933-1983)	壺	1955	陶器	21.6(h)×29.8×29.8	株式会社ギャラリー 米田寄贈
川上カ三	(1935-)	距離 位相	2012	陶器	リンゴ: 9.0(h)×8.5 キューブ: 13.5(h)×13.5×6.8	須藤敏浩氏寄贈
川上カ三	(1935-)	ドン座	2020	陶器	68.0(h)×34.0×35.0	須藤敏浩氏寄贈
鯉江良二	(1938-2020)	チェルノブイリ・シリーズ18	1990	シャモット、他	19.0(h)×30.0×30.0	鯉江明氏寄贈
島岡達三	(1919-2007)	塩釉縄文象嵌壺	1979	陶器	10.0(h)×11.7×11.7	辻裕史氏寄贈
島岡達三	(1919-2007)	地釉象嵌縄文皿	c. 1979	陶器	7.5(h)×36.8×36.8	辻裕史氏寄贈
島岡達三	(1919-2007)	白釉象嵌縄文壺	c. 1980	陶器	24.0(h)×28.0×23.0	辻裕史氏寄贈
島岡達三	(1919-2007)	鉛釉象嵌唐草文皿	1981	陶器	14.2(h)×54.0×54.0	辻裕史氏寄贈
島岡達三	(1919-2007)	象嵌赤絵組皿	1996	陶器	各3.7(h)×21.0×21.0(6客)	辻裕史氏寄贈
竹中浩	(1941-)	白瓷椿文長壺	2021	磁器	54.0(h)×16.0×16.0	作者寄贈
竹中浩	(1941-)	白磁シノギ大壺	2021	磁器	34.5(h)×36.0×36.0	作者寄贈

作品の収集、保存、貸出

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
田辺彩子	（1929-2011）	作品	c. 1979	陶器	29.5(h)×8.8×7.8	濱田知子氏寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	色絵麦藁手湯呑	1955	磁器	8.0(h)×7.0(5客)	加藤類子氏寄贈
藤原啓	（1899-1983）	備前大徳利	1920s	陶器	33.0(h)×22.0×22.0	本城貞子氏寄贈
藤原啓	（1899-1983）	備前菱形大皿	1955	陶器	6.5(h)×63.5×40.0	本城貞子氏寄贈
キティ・リックス	（1901-1951）	花瓶	1927	陶、釉薬	26.0×15.0×15.0	購入

漆工

赤塚自得	（1871-1936）	桜蒔絵料紙硯箱	1868-1926	漆、銀、蒔絵	料紙箱：16.5(h)×41.9×32.5 硯箱：5.5(h)×25.0×22.0	購入
伊藤裕司	（1930- ）	日月山水	1992	漆、螺鈿	22.0×32.0×18.0	作者寄贈
伊藤裕司	（1930- ）	春涛	2000	漆、螺鈿	55.0×55.0×3.0	作者寄贈
伊藤裕司	（1930- ）	煌彩	2007	漆、螺鈿	26.0×34.0×15.0	作者寄贈
黒田辰秋	（1904-1982）	朱蒔粉塗鹿花文文庫	1925	漆	14.0(h)×43.7×28.8	購入
黒田辰秋	（1904-1982）	螺鈿唐花文座卓	1926	漆、螺鈿	33.6(h)×139.5×82.0	購入
黒田辰秋	（1904-1982）	螺鈿象嵌菖蒲紋様手笥	1938	漆、螺鈿	18.0(h)×28.0×14.4	購入
黒田辰秋	（1904-1982）	螺鈿卍文茶器	1940-44	漆	6.4(h)×7.8	購入
黒田辰秋	（1904-1982）	色沃地渦文中次	c. 1948	漆、螺鈿	7.8(h)×7.6	購入
黒田辰秋	（1904-1982）	赤漆卍文飾筐	1955	漆	10.5(h)×26.7×17.0	購入
黒田辰秋	（1904-1982）	赤漆箸置	c. 1968	木、漆(10個)	(各)5.2(l)×1.9(w)×1.9(d)	上田裕之氏寄贈
黒田辰秋	（1904-1982）	金鎌倉捻梅香合	c. 1968	漆	3.3(h)×5.7×5.7	上田裕之氏寄贈
服部峻昇	（1943-2018）	パトラスの塔	1976	漆、蒔絵	75.5(h)×28.5×11.5	服部一齋氏寄贈
服部峻昇	（1943-2018）	耀貝飾棚「天空遊想」	1986	漆、蒔絵、螺鈿	90.3(h)×140.0×45.0	服部一齋氏寄贈
服部峻昇	（1943-2018）	螺鈿飾箱「水の燦」	2013	漆、蒔絵、螺鈿	21.0(h)×42.0×21.0	服部一齋氏寄贈
服部峻昇	（1943-2018）	飾箱「春」	2016	漆、蒔絵、螺鈿	9.3(h)×16.0×16.0	服部一齋氏寄贈
服部峻昇	（1943-2018）	囊「宙」	2016	漆、蒔絵、玉虫の羽	7.5(h)×7.5×7.5	服部一齋氏寄贈

木工

黒田辰秋	（1904-1982）	拭漆柶机椅子揃	昭和初期	柶、漆	机1卓:68.8(h)×121.4×88.6 椅子4脚: （各）74.0(h)×42.0×44.0	續木創氏寄贈
黒田辰秋	（1904-1982）	紙刀	1945-54	木	40.8(l)×4.2(w)×1.6(d)	上田裕之氏寄贈
黒田辰秋	（1904-1982）	拭漆櫛額	1955-64	木、漆	36.0(h)×33.0(w)×1.5(d)	上田裕之氏寄贈
黒田辰秋	（1904-1982）	蔦金輪寺茶器	1960-69	蔦、漆	9.6(h)×8.4×8.4	上田裕之氏寄贈
黒田辰秋	（1904-1982）	拭漆櫛飾棚	1961	櫛、漆	111.5(h)×101.5×67.5	購入

ガラス

装飾：フェリーツェ・“リチ”・上野＝リックス(1893-1967) ／形：ヨーゼフ・ホフマン(1870-1956)	リキュールグラス	1929 [1917(形)/ 1929(装飾)]	光学吹きガラス、エナメル彩	(各)13.1 (h)(2点)	購入
--	----------	--------------------------------	---------------	-----------------	----

染織

小合友之助	（1898-1966）	楠	1944	紙本着色／二曲一隻屏風	152.0×140.0	續木創氏寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「光」	1967	絹、友禅	167.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「響」	1968/2020再制作（昭和43/令和2）	絹、友禅	174.0×132.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「千花」	1969	絹、友禅	157.0×125.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 持合鱗漸層文様「花間」	1970	絹、友禅	168.0×129.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 集散漸層文様「暁」	1971	絹、友禅	173.0×130.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 籠目文様	1971	麻、友禅	168.0×124.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「遥」	1972	絹、友禅	172.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 網代文様	1972	絹、友禅	162.0×125.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 漸層文様	1974	絹、友禅	161.0×127.0	作者寄贈

森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「曙」	1974	絹、友禅	169.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 漸層文様「雲海」	1974	絹、友禅	169.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 滄海文	1975	絹、友禅	172.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「光影」	1975	絹、友禅	169.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 漸層文様	1976	絹、友禅	170.0×123.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 漸層鱗文様	1976	絹、友禅	167.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 白地髪斗文様	1977	絹、友禅	167.0×126.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「汐」	1978	絹、友禅	161.0×127.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 網代文	1978	絹、友禅	170.0×128.5	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「青晨」	1979	絹、友禅	171.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 花垣文	1980	絹、友禅	169.0×126.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 流層文	1982	絹、友禅	172.0×128.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「清溪」	1983	絹、友禅	170.0×131.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「花崖」	1983	絹、友禅	175.0×131.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「茜格子」	1984	絹、友禅	173.0×127.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「われもこう」	1984	絹、友禅	170.0×131.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「聚」	1988	絹、友禅	171.0×131.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「玄」	1988	絹、友禅	178.0×131.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「輝」	1990	絹、友禅	172.0×127.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 位相櫛文様	1993	絹、友禅	171.0×131.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 角継ぎ暈綱文様	1994	絹、友禅	172.0×130.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「深山格子」	1995	絹、友禅	173.0×129.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「暖流」	1996	絹、友禅	174.0×132.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 七宝・花水木文	1997	絹、友禅	179.5×131.5	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物 茜花文	1999	絹、友禅	174.0×130.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	友禅着物「雪溪」	1999	絹、友禅	179.0×133.0	作者寄贈
森口邦彦	（1941- ）	『ヴァンクリーフ・アンド・アールベル 技を極める ハイジュエリーと日本の工芸』装幀(上装本)	2017	蒔糊友禅、縮緬地、酸性顔料、三度黒	24.2×19.5×4.0(2冊)	作者寄贈

グレン・カウフマン(1932-2020)	フィービーのフリーストーン・グローブ	1983	皮、ビーズ	26.0(h)×20.7×3.0	福本繁樹氏寄贈
グレン・カウフマン(1932-2020)	ハンド・オン・グローブ	1983	綿手袋、転写プリント	36.0(h)×28.5×3.5	福本潮子氏寄贈
グレン・カウフマン(1932-2020)	ペイル・ベッカリー・グローブ	1984	革手袋、イノシシの一種ベッカリ、ビーズ、アクリルケース	36.0(h)×28.5×3.5	ギャラリーギャラリー寄贈
グレン・カウフマン(1932-2020)	ケイブ・グローブペンギン現る	1984	革手袋、木(ペンギンのイラスト)、小石、アクリルケース	36.0(h)×28.5×3.5	ギャラリーギャラリー寄贈
グレン・カウフマン(1932-2020)	ジュバン・スイートⅠ	2016	絹、刺繍、ビーズ、金箔、アクリルケース	36.0(h)×28.5×3.5	ギャラリーギャラリー寄贈
グレン・カウフマン(1932-2020)	ジュバン・スイートⅡ	2016	絹、ビーズ、金箔、アクリルケース	36.0(h)×28.5×3.5	ギャラリーギャラリー寄贈

資料

黒田辰秋	（1904-1982）	色紙「初心不忘」	不詳	墨書／色紙	27.0×24.0	上田裕之氏寄贈
竹内栖鳳	（1864-1942）	鱗介真写	1881	紙本淡彩／卷子(2巻)	29.0×993.5、29.0×578.0	株式会社思文閣寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	鉄描銅彩花字鉢	1958	陶器	5.5(h)×18.6×18.6	株式会社ギャラリー米田寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	土焼土鍋	1958	陶器	7.5(h)×21.0×19.0	株式会社ギャラリー米田寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	染付色絵竹飾皿	1958	磁器	2.3(h)×19.1×19.1	株式会社ギャラリー米田寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	染付色絵飯茶碗 大小	1958	磁器	大:4.9(h)×12.5×12.5 小:4.5(h)×11.4×11.4	株式会社ギャラリー米田寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	染付色絵酒瓶・盃	1958	磁器	酒瓶:11.0(h)×5.5×5.5 盃:4.5(h)×4.4×4.5	株式会社ギャラリー米田寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	鉄描銅彩蓋物	1958	陶器	5.5(h)×7.7×7.7	株式会社ギャラリー米田寄贈
富本憲吉	（1886-1963）	染付色絵灰皿	1958	磁器	4.6(h)×8.9×6.5	株式会社ギャラリー米田寄贈

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
富本憲吉	(1886-1963)	染付色絵湯呑 大小	1958	磁器	大:8.2(h)×7.6×7.6 小:7.8(h)×6.7×6.7	株式会社ギャラリー 米田寄贈
富本憲吉	(1886-1963)	色絵湯呑 大小	1959	磁器	大:9.2(h)×7.4×7.4 小:7.8(h)×6.2×6.2	株式会社ギャラリー 米田寄贈
富本憲吉	(1886-1963)	色絵染付花字鉢	1960	磁器	7.5(h)×22.7×20.6	株式会社ギャラリー 米田寄贈
富本憲吉	(1886-1963)	色絵角皿 二種	1962	磁器	(各)1.6(h)× 8.5×8.5(2点)	株式会社ギャラリー 米田寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	スペイン風貝殻	1926/27	コラージュ、水彩、墨、 鉛筆、雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	(無題)	1926/27	コラージュ、水彩、墨、 鉛筆、雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.0	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	閉じられた女	1926/27	コラージュ、水彩、墨、 鉛筆、雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	コスチューム: Picasseuse	1926/27	コラージュ、水彩、墨、 鉛筆、雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	コスチューム: ハーモニカ・ガール	1926/27	コラージュ、水彩、墨、鉛筆、 銀紙、雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	コスチューム: グラディエーター	1926/27	コラージュ、水彩、墨、鉛筆、 雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	コスチューム: 世界の淑女	1926/27	コラージュ、水彩、墨、鉛筆、 銀紙、雑誌の切り抜き、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	スノップ	1926/27	水彩、鉛筆、紙	28.4×22.3	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	27.8×21.8	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	27.8×21.8	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	27.8×21.8	高橋幸代氏寄贈
[カミラ・ビルケ]		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	27.8×21.8	高橋幸代氏寄贈
カミラ・ビルケ	(1905-1988)	ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	27.8×21.8	高橋幸代氏寄贈
[カミラ・ビルケ]		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	27.8×21.8	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.5×22.3	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.5×22.3	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.5×22.3	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.5×22.3	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.5×22.3	高橋幸代氏寄贈
H. ヴェンツェル (生没年不詳)		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.6×22.4	高橋幸代氏寄贈
H. ヴェンツェル (生没年不詳)		ファッション・ドロー イングより 旅行にて	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.6×22.4	高橋幸代氏寄贈
H. ヴェンツェル (生没年不詳)		ファッション・ドロー イングより 湖畔の小道にて	c. 1926/27	水彩、インク、紙	28.6×22.4	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	28.4×22.2	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	28.4×22.2	高橋幸代氏寄贈
作者不詳		ファッション・ドロー イングより (無題)	c. 1926/27	水彩、鉛筆、紙	28.4×22.2	高橋幸代氏寄贈
フェリーツェ・“リチ”・上 野＝リックス(1893- 1967)、上野伊三郎 (1892-1972)		高津邸(西宮市): 室内計画図(3面)	1933	(1):色鉛筆、鉛筆、インク、紙 (2):水彩、銀、墨、鉛筆、紙 (3):水彩、鉛筆、紙	(1):29.0×27.0 (2):25.3×28.0 (3):39.0×54.0	高橋幸代氏寄贈

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
[フェリーツェ・ “リチ”・上野 ＝リックス]	(1887-1979)	旧カフェ・レストラン「リッ クスガーデン」(木屋町、京 都)の装飾タイル(4点)	After 1967	陶、釉薬	(1)-(3):40.0×45.0×0.5 (4):40.0×44.0×0.5	高橋幸代氏寄贈
カレル・タイゲ(1900-1951) ほか ※内訳リストあり		チェコ・アヴァンギャルドの ブックデザイン(関連資料 を含む全349点)		書籍、リノカット		大平陽一氏寄贈
バーナード・ リーチ		円窓月柳図	1953	紙本墨画／軸	30.5×31.0	上田裕之氏寄贈

その他

青山悟	(1973-)	The Lonely Labourer	2018-19	映像:4Kビデオ、 刺繍:コットン、刺繍	11分20秒/ 31.0×53.6	購入
青山悟	(1973-)	WHO SAID SO Mask	2020	マスクに刺繍	9.5×17.5	作者寄贈
青山悟	(1973-)	喜びと恐れのマスク (Kissing)	2020	天吊りインスタレーション ／マスクに刺繍	サイズ可変 マスク:(各)9.5×17.5	作者寄贈
上野伊三郎	(1892-1972)	柳本邸:新築設計投影図	1929	青焼き、紙	54.3×79.0	北村和人氏寄贈
上野伊三郎	(1892-1972)	柳本邸:新築設計図 各階プラン(1)	1929	青焼き、紙	60.5×79.5	北村和人氏寄贈
上野伊三郎	(1892-1972)	柳本邸:新築設計図 各階プラン(2)	1929	青焼き、紙	59.3×78.5	北村和人氏寄贈
上野伊三郎	(1892-1972)	柳本邸:新築設計図 各面建図	1929	青焼き、紙	60.5×79.0	北村和人氏寄贈
上野伊三郎	(1892-1972)	柳本邸:新築設計図 断面・屋根伏	1929	青焼き、紙	54.8×79.0	北村和人氏寄贈
上野伊三郎	(1892-1972)	柳本邸:新築工事仕様書	1929	インク、紙	37.0×24.5	北村和人氏寄贈
元田敬三	(1971-)	ツッパルな	2009-16	ゼラチン・シルバー・プリント	159.6×106.8	購入
元田敬三	(1971-)	ツッパルな	2009-16	ゼラチン・シルバー・プリント	40.8×50.6	購入
元田敬三	(1971-)	OPEN CITY	2009-14	ゼラチン・シルバー・プリント	40.8×50.6	購入
元田敬三	(1971-)	OPEN CITY	2009-14	ゼラチン・シルバー・プリント	40.8×50.6	購入
元田敬三	(1971-)	御意見無用	2016-18	ゼラチン・シルバー・プリント	40.8×50.6	購入
元田敬三	(1971-)	御意見無用	2016-18	ゼラチン・シルバー・プリント	40.8×50.6	購入
元田敬三	(1971-)	Snap Osaka	1995-2002	ゼラチン・シルバー・プリント	40.8×50.6	購入
元田敬三	(1971-)	Snap Osaka	1995-2002	ゼラチン・シルバー・プリント	68.9×99.5	購入
フェリーツェ・ “リチ”・上野 ＝リックス	(1893-1967)	[花鳥図屏風]	c. 1935	グアッシュ、金銀箔、紙/ 二曲一隻屏風	148.0×138.0	購入
画・装丁:ソニア・ドローネー ＝テルグ(1885-1979)/ 詩文:ブレイズ・サンドラール (1887-1961)		シベリア横断鉄道とフラン スの小さなジャンヌのため の散文詩	1913	水彩(型紙による彩色)、 エンボス印刷、和紙、 油彩、模造羊皮紙、金属 ／ブックレット(蛇腹式)	199.0×35.5 (折畳時: 19.0×11.0)	購入
ダゴベルト・ ペヒェ	(1887-1923)	ウィーン工房壁紙:尖端	c. 1922	プリント、紙(6点)	(1):45.5×25.5 (2):52.0×25.5 (3):59.0×44.5 (4):24.5×56.0 (5):23.5×28.0 (6):16.3×14.0	高橋幸代氏寄贈
ダゴベルト・ ペヒェ	(1887-1923)	ウィーン工房壁紙:尖端	c. 1922	プリント、紙	64.5×40.0	高橋幸代氏寄贈
ダゴベルト・ ペヒェ	(1887-1923)	ウィーン工房壁紙:星	c. 1922	プリント、紙	26.0×56.0	高橋幸代氏寄贈
マリア・リカルツ ＝シュトラウス	(1893-1971)	ウィーン工房壁紙: スコットランド	c. 1923	プリント、紙(2点)	(1):52.3×66.0 (2):52.0×66.0	高橋幸代氏寄贈
ヤン・ヴォー	(1975-)	1861年2月2日	2009～	紙にインク、フン・ヴォー によるカリグラフィ	29.6×21.0	作者寄贈

デザイナー	書籍著者(チェコ語・ロシア語)	題名(日本語訳)	出版社/者	出版年
カレル・タイゲ	Vladislav Vančura	『パン焼きのヤン・マルホウル』[第3版]	Odeon	1929
カレル・タイゲ	Vladislav Vančura	『パン焼きのヤン・マルホウル』[第3版]	Odeon	1929
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『彼女はプラミントン卿から金を盗もうとした』	Odeon	1930
カレル・タイゲ	-	『クメン年鑑』1930-1931年	Kmen	1930
カレル・タイゲ	Konstantin Biebl	『天国/地獄/楽園』[初版](2冊)	Sfinx (Bohumil Janda)	1930
カレル・タイゲ	Marcel Proust	『失われた時を求めて』第7篇『消え去ったアルベルチーナ』	Odeon	1930
カレル・タイゲ	Marcel Proust	『失われた時を求めて』第8篇『見出された時』	Odeon	1930
カレル・タイゲ	Stendhal	『恋愛論』	Rudolf Škeřik	1930
カレル・タイゲ	Karel Teige	『匂い立つ世界』	Odeon	1930
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『階段でかくれんぼ』	Fr. Borový	1931
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『時報:エジソンのための追悼祈祷』[初版]	Fr. Borový	1931
カレル・タイゲ	Konstantin Biebl	『天国/地獄/楽園』[第2版補遺]	Sfinx	1931
カレル・タイゲ	J. Havlíček & K. Honzík	『建築と設計図』(現代の国際建築)第3巻	Odeon	1931
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『暴虐それとも愛』	Fr. Borový	1931
カレル・タイゲ	Karel Čapek	『一般的な事柄あるいは政治的動物について』[初版]	Fr. Borový	1932
カレル・タイゲ	Stanislav K. Neumann	『黄金色の雲』	Fr. Borový	1932
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『ガラスのハヴロック』(3冊)	Fr. Borový	1932
カレル・タイゲ	Karel Teige	『最小限住居』	Václav Petr	1932
カレル・タイゲ	Anna Maria Tilschová	『ゴミ山』[第2版]	Fr. Borový	1932
カレル・タイゲ	Karel Čapek	『ダーシェンカ、あるいは子犬の生活』	Fr. Borový	1933
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『往復切符』(3冊)	Fr. Borový	1933
カレル・タイゲ	Karel Teige	『ヤロミール・クレイツェルの作品』	Václav Petr	1933
カレル・タイゲ	Stanislav K. Neumann	『ピップ・イワン山のリンドウ:ラホフスキーの夏の印象』	Fr. Borový	1933
カレル・タイゲ	-	『議論の中のシュルレアリスム』	Jarmila Prokopová	1934
カレル・タイゲ	André Breton	『通底器』	Spolek výtvarných umělců Mánes	1934
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『さよならとハンカチ』	Fr. Borový	1934
カレル・タイゲ	Karel Teige	『建築の右翼と左翼:建築家と建設業者の地位に関する課題』	Magda Pavlová	1934
カレル・タイゲ	Bokoslav Brouk	『オートセクシャルリズムと精神的エロチシズム』	Edice Surrealismu	1935
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『さよならとハンカチ』[第3版]	Fr. Borový	1935
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『見えないモスクワ』[初版](2冊)	Fr. Borový	1935
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『見えないモスクワ』[第2版]	Fr. Borový	1935
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『パントマイム』[新版]	Fr. Borový	1935
カレル・タイゲ	Laco Novomenský	『開いた窓』	L. Mazác	1935
カレル・タイゲ	Karel Teige	『アートフェア』	Nakladatelství a galerie Živého umění, F. J. Müllera	1935
カレル・タイゲ	André Malraux	『人間の条件』	Družstevní práce	1935
カレル・タイゲ	César M. Arconada	『土地分割』	Odeon	1936
カレル・タイゲ	Bokoslav Brouk	『死と愛と嫉妬について』	Alois Srdce	1936
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『一条の雨降るプラハ』	Fr. Borový	1936
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『複数形の女』(3冊)	Fr. Borový	1936
カレル・タイゲ	Karel Teige	『ウラジミール・マヤコフスキ』(2冊)	Jarmila Prokopová	1936
カレル・タイゲ	Adndré Breton	『シュルレアリスムとは何か?』	Joža Jicha	1937
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『橋』[第2版](3冊)	Fr. Borový	1937
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『シュティルスキーとトアイエン』	Fr. Borový	1938
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『夜の詩』[第4版](3冊)	Fr. Borový	1938
カレル・タイゲ	Karel Teige	『流れに抗うシュルレアリスム』	Surrealistická skupina	1938
カレル・タイゲ	Bokoslav Brouk	『仕事と個性の機能について』	Edice Surrealismu	1939
カレル・タイゲ	Bedřich Bouček	『プラハ近郊の地質学的調査』	Melantrich	1941
カレル・タイゲ	Benjamin Klička	『ヴルタヴァ河畔にて』	Melantrich	1942
カレル・タイゲ	Karel Čapek	『山椒魚戦争』	Fr. Borový	1945
カレル・タイゲ	Jindřich Heisler & Jindřich Štyrský	『この頃の針の先で』[第2版]	Fr. Borový	1945
カレル・タイゲ	Theodor Procházka	『戦争前夜に』	Melantrich	1945
カレル・タイゲ	Paul Verlaine	『呪われた詩人たち』(2冊)	Otto Girgal	1946
カレル・タイゲ	Anton Pavlovič Čechov	『短編集』	Melantrich	1946
カレル・タイゲ	Paul Eluard	『選詩集』	Odeon	1946
カレル・タイゲ	John Burdon Sanderson Haldane	『マルクス主義と自然科学』[初版]	Práce	1946
カレル・タイゲ	Egon Hostovský	『流刑地からの手紙』(2冊)	Melantrich	1946
カレル・タイゲ	Egon Hostovský	『七度主役で』(2冊)	Melantrich	1946
カレル・タイゲ	Václav Kolář	『摩天楼』[初版]	Práce	1946
カレル・タイゲ	Vítězslav Nezval	『さよならとハンカチ』[第4版]	Fr. Borový	1946
カレル・タイゲ	Julien Benda	『デモクラシーの大きな試練』(2冊)	Vyber Klub socialistické klutury	1947
カレル・タイゲ	George Douglas Howard Cole	『フェビアン主義』[第2版]	Melantrich	1947
カレル・タイゲ	I. Kaczer	『不死身のイコンゴ』	V. Šmidt	1947
カレル・タイゲ	Karel Teige	『チェコスロヴァキアの現代建築』	Czechoslovak Ministry of Information	1947
カレル・タイゲ	František Xaver Šalda	『明日のための戦い』	Melantrich	1948
カレル・タイゲ	František Xaver Šalda	『美術論・詩人論』	Melantrich	1948
カレル・タイゲ	Jiří Štefl	『開業医のための薬物療法』[第4版]	Melantrich	1949
カレル・タイゲ	-	『RED: モダン文化のための月刊誌』 vol.2, No.2	Odeon	1928-1929

デザイナー	書籍著者(チェコ語・ロシア語)	題名(日本語訳)	出版社/者	出版年
カレル・タイゲ	-	『RED: モダン文化のための月刊誌』 vol.2, No.3	Odeon	1928-1929
カレル・タイゲ	-	『RED: モダン文化のための月刊誌』 vol.2, No.9	Odeon	1928-1929
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Ilja Erenburg	『トラスト D. E.: ヨーロッパ滅亡史』	Aventinum	1924
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Ilja Erenburg	『ジャンナ・ネイの恋』	Comunistické nakladatelství a knihkupectví	1925
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Mahen, Jiří	『つなわれた鷺鳥』	Melantrich	1925
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Ilja Erenburg	『ニコライ・クルポフの生涯と破滅』(2冊)	Odeon	1926
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Hellens, Franz	『バス・バシナ・プル』	Aventinum	1926
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Vítězslav Nezval	『絵葉書のための詩』	Aventinum	1926
カレル・タイゲ/ オタカル・ムルクヴィチカ	Ilja Erenburg	『1925年の夏』	Odeon	1927
カレル・タイゲ?	Stanislav K. Neumann	『ブラゴジタとその他の戦時の思い出』	Odeon	1928
カレル・タイゲ?	Edmund Finke	『セラヴァーロ公爵夫人』[初版]	Melantrich	1943
フランチシェク・ムズィカ	Anita Loos	『紳士は金髪がお好き』	Václav Petr	1927
フランチシェク・ムズィカ	Jiří Mařánek	『魔法の傘』	Aventinum	1928
フランチシェク・ムズィカ	Karel Čapek	『R・U・R (ロボット)』第10版	Fr. Borový	1931
フランチシェク・ムズィカ	Holan, Vladimír	『トルソ』	Fr. Borový	1933
フランチシェク・ムズィカ	Vítězslav Nezval	『市を出て5分』	Fr. Borový	1940
フランチシェク・ムズィカ	Karel Čapek	『R・U・R (ロボット)』第10版	Fr. Borový	1946
ヴィート・オブルテル	Vítězslav Nezval	『空中独楽』	Vaněk a Votava	1926
ヴィート・オブルテル	Vítězslav Nezval	『双子座』(2冊)	Ladislav Kunčír	1927
ヴィート・オブルテル	Vítězslav Nezval	『アクロバット』	Rudolf Škeřik	1927
ヴィート・オブルテル	Vladislav Vančura	『師と弟子』	Rudolf Škeřik	1927
ヴィート・オブルテル	František Xaver Šalda	『チェコの最年少詩人について』(2冊)	O. Girgal	1928
ヴィート・オブルテル	Jaroslav Seifert	『伝書鳩』(2冊)	Plejaďa	1929
ヴィート・オブルテル	František Halas	『死期を告げる雄鶏』	Rudolf Škeřik	1930
ヴィート・オブルテル	-	『四分休符: 詩と科学の雑誌』vol. 4, no. 1	Purkyně, spolek pracovníků ve vědě a umění	1930-1949
イラスト:トアイエン	Karel Konrád	『二重の影』	Orbis	1930
イラスト:トアイエン	Joseph Deltell	『ドン・ジュアン』	Rudolf Škeřik	1931
トワイアン	Libuše Vokrová	『クメン年鑑: 特集(恋愛)』1933年春号	Kmen	1933
イラスト:トアイエン	František Kropáč	『感謝』	Štěpán Jež	1934
トアイエン	Karel Josef Beneš	『盗まれた人生』	Melantrich	1935
トアイエン	Karel Hynek Mácha	『阜月』	Družstevní práce	1936
トアイエン	Karel Hynek Mácha	『阜月』	Družstevní práce	1936
トアイエン	Vítězslav Nezval	『妖精のアニチカと案山子のフェルト』	Dědictví Komenského	1936
トアイエン	Pearl S. Buck	『大地』	Družstevní práce	1936
トアイエン	Dora Gabe	『遠い昔』	Dědictví Komenského	1938
トアイエン	Olav Duun	『神は微笑む』	Rudolf Škeřik	1938
トアイエン	Jaroslav Podrouček	『信じられない話』	Kmoch	1939
トアイエン	Helena Hodačová	『少女カーチャ』	Českomoravský kompas	1941
トアイエン	Pearl S. Buck	『大地』	Družstevní práce	1941
トアイエン	Arno Kraus & Jaroslav Podrouže (Trans.)	『子守歌』	Kmoch	1941
トアイエン	Karel Šelep	『ただ友情だけ』[初版]	Kropáč a Kucharský	1944
トアイエン	-	『ソヴィエトの国の歌』	Svoboda	1945
トアイエン	Nikolaj Tichonov	『人民の友』	Svoboda	1945
トアイエン	Aage Weimar	『実験室の殺人』	Plzákovo nakladatelství	1945
トアイエン	Konstantin Paustovskij	『コルキス』	Odeon	1946
トアイエン	Jehan Rictus	『ポエジー』	Odeon	1946
トアイエン	R. Rolland & A. Sokolova	『ジャン・クリストフの少年時代』	Svoboda	1946
トアイエン	"Františka Šnajberková"	『庭の少女たち』[初版]	Čin	1946
トアイエン	Vladislav Vančura	『気まぐれな夏』	-	?
トアイエン	Lee Thayer	『ガラスのナイフ』	Přátelů hodnotné detektivky	不明[1940]
トアイエン	"Philip Mac Donald A.H.・スホルティ Translated: Jirí V. Kincl"	『殺人者は市街を徘徊する』	Kmoch	1938
トアイエン/ラディスラフ・ストナル	Karel Nový	『青い湾の漁師』	Československá grafická Unie	1936
トアイエン/カレル・タイゲ	Josef Kajetán Tyl	『カオス』	Erna Janská	1932
アドルフ・ホフマイステル	Adolf Hoffmeister	『ケンブリッジ・プラハ: 英国で書いたコラム、プラハで書いたエビグラム、そしてカリカチュア』	Alois Srdce	1926
アドルフ・ホフマイステル	Adolf Hoffmeister	『花嫁』	Odeon	1927
アドルフ・ホフマイステル	Karel Poláček	『クメン年鑑』1937年春号	Kmen, klub nakladatelů	1937
アドルフ・ホフマイステル	Adolf Hoffmeister	『ネズガルについて: 記憶のノートから破りとられたページ』	Československý spisovatel	1961
ズデニェク・ロスマン	Bedřich Václavek	『混乱した詩・芸術と文化の社会学に向けて』	Odeon	1930
ズデニェク・ロスマン	-	『芸術教育』vol.IV, no.3	Československé grafické Unie	1938
ズデニェク・ロスマン	Louis Adamic	『ホワイトハウスでのディナー』	Mladá fronta	1947
ズデニェク・ロスマン	Howard Fast	『黒と白』	Mladá fronta	1948

デザイナー	書籍著者(チェコ語・ロシア語)	題名(日本語訳)	出版社／者	出版年
グラフィック:ズデネク・ロスマン/ ドローイング:ペトル・デリンジャー	Jaroslav Zatloukal	『変化』[第3版]	J.M. Stejskal	1940
ズデネク・ロスマン(?)	-	『U—季刊・グループBLOK』1936年第2号	Jaroslav Kohoutek	1936
ブラボスラフ・コチーク	Jan Opolský	『割かれた仮面』	B. Kočí	1916
ヨゼフ・チャペック	Stanislav K. Neumann	『絶望した群衆の夢』	Aventinum	1921
ヨゼフ・ザマザル	-	『文学グループ撰文集—1923年』	Vyškov na Morav: Obzina	1923
ヴォイチェフ・ティッテルバッフ	Konstantin Biebl	『忠実な声』[第2版]	F. Svoboda	1925
J・イェリネク/カレル・タイゲ	Philippe Soupault	『デュランドー兄弟』	Odeon	1926
J・ドン	Vítězslav Nezval	『カーニヴァル』	Jan Fromek	1926
ヴラティスラフ・フゴ・ブルンネル	Ivan Suk	『森と街』	Stanislav Minařík	1927
ヴォイチェフ・ティッテルバッフ	redakční radou Jan Vrzalik	『フラッチャニ・コレギウム撰文集 1919-1929年』	不明	1929
ベドジフ・フォイエルシュタイン	Vítězslav Nezval	『キオスクの恋人たち』	Fr. Borový	1932
アロイス・ボフミル・コホウト	Viktor Dyk	『空白の恐怖』第1篇『祖父ヴァーツラヴェクラフ・シャロフ』	Sfinx (Bohumil Janda)	1932
アントニン・ベルツ	Boris Leonidovič Pasternak	『安全通行証』	Spolek výtvarných umělců Mánes	1935
カレル・ホホラ	Jaromír Měšťan	『悲しむ少年:少年時代の詩』	Sdružení Jihočeských Výtvarníků	1935
ミロスラフ・コウジル	-	『U—季刊・グループBLOK』1936年第1号	Jaroslav Kohoutek	1936
ミロスラフ・コウジル	-	『U—季刊・グループBLOK』1936年第3号	Jaroslav Kohoutek	1936
イジー・フリムル/カレル・タイゲ	Karel Teige	『ソ連芸術:ソヴィエトの建築』	Pavel Prokop	1936
クララ・イストレロヴァー/ 挿絵:ヨゼフ・イストレル	Vít Obrtel	『噴水』	Památník národního písemnictví prp SČB	1987
-	Alexandr Tairov	『解放された演劇:演出家の手記』	Orbis	1927
-	Ladislav Süß / Jan Chaloupka	『ハリウッド』	Průlom	1928
-	Lubomír Linhart	『ジュニアのための映画入門』	Pokrok	1930
-	-	『雑誌 創作』1932年	Karel Borecký	1931
-	-	『メラントリヒ出版のクリスマス』	Melantrich	1935
-	Jaroslav Durych	『鎮魂歌:ヴァルトシュテイン三部作』[第3版]	Melantrich	1935
-	Vladimír Helfert	『チェコの現代音楽』	Index	1936
-	Antonín Dohnal	『ジュニアのためのアマチュア写真術』	Československá grafická Unie	1936
-	Vladimír Majakovskij	『詩について』	Československý spisovatel	1951
-	-	『členství v Klubu přátelの説明』(1枚)	-	-
-	-	『建築』vol. XIII, no. 1	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 1	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 3	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 6	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 6	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 7	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 8	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 10	Klub architektů	1936
-	-	『建築』vol. XIII, no. 11	Klub architektů	1936
イヴァン・クウリュン	Aleksej Kručenyx	『ロシア詩のズドヴィーク』	Tip CIT (MAF)	1923
アレクセイ・ガン	Aleksej Gan	『構成主義』	Tverskoe izdatel'stvo	1922
エル・リシツキー	Vladimír Majakovskij	『声のために』	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1923
エル・リシツキー	Ilija Erenburg	『私のバリ』	Izobrazitel'noe iskusstvo	1933
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『レフ No.1:レーニンの言語』	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1923
アレクサンドル・ロトチェンコ	Nikolaj Aseev	『選詩集:1912-1922年』	Krug	1923
アレクサンドル・ロトチェンコ	Vladimír Majakovskij	『バリ』	Moskovskij rabočij	1925
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』1927年 第1号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』1927年 第2号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』 1927年 第3号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』 1927年 第4号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』1927年 第5号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』 1927年 第6号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
アレクサンドル・ロトチェンコ	-	『新レフ』 1927年 第8-9号	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
グスタフ・クルーツィス	Aleksej Kručenyx	『文学におけるフーリガニズムとの闘争』	Aleksej Kručenyx	1926
V.O.・ロスキン	Boris Pasternak	『一千九百五年』	Gosudarstvennoe izdatel'stvo	1927
-	Aleksej Kručenyx	『マヤコフスキはあざ笑う』	VXUTEMAS	1922

関連資料

作家名	題名(日本語訳)	制作年	サイズ(cm)	備考
アドルフ・ホフマイステル	カレル・タイゲ	制作年不詳	27.5×22.2	ペン画
カレル・タイゲ	クライナ	制作年不詳	23.7×15.8	リノカット(複製)
カレル・タイゲ	ロジ	制作年不詳	23.0×15.1	リノカット(複製)
トアイェン	『子守唄』のためのドローイング	1941年頃	23.0×15.0	書籍234関連資料鉛筆での署名入り
トアイェン	『臍月』の挿絵	1936年頃	25.3×18.0	書籍225関連資料リノカット

保存

Conservation

〔絵画1点、工芸4点、資料・その他5点〕

フェリーツェ・“リチ”・上野＝リックスの《中国・白城子 [風物画卷]》、《中国・穆稜 [風物画卷]》とテキスト1点、ハンカチ2点の修理・修復を行い、本年度開催の企画展で展示した。アーシル・ゴークー《バースデイ・グリーティング》のマット装を行ない、本年度第2回コレクション展に出品した。また、工芸作品の所蔵品目録作成のため、全作品を調査したところ、いくつかメンテナンスが必要な作品があり、本年度は加藤土師萌《下図「萌黄金欄手蓋付飾壺」》とグイド・ガンポーネ《壺》、ラースB.ヘルステン《融ける氷の滝》とマーヴィン・リポフスキー《割れたユーゴスラヴィア・スタクラガラス》に、適切な処置を施し、展示や貸出に活用可能な状態とした。

貸出

Loan

〔作品貸出 50件548点／50 sets of 548〕

国外では、レンバツハハウス美術館（ドイツ、ミュンヘン）で開催された「Group Dynamics—Collectives of the Modernist Period (グループ・ダイナミック—近代化時代のさまざまな集まりについて)」展に、小野竹喬《郷土風景》(1917年)を含む日本画15点と油彩画・版画各1点の計17点を貸出した。コロナ禍により脆弱な日本画の国外への貸出には困難を伴ったが、日本画を世界の美術運動の中に位置づける貴重な機会と捉え、主催者の意図の実現と展覧会の充実に向け全面的に協力した。

国内では、過去最大級の回顧展「GENKYO 横尾忠則」(愛知県美術館、東京都現代美術館、大分県立美術館)に油彩画《アダージョ 1958》(2000年)や代表的なポスターを含む計33点を、須田国太郎のスペイン修業時代に焦点を当てた展覧会「須田国太郎 in Spain」(三之瀬御本陣文化館)に《ミゲール寺院》(1922年)など本主題に必要な不可欠な作品計11点を、「あやしい絵」展(東京国立近代美術館、大阪歴史博物館)には当該展を象徴する甲斐庄楠音《横櫛》(1916年頃)を含む計21点を、特別協力として「フォトジャーナリスト W. ユージン・スミスが見たもの—写真は真実を語る」展(フジフィルム スクエア)にはスミスの代表作《楽園への歩み》を含む計64点を、「めぐるアールヌーヴォー展 モードのなかの日本工芸とデザイン」展(国立工芸館)に浅井忠《染付魚絵変皿》(1907年頃)を含む計21点を、当館との共催展である「上野リチ:ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展(三菱一号館美術館)には総展示数の半数以上を占める計198件を貸与し、いずれも各展覧会に欠くべからざる作品として、展覧会内容の充実へ寄与した。

〔特別観覧 73件169／73 sets of 169〕

特別協力
Special Cooperation

「あやしい絵展」

会期：2021年7月3日(土)～8月15日(日)
会場：大阪歴史博物館
主催：大阪歴史博物館、毎日新聞社、MBSテレビ
協賛：DNP大日本印刷
出品協力：京都国立近代美術館

「Group Dynamics—Collectives of the
Modernist Period(グループ・ダイナミック
—近代化時代のさまざまな集まりについて)」展

会期：2021年10月19日(火)～2022年6月12日(日)
会場：レンバツハハウス美術館(ドイツ、ミュンヘン)
主催：レンバツハハウス美術館
後援：ドイツ連邦政府文化財団
協力：京都国立近代美術館、北京中间美术馆(北京、中国)、パイロイト大学イワレワハウス(ドイツ)、ウツチ美術館(ポーランド)、シャルジャ芸術基金、Staatliche Kunstsammlung Dresden – Archiv der Avantgarden; The Asele Institute, Nimo; Zamân Books & Curating

フジフィルム スクエア 企画写真展

「フォト・ジャーナリスト W. ユージン・スミス の見た
もの — 写真は真実を語る」

会期：2021年11月5日(金)～25日(木)
会場：FUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア) 内 富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・2・ミニギャラリー
主催：富士フィルム株式会社
特別協力：京都国立近代美術館
協力：アイリーン・アーカイブ、日本大学図書館芸術学部分館
後援：港区教育委員会

「大阪市立東洋陶磁美術館所蔵
堀尾幹雄コレクション 濱田庄司展」 関連展示
「中村裕太 | 丸い柿、干した柿」

会期：2021年11月13日(土)～12月19日(日)
主催：高松市美術館
会場：高松市美術館2階展示室
企画協力：京都国立近代美術館
特別協力：大阪市立東洋陶磁美術館、京都精華大学伝統産業イノベーションセンター、特別名勝栗林公園 讃岐民芸館

普及事業
Public Programs

NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films
MoMAK Films Screening

主催：京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ
会場：京都国立近代美術館講堂

プログラム

[現代日本映画監督特集 1：河瀬直美]

▶2021年6月11日(金)午後2時～3時35分
上映作品：『萌の朱雀』1997年
参加人数：32名

▶2021年6月12日(土)午後2時～3時36分
上映作品：『河瀬直美初期短篇集』
参加人数：37名

▶2021年6月13日(日)午後2時～3時53分
上映作品：『あん』2015年
参加人数：33名

[現代日本映画監督特集 1：是枝裕和／西川美和]

▶2021年8月28日(土)午後2時～4時8分
上映作品：『花よりもなほ』2006年
参加人数：19名

▶2021年8月29日(日) ①午後2時～3時59分 ②午後4時～5時10分
①上映作品：『ゆれる』2006年 ②アフタートーク
登壇者：伊藤諒司 (IMAGICAエンタテインメントメディアサービス)
聞き手・司会：富田美香 (国立映画アーカイブ 主任研究員)
参加人数：34名

[現代日本映画監督特集 1：富樫森／沖田修一]

▶2021年11月27日(土)午後2時～3時43分
上映作品：『ごめん』2002年
参加人数：17名

▶2021年11月28日(日)午後2時～4時9分
上映作品：『キツツキと雨』2011年
参加人数：25名

[香港映画発展史探究]

特別協力：康樂及文化事務署香港電影資料館
▶2022年2月26日(土)午後2時～3時36分
上映作品：『董夫人』1970年
参加人数：21名

▶2022年2月27日(日)午後2時～3時47分
上映作品：『忠烈図 [修復版]』1975年
参加人数：31名

講演会、シンポジウム、ギャラリートーク
Lectures, Symposia, Gallery Talks

▶2021年4月17日(土)午後2時～3時30分
「ピピロッチェ・リスト」展記念講演会「ビデオアートにおける身体／性、そしてパーソナルな次元」
講師：門林岳史 (関西大学文学部映像文化専修教授)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信
参加人数：25名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2021年5月5日(土)午後2時～[ライブ配信]
「ピピロッチェ・リスト」展関連イベント ギャラリートーク
講師：牧口千夏 (京都国立近代美術館主任研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2021年5月27日(木)公開
「ピピロッチェ・リスト」展関連イベント オンライン・アーティスト・インタビュー
講師：ピピロッチェ・リスト (アーティスト)
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2021年7月21日(水)午後4時30分～6時 [オンライン]
文化庁職員勉強会
「美術館と人びとをつなぐ 京都国立近代美術館の教育普及活動」
講師：牧口千夏、松山沙樹 (京都国立近代美術館)
共催：文化庁地域文化創生本部
参加人数：48名

▶2021年 ①9月21日(火) 序章・第一章 ②10月11日(月) 第二章・第三章 各日正午～[ライブ配信]
「発見された日本の風景」展関連イベント ギャラリートーク
講師：梶岡秀一 (京都国立近代美術館主任研究員)
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2021年10月16日(土)午後2時～4時
「発見された日本の風景」展記念講演会
「明治の風景を描いた人々 —画家別に整理してみる—」
講師：梶岡秀一 (京都国立近代美術館主任研究員)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信
参加人数：13名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2021年11月29日(月)正午～[ライブ配信]
「キュレトリアル・スタディズ15：八木一夫の写真」展関連イベント ギャラリートーク
講師：八木明 (陶芸家)
撮影場所：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2021年12月4日(土)午後2時～3時30分
「上野リチ」展講演会
「上野リチの仕事：ウィーンからきたデザイン・ファンタジーと京都」
講師：池田祐子 (京都国立近代美術館学芸課長)
会場：京都国立近代美術館講堂＋ウェブ配信
参加人数：37名

配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年1月9日(日)午後5時30分～[ライブ配信]
「上野リチ」展関連イベント ギャラリートーク
講師：池田祐子(京都国立近代美術館学芸課長)
撮影場所：京都国立近代美術館3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2022年2月6日(日)午後5時30分～[ライブ配信]
「岸田劉生と森村・松方コレクション」展関連イベント ギャラリートーク
講師：梶岡秀一(京都国立近代美術館主任研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶2022年3月27日(日)午後1時～3時30分
「サロン!雅と俗」展関連イベント シンポジウム「サロン!京と大坂の絵画－継承か断絶か?」
登壇者：中谷伸生(関西大学名誉教授／一般財団法人きょうと視覚文化振興財団理事)、実方葉子(泉屋博物館学芸部長)、橋爪節也(大阪大学教授)、明尾圭造(大阪商業大学教授／商業史博物館首席学芸員)
司会・進行：平井啓修(京都国立近代美術館主任研究員)
会場：京都国立近代美術館講堂
会場参加人数：34名
配信：「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶2022年3月27日(日)午後5時30分～[ライブ配信]
「サロン!雅と俗」展関連イベント ギャラリートーク
講師：平井啓修(京都国立近代美術館主任研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館3階企画展示室
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

映像上映

Video Screening

▶2021年 ①10月1日(金)正午～午後8時 ②10月2日(土)午前9時30分～午後8時 ③10月3日(日)午前9時30分～午後5時
「ニュー・ブランシュ KYOTO 2021」
上映作品：『Intérieurs 2020』(制作委嘱：パリ市立近代美術館)
参加作家：マリー・アンジェレッティ、レティシア・バドー・オスマン、ガエル・ショワヌ、モルガン・クルトワ、アラージュ・ハナエイ、ジャン・シャルル・ド・キヤック、クレマン・ロジェルスギ、サラ・サディック、ナオキ・スーター＝シュドウ、ステファン・チェレブニン
主催：アンスティチュ・フランセ関西、京都市
共催：京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：①70名 ②35名 ③22名

コンサート

Concert

▶2021年11月20日(土)午後5時10分～
響ノ都プロジェクト2021コンサートシリーズ 京都国立近代美術館ホワイエコンサート
出演：京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻4回生
お話：北村敏則(京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻准教授)
主催：京都市立芸術大学
共催：京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階ホワイエ
参加人数：47名

学習支援事業

Learning Programs

ワークショップ

Workshops

▶2021年12月12日(日)午前10時～午後4時
「上野リチ」展 パブリックプログラム
だれでもワークショップ「ウィーンのクリスマス市をいどころ!」
会場：京都国立近代美術館1階ロビー
参加人数：165名

プリントスタディ

Print Studies

▶2021年7月15日(木)午後1時30分～4時30分
京都芸術大学芸術学部美術工芸学科写真・映像コース 写真作品鑑賞授業
共催：京都芸術大学
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：35名

▶2021年11月20日(土)午前9時30分～11時30分
京都芸術大学通信教育部美術科写真コース 写真作品鑑賞授業
共催：京都芸術大学
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：20名

▶2021年12月4日(土)午前9時30分～11時30分
京都芸術大学通信教育部美術科写真コース 写真作品鑑賞授業
共催：京都芸術大学
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：9名

学校連携

School Programs

▶2021年6月1日(火)午後2時45分～4時25分 [オンライン]
京都市立銅駝美術工芸高等学校「美術史」
「美術館の役割と美術史」
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
共催：京都市立銅駝美術工芸高等学校
参加人数：104名(生徒93名、教員11名)

▶2021年6月9日(水)午前11時10分～12時30分
京都芸術大学アートプロデュース学科 講義「芸術研究VII」
「京都国立近代美術館の教育普及活動」
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
共催：学校法人瓜生山学園 京都芸術大学

▶2021年8月2日(火)午後1時30分～5時
令和3年度 図画工作科・美術科夏季連携講座

共催：京都市教育委員会、京都市図画工作教育研究会、京都市中学校教育研究会美術部会
会場：京都国立近代美術館講堂、1階ロビー、3階企画展示室、4階コレクション・ギャラリー
参加人数：42名(小中学校教員30名、スタッフ12名)

▶2021年10月30日(土)午前10時～正午
京都府立福知山高等学校美術部 鑑賞学習
ファシリテーター：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
共催：京都府立福知山高等学校美術部
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：16名(生徒15名、引率1名)

▶2021年 ①11月10日(水)午前11時45分～12時35分、午後1時20分～2時10分 ②11月16日(火)午前11時45分～午後0時35分 [オンライン]
京都市立西院中学校 美術館連携プログラム「美術館の役割と仕事」
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
共催：京都市立西院中学校
参加人数：114名

▶2021年11月29日(月)午前9時30分～午後4時40分、12月5日(日)午後1時～5時15分 [オンライン]
令和3年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修
主催：独立行政法人国立美術館
共催：文部科学省
修了者数：87名(教諭49名、学芸員22名、指導主事16名)

▶2021年12月7日(火)
立命館大学大学院先端総合学術研究科 授業
講師：牧口千夏(京都国立近代美術館主任研究員)
参加人数：9名(学生8名、引率1名)

▶2021年12月8日(水)
京都市産業技術研究所主催「上野リチ展」見学会
講師：池田祐子(京都国立近代美術館学芸課長)
参加人数：35名(会員30名、職員5名)

▶2021年12月9日(木)午前9時30分～10時30分
鹿児島県立松陽高等学校 施設見学
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
共催：鹿児島県立松陽高等学校
会場：京都国立近代美術館
参加人数：36名(生徒33名、引率3名)

▶2021年12月10日(金)午後2時30分～3時30分
東京都小笠原村立母島中学校「オンライン修学旅行」
ファシリテーター：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
共催：東京都小笠原村立母島中学校
会場：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー、母島中学校図工・美術室
参加人数：13名(生徒8名、教員5名)

▶2022年2月3日(木)午後4時～5時
成安造大学 学芸課程科目「生涯学習概論」
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)

共催：成安造大学
参加人数：27名（学生26名、引率1名）

感覚をひらく —新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 Opening the Senses - Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

主催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会
（事業実施中核館・京都国立近代美術館）
助成：令和3年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

▶2021年 ①7月17日（土）②8月21日（土） 各日午前10時～正午、午後2時～4時
「モダンクラフトロニクル」展開連プログラム
「手だけが知っている美術館 第4回 ふらっと鑑賞プログラム」ナビゲーター：松山沙樹（京都国立近代美術館特定研究員）
会場：京都国立近代美術館4階ロビー
参加人数：52名（視覚障害のある方1名、聴覚障害のある方2名）

▶2021年12月11日（土）
ワークショップ「壊れてしまったものと、その記憶をめぐって」
[「CONNECT⇄」～芸術・身体・デザインをひらく～]の項目を参照

▶2022年3月18日（金）
ウェブサイト「ABCコレクション・データベースVol.2 河井寛次郎を眼で聴き、耳で視る」
テキスト：中村裕太（作家）
触察：安原理恵
話し手：中村裕太（作家）、松山沙樹、牧口千夏、本橋仁、宮川智美（京都国立近代美術館）
ウェブサイト制作：Studio Kentaro Nakamura
特別協力：河井寛次郎記念館
公開：ABCプロジェクト特設ウェブサイト

「CONNECT⇄」 ～つながる・つづく・ひろがる～

文化庁委託事業「令和3年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
主催：文化庁、京都国立近代美術館
共催：京都府、京都市、京都新聞
特別協力：NHK京都放送局
後援：KBS京都、エフエム京都
会場：京都国立近代美術館、京都市京セラ美術館、京都市動物園、京都府立図書館、ロームシアター京都、京都市勤業館みやこめっせ、kokoka 京都市国際交流会館、京都文化博物館、京都芸術センター ほか
事務局：株式会社京都新聞ホールディングス（事務取扱：京都新聞COM）

▶2021年12月2日（木）～2022年1月16日（日）[展示]
身体感覚で楽しむプログラム「竹村京 Floating on the River」

企画・制作：竹村京（アーティスト）、京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階ロビー

▶2021年12月11日（土）①午前10時～12時30分 ②午後2時～4時30分
ワークショップ「壊れてしまったものと、その記憶をめぐって」
講師：竹村京（アーティスト）
進行：松山沙樹（京都国立近代美術館）
撮影：鈴木啓介
写真：衣笠名津美
会場：京都国立近代美術館1階ロビー、講堂
参加人数：①5名（視覚障害のある方1名）②9名（視覚障害のある方1名）

▶2021年12月11日（土）
ワークショップ「壊れてしまったものと、その記憶をめぐって」
[「CONNECT⇄」～芸術・身体・デザインをひらく～]の項目を参照

▶2022年3月18日（金）
ウェブサイト「ABCコレクション・データベースVol.2 河井寛次郎を眼で聴き、耳で視る」
テキスト：中村裕太（作家）
触察：安原理恵
話し手：中村裕太（作家）、松山沙樹、牧口千夏、本橋仁、宮川智美（京都国立近代美術館）
ウェブサイト制作：Studio Kentaro Nakamura
特別協力：河井寛次郎記念館
公開：ABCプロジェクト特設ウェブサイト

▶2021年12月2日（木）～2022年1月16日（日）[展示]
身体感覚で楽しむプログラム「竹村京 Floating on the River」

出版事業 Publications

展覧会図録(各展覧会の頁を参照) Exhibition Catalogues

『視る(京都国立近代美術館ニュース)』(隔月発行) Bimonthly Museum Newsletter “MIRU”

▶No. 514(5-6月号)
・REVIEW「プライベートとパブリックの境界を行き来するーピピロッチェ・リストのフェミニン」／伊村靖子（芸術学、情報科学芸術大学院大学准教授）
・「追悼 先輩学芸員 柳原さんとの足掛け34年」／杉野秀樹（砺波市美術館館長）
・リレーコラム「不要不急を乗り越えて」／石田太一（唐招提寺 執事長）

▶No. 515(7-8月号)
・ESSAY「近代美術館における工芸コレクションの形成ー1960年代～80年代」／中ノ堂一信（京都芸術大学名誉教授）
・INTERVIEW「ピピロッチェ・リスト：Your Eyes Is My Island あなたの眼はわたしの島ー朝吹真理子さんに聞く」／編集・聞き手：牧口千夏（京都国立近代美術館主任研究員）、協力：一色與志子（一色事務所）

▶No. 516(9-10月号)
・ESSAY「《発見された日本の風景 美しかりし明治への旅》によせて」／山梨絵美子（千葉市美術館館長）
・REVIEW「近現代工芸の行先——《モダンクラフトロニクル》展によせて」／前崎信也（京都女子大学准教授）
・リレーコラム「辛党・甘党ミュージアム」／杉山末菜子（福岡市博物館運営課長）

▶No. 517(11-12月号)
・ESSAY「上野伊三郎とリチの協働について」／笠原一人（京都工芸繊維大学助教）
・REVIEW「発見された明治の風景」／内呂博之（ポーラ美術館学芸員）
・リレーコラム「映画《ミナマタ》を考える」／楠本智郎（つなぎ美術館 主幹・学芸員）

▶No.518(1-2月号)
・ESSAY「〈壺〉幻視ー新収蔵の岸田劉生《壺》を契機としてー」／吉田暁子（東京文化財研究所研究員）
・REVIEW「上野リチ展：デザイン・ファンタジーの輝きと強さ」／角山朋子（神奈川大学准教授）
・リレーコラム「最近の雑感」／家入建生（NPO法人 BEPPU PROJECT プロジェクトマネージャー）

▶No. 519(3-4月号)
・ESSAY「大阪の佇まいー大阪風流礼賛」／井田太郎（近畿大学教授）

・REVIEW「風流なサロン文化と京阪の絵画」／林野雅人（大阪中之島美術館主任学芸員）
・リレーコラム「街中での活動についての変遷」／八木隆行（美術館／ya-gins主宰／非営利活動法人マエバシ・アート・プラクティス代表理事）

『京都国立近代美術館活動報告』（年1回発行）
“MoMAK Report”
平成31／令和元（2019）年度版

『京都国立近代美術館概要』（年1回発行）
Annual Museum Brochure “Independent
Administrative Institution National Museum of
Art, The National Museum of Modern Art, Kyoto”
令和3（2021）年度版

『新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 実施
報告書』（年1回発行）
Annual Report “Project to Promote
Innovative Art Appreciation Programs”
令和3（2021）年度版

『「感覚をひらくー新たな美術鑑賞プログラム創造
推進事業」触図『さわるコレクション』』
‘Opening the Senses Project to Promote
Innovative Art Appreciation Programs’
Touchable pictures and texts “Tactile
Collection”

令和2-3年度版（竹内栖鳳《春雪》、1942年）
原画レリーフ化：中谷ミチコ（多摩美術大学彫刻科講師）、版制作：ツジカワ株式会社、浮き出し加工：有限会社コスモテック、協力：半田こづえ（明治学院大学非常勤講師）、点訳：社会福祉法人 日本ライトハウス点字情報技術センター、企画・文：本橋仁、松山沙樹（京都国立近代美術館）

その他の事業 Others

京都国立近代美術館 友の会 The Membership of MoMAK

近現代美術に関心を持つ人々の鑑賞や研究の便宜を図り、また当館の多彩な活動をサポートしていただく目的で、平成15年度に「京都国立近代美術館 友の会」を発足させた。

令和3年4月1日からのOKパスポート販売に先立ち、令和3年3月をもって一般会員の新規入会及び更新受付を終了した。

※OKパスポートは国立国際美術館と共同で発行する年間パスポート。

特別解説会 Gallery Talks for MoMAK Membership

▶2021年6月18日(金)午後6時～7時

解説:牧口千夏(京都国立近代美術館主任研究員)

会場:京都国立近代美術館講堂

参加人数:18名

▶2021年8月13日(金)午後6時～7時

解説:大長智広(京都国立近代美術館主任研究員)

会場:京都国立近代美術館講堂

参加人数:10名

▶2021年9月17日(金)午後6時～7時

解説:梶岡秀一(京都国立近代美術館主任研究員)

会場:京都国立近代美術館講堂

参加人数:13名

▶2021年11月26日(金)午後6時～7時

解説:池田祐子(京都国立近代美術館学芸課長)

会場:京都国立近代美術館講堂

参加人数:8名

▶2022年2月11日(金)午後6時～7時

解説:梶岡秀一(京都国立近代美術館主任研究員)

会場:京都国立近代美術館講堂

参加人数:8名

無料観覧日

Free Admission Days (Collection Gallery only)

企画展を実施していない土曜日などについて、コレクション・ギャラリーの無料観覧を実施。

2021年4月3日(土)夜間開館 入館者数:148人

2021年5月18日(火)国際博物館の日 入館者数:93人

2021年6月26日(土)夜間開館 入館者数:209人

2021年7月3日(土)夜間開館 入館者数:159人

2021年8月28日(土)夜間開館 入館者数:123人

2021年9月4日(土)夜間開館 入館者数:169人

2021年11月3日(水)文化の日 入館者数:274人

2021年11月6日(土)夜間開館 入館者数:175人

2021年11月13日(土)関西文化の日

夜間開館 入館者数:533人

2021年11月14日(日)関西文化の日 入館者数:382人

2022年1月22日(土)夜間開館 入館者数:146人

2022年3月12日(土)夜間開館 入館者数:196人

2022年3月19日(土)夜間開館 入館者数:214人

夜間開館

Evening Hours

毎週金・土曜日は午後8時(入館は午後7時30分)まで夜間開館を実施。あわせて、コレクション展、自主企画展において延長時間(午後5時以降)については観覧料の夜間割引を実施。

2021年4月2日(金)～2022年3月26日(土):計98日間

入館者数:72,790人(夜間入館者:8,772人)

▶コレクション・ギャラリー及び企画展における展示目録の作成・頒布(日・英)

▶コレクション・ギャラリー及び企画展における音声ガイドの提供(日・英)

▶展覧会案内カレンダーの作成・頒布(日・英)

▶MoMAK Films案内カレンダーの作成・頒布

▶京都国立近代美術館フロアガイド各国語版の頒布(日・英・独・仏・伊・西・簡体中文・繁体中文・韓)の頒布

▶鑑賞の手引書「ガイドブック」の頒布

▶京都国立近代美術館 点字・拡大文字パンフレットの作成・頒布

▶京都国立近代美術館公式ウェブサイト(日・英・簡体中文・韓)およびSNS(facebook、Instagram公式アカウント)による広報やギャラリートークの配信を実施

▶YouTube公式チャンネルによる鑑賞マナーや展示風景の紹介、講演会や教育普及事業のオンライン開催を実施

▶「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」の特設ページによる広報(文字サイズの拡大・白黒反転)

▶「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」事業紹介リーフレットの頒布(日・英)

▶京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内「京都ミュージアムズ・フォー」を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施

福永治

【論文等】

- ▶「[クラフト展]会場から』『美術京都』第53号巻頭エッセイ、公益財団法人中信美術奨励基金、2022年3月、1頁
- ▶「[第7回Art Exhibition 瀬戸内大賞]審査員総評・作品評」、一般社団法人くれしん芸術文化財団、2022年3月3日、1頁
- ▶「森野陶芸の現在地』『米寿記念文化功労者森野泰明陶展－響きあう彩りとフォルム』図録、高島屋美術部、2022年3月9日、2-4頁
- ▶「巻頭文』『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術館、2022年3月31日、1頁

【口頭発表等】

- ▶広島市立大学博物館実習講義「日本の美術館の現状と今後」「展覧会企画と展示」、主催・会場：公益財団法人泉美術館、2021年8月22日

池田祐子

【論文等】

- ▶「[上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー』『上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー』展図録、京都国立近代美術館ほか、朝日新聞社、2021年11月15日、10-23頁
- ▶『上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー』展図録編集・翻訳・作家／団体解説執筆、京都国立近代美術館ほか、朝日新聞社、2021年11月15日
- ▶『MONDO映画ポスター 映画ポスター・アートの最前線』小冊子翻訳、国立映画アーカイブ・京都国立近代美術館、2021年12月
- ▶「リチのファンタジーの鳥たち』『マイ・ファースト・リチ 上野リチのデザイン』青幻舎、2022年1月10日、7-14頁

【口頭発表等】

- ▶オンライン講演会「分離派の誕生－芸術における自由の問題 ミュンヘン、ベルリン、ウィーン」、主催：学習院大学ドイツ文学会、2021年10月15日
- ▶講演会「上野リチの仕事：ウィーンからきたデザイン・ファンタジーと京都」、主催：京都国立近代美術館、会場：京都国立近代美術館1階講堂＋ウェブ配信、2021年12月4日
- ▶講演会「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」、主催・会場：大妻女子大学比較文化学部、2022年1月26日
- ▶講演会「染型紙と世界：ドイツ・ドレスデンを中心に』『美術史アカデミー「藍の拡がり』」、主催・会場：徳島市立徳島城博物館、2022年2月12日
- ▶記念講演会「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」、主催：三菱一号館美術館、会場：3×3 Lab Future(オンライン配信)、2022年2月18日

【その他】

- ▶審査員『くまもと「描く力」2021』、主催：熊本日日新聞、会場：熊本日日新聞本社、2021年10月9日

小倉実子

【論文等】

- ▶今西彩子、鶴見香織(編)『鏡木清方 美人画集成』作品解説(一部)、小学館、2022年3月15日、287-310頁(一部)

梶岡秀一

【論文等】

- ▶「[都市と神話／歴史と抽象 ー日本画家 岩波昭彦略伝ー』『moment 岩波昭彦展 ー都市の肖像＋Compositions ー』、近鉄百貨店、2021年5月26日、巻末6頁分(42-47頁)
- ▶「福井江太郎《暁》』『第8回 東山魁夷記念 日経日本画大賞』、日本経済新聞社、2021年5月27日、52-53頁
- ▶「須田国太郎のレアリスム論とスペイン』『美術フォーラム21』第43号、一般社団法人美術フォーラム21、2021年6月20日、113-118頁
- ▶「宮崎進「漂泊する心の風景」』『日本の美術VII 平成の洋画 1989-2019 次代への架け橋』、美術年鑑社、2021年6月28日、70頁
- ▶「岸田劉生作品四十二点を新たに収蔵』『美術の窓』8月号、生活の友社、2021年8月20日、140-141頁
- ▶「子守の子供イメージ 外から見るか、内から見るか」(175-179頁)、章解説(13頁、105頁、149頁)、作家解説(192-203頁)『発見された日本の風景 美しかりし明治への旅』展図録、毎日新聞社、2021年9月7日
- ▶「発見された日本の風景 作品紹介1 美しさ 外国人を魅了』『毎日新聞(京都)』2021年9月9日、25面
- ▶「発見された日本の風景 作品紹介2 劇的な表現 今も新鮮』『毎日新聞(京都)』2021年9月11日、25面
- ▶「発見された日本の風景 作品紹介3 花満ちる庭園に感動』『毎日新聞(京都)』2021年9月12日、23面
- ▶「アートダイアリー084 発見された日本の風景 美しかりし明治への旅』『文化庁広報紙ぶんかる』(文化庁web)、文化庁、2021年9月13日配信
- ▶「21年春に新収蔵され話題となった42点がついに一般公開 新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション』『美術の窓』12月号、生活の友社、2021年12月20日、82頁
- ▶〔共著〕梶岡秀一・岸田夏子『京都国立近代美術館のコレクションでたどる 岸田劉生のあゆみ』、新潮社、2022年1月30日
- ▶「画業を一望する大コレクション』『新美術新聞』1590号、美術年鑑社、2022年2月1日、2面
- ▶「岸田劉生と森村・松方コレクション 作品紹介1 自信に満ちた表情』『毎日新聞(京都)』2022年2月3日、23面
- ▶「岸田劉生と森村・松方コレクション 作品紹介2 世界で最愛の存在』『毎日新聞(京都)』2022年2月7日、23面
- ▶「岸田劉生と森村・松方コレクション 作品紹介3 劉生の美学を象徴』『毎日新聞(京都)』2022年2月11日、21面
- ▶「岸田劉生の京都生活 南禅寺の湯豆腐』『京都新聞』2022年1月29日、27面
- ▶「岸田劉生の京都生活 錦市場の冬瓜』『京都新聞』2022年2月6日、24面
- ▶「岸田劉生の京都生活 祇園祭の見物』『京都新聞』2022年2月15日、3面
- ▶「アートダイアリー089 新収蔵記念 岸田劉生と森村・松方コレクション』『文化庁広報紙ぶんかる』(文化庁web)、文化庁、2022年2月25日配信
- ▶「岸田劉生の絵画における「内なる美」と質感の表現』『美術の窓』3月号、生活の友社、2022年3月20日、62-67頁
- ▶「平明な写実のトリック：石井柏亭筆《画室》考』『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術館、2022年3月31日、60-72頁
- ▶「キュレトリアル・スタディズ14 須田国太郎 写実と真理の思索』『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術

館、2022年3月31日、110-116頁

【その他】

- ▶審査員『第65回鳥取県美術展覧会』、主催：鳥取県、鳥取県教育委員会、新日本海新聞社、会場：鳥取県立博物館ほか、2021年9月8日

牧口千夏

【論文等】

- ▶「『ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Island』展について」(9-15頁)、作品解説(45-54頁)『ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Islandーあなたの眼はわたしの島ー』展図録、京都国立近代美術館、2021年4月
- ▶「アートダイアリー079 ピピロッチェ・リスト：Your Eye Is My Islandーあなたの眼はわたしの島ー』『文化庁広報紙ぶんかる』(文化庁web)、文化庁、2021年5月12日配信
- ▶「参照項としてのチャネル』『ユリイカ 特集：ココ・シャネル』53巻8号、青土社、2021年7月1日、73-76頁
- ▶「キュレトリアル・スタディズ12：泉／Fountain 1917ー2017」を振り返って』『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術館、2022年3月31日、74-88頁
- ▶〔共著〕松山沙樹、本橋仁、牧口千夏、吉澤あき『感覚をひらくー新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 令和3年度実施報告書』(令和3年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業)、新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館：京都国立近代美術館)、2022年3月31日

【口頭発表等】

- ▶オンラインイベント「ドキュメンタリー写真の現在地へーウージン・スミスの『MINAMATA』その時代から〜」主催：朝日新聞社、配信：朝日新聞デジタル、2021年11月2日〜30日

【助成】

- ▶科学研究費補助金(基盤研究(C))「ポスト身体社会」における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究」(平成31年度〜令和3年度：研究代表者・京都工芸繊維大学教授 平芳幸浩)

大長智広

【論文等】

- ▶「呼・吸ー柳原睦夫の現在地』『柳原睦夫展ー鼓動を聴くー』DM、高島屋、2021年4月
- ▶作品解説「日本工芸会賞 中村弘峰 陶彫彩色「菖蒲野」』『第55回西部伝統工芸展』図録、日本工芸会西部支部、2021年5月30日、3頁
- ▶「京都国立近代美術館工芸コレクションについて』『京都国立近代美術館所蔵品目録 XVIII[工芸]』、京都国立近代美術館、2021年7月、404-409頁
- ▶「八木一夫の写真 紀行編ー視覚イメージと言葉との幸福な出会いー』『八木一夫の写真 カメラを手にした前衛陶芸家』、京都新聞出版センター、2021年11月11日、140-141頁
- ▶作品解説「大賞 猪倉高志 線を解き放つ』『第9回菊池ビエンナーレ 現代陶芸の〈今〉』図録、公益財団法人菊池美術財団、2021年12月、10頁
- ▶「第55回女流陶芸公募展』『炎芸術』第149号、阿部出版、2022年2月1日、118-121頁
- ▶「[長谷川政弘氏の2021年度研究テーマ：京町家と金属作品の親和性]についての一考察」長谷川政弘編『京町家と金属作品の親和性の検証』、2022年2月28日、34-35頁

【口頭発表等】

- ▶「第55回西部伝統工芸展陶芸部会 講評会講師」会場：JR博多駅、2021年4月8日
- ▶「[土にかえる]シンポジウムコーディネーター 井上雅之・萩野由梨・田中知美・柳星太」会場：ギャラリーヴォイス、2021年7月17日
- ▶「第68回日本伝統工芸展 陶芸 講評会講師」オンライン、2021年9月21日

平井啓修

【論文等】

- ▶「京坂の文化人たちの接点ー江戸時代から明治時代にかけての事例」(小論)、章解説、人物略年譜、作品解説、系譜図、相関図、『サロン!雅と俗ー京の大家と知られざる大坂画壇』展図録、2022年3月22日
- ▶「茶席でよく見る 絵掛物の画家』『淡交テキスト 稽古と茶会に役立つ 絵の掛物④〜⑫ 茶席の取り合わせ・待合掛と画家』、淡交社
- ▶◎4月号「知っておきたい復古やまと絵のキホン」および「筆者解説」、2022年4月1日
- ▶◎5月号「知っておきたい文人画のキホン」および「筆者解説」、2021年5月1日
- ▶◎6月号「知っておきたい大坂画壇のキホン」および「筆者解説」、2021年6月1日
- ▶◎7月号「知っておきたい円山派のキホン」および「筆者解説」、2021年7月1日
- ▶◎8月号「知っておきたい四条派のキホン」および「筆者解説」、2021年8月1日
- ▶◎9月号「知っておきたい京都画壇の諸派ー原派・岸派・望月派・鈴木派・森派」および「筆者解説」、2021年9月1日
- ▶◎10月号「知っておきたい京都画壇のキホン①ー博覧会と京都府画学校」および「筆者解説」、2021年10月1日
- ▶◎11月号「知っておきたい京都画壇のキホン②ー美術教育と展覧会」および「筆者解説」、2021年11月1日
- ▶◎12月号「知っておきたい東京画壇のキホンー近代日本画」および「筆者解説」、2021年12月1日

【口頭発表等】

- ▶(司会)シンポジウム「サロン!京と大坂の絵画ー継承か断絶か?」パネルディスカッション、主催：京都国立近代美術館、会場：京都国立近代美術館1階講堂＋ウェブ配信、2022年3月27日(日)

宮川智美

【論文等】

- ▶「四代田辺竹雲斎の竹の表現」、四代田辺竹雲斎監修、夢工房、サウザー美帆編『論考集 四代田辺竹雲斎ー守・破・離』、美術出版社、2021年4月、38-41頁
- ▶「写真で見る陶磁器用語事典 第6回釉薬(上) 媒容剤による分類』『小原流 挿花』71巻6号、一般社団法人小原流、2021年6月、30-31頁
- ▶「写真で見る陶磁器用語事典 第7回釉薬(中) 呈色剤による分類』『小原流 挿花』71巻7号、一般社団法人小原流、2021年7月、28-29頁
- ▶「柳原睦夫との対話』『陶説』819号、日本陶磁協会、2021年8月、34-42頁
- ▶「柳原睦夫の陶芸の本質論』『柳原睦夫 花喰ノ器』、大阪

調査研究

- 市立東洋陶磁美術館、2021年8月、130-137頁
- ▶「関西の陶芸展：安永正臣展—Faint, But Undeniable Existence」『陶説』820号、日本陶磁協会、2021年9月、127-130頁
- ▶「特別展『黒田泰蔵』の準備にあたって」『陶説』820号、日本陶磁協会、2021年9月、93-95頁
- ▶作家・団体解説(302-310頁)『上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー』展図録、京都国立近代美術館、2021年11月
- ▶「河井寛次郎と柳宗悦の出会い」『目の眼』547号、株式会社目の眼、2022年3月、28-36頁

[口頭発表等]

- ▶講座「活動④ [対立と調停] 工芸の魅力を伝える」、主催：大阪大学大学院文学研究科 文学研究科におけるアート・ブラクシス人材育成プログラム「微しの上を鳥が飛ぶIII」、会場：大阪大学(オンライン配信)、2021年8月21日

[助成]

- ▶科学研究費補助金(基盤研究(C))「20世紀後半の現代陶芸の動向についての基礎的研究」(2021年度～2025年度：研究代表者・宮川智美)

松山沙樹

[論文等]

- ▶「コロナ禍での「手で触れる」プログラム—京都国立近代美術館の事例から」、ICOM Japan」ジャーナル、2021年5月 <https://icomjapan.org/journal/2021/05/31/p-2384/>
- ▶「美術館における協働の試み～「さわるコレクション」制作の現場から～」、『ユニバーサル・ミュージアム—さわる—“触”の大博覧会』図録、合同会社小さき社、2021年9月、186-189頁
- ▶「「ユニバーサル・ミュージアム」な仲間たち：触覚で作品“再発見”」、『点字毎日活字版』、2021年11月25日
- ▶「美術館での新しい鑑賞と盲学校との連携【鑑賞】」、『視覚障害のためのインクルーシブアート学習—基礎理論と教材開発—』ジァース教育新社、2021年12月、292-297頁
- ▶「展示室で、視覚に依らない鑑賞を考える—「感覚をひらく」事業の新展開」、『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術館、2022年3月31日、118-127頁
- ▶〔共著〕松山沙樹、本橋仁、牧口千夏、吉澤あき『感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 令和3年度実施報告書』(令和3年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業)、新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館：京都国立近代美術館)、2022年3月31日

[口頭発表等]

- ▶放送大学 博物館教育論(’22)[ラジオ科目]、「第9章 アクセス可能な博物館教育：その理念と実践」にて、「京都国立近代美術館における鑑賞プログラム『感覚をひらく』についての実施報告」、主催：放送大学学園、会場：放送大学 RB スタジオ [ラジオ科目]、2022年1月7日

[助成]

- ▶令和3年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」(実施中核館：京都国立近代美術館)
- ▶科学研究費補助金(基盤研究(C))「視覚障害児者のための絵画鑑賞モデルの構築」(令和3年度～5年度：研究代表者・大阪教育大学特任准教授 正井隆晶)

本橋仁

[著書]

- ▶『クリティカル・ワード 現代建築 社会を映し出す建築の100年史』フィルムアート社、2022年3月

[論文等]

- ▶「アーティストか社会人 拮抗する二つの近代主義と 建築家」『TEMPOLOGY Vision』Vol. 10、テンポロジー未来機構、2021年6月28日、14頁
- ▶「ナンバー「C17」の家をさがしに」『戦後京都の「色」はアメリカにあった! カラー写真が描く〈オキュパイド・ジャパン〉とその後』図録、京都府京都文化博物館、2021年7月、90-91頁
- ▶「座談 祝祭はどこへ向かうのか」『建築雑誌』136巻 1753号、日本建築学会、2021年9月、3-7頁
- ▶「座談 現代都市に必要なとされる祝祭とは何か?(特集 祝祭のゆくえ)』『建築雑誌』136巻 1753号、日本建築学会、2021年9月、16-19頁
- ▶「ヒトと建築、人類として取り組むこと」ひろの、公益財団法人ドイツ語学文学振興会、2021年10月、18-19頁
- ▶コラム(158頁)、作家・団体解説(302-310頁)『上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー』展図録、京都国立近代美術館、2021年11月
- ▶「社会包摂が置いてけぼりした「孤独」、ねじれた世界のままに生きる。』『ねじれの巡礼／八角巡礼』HARUCHI OSAKI、2021年11月、4-5頁
- ▶「植物×オフィスビル 造園を通して地域とオフィスをつなぐ」『TOTO通信』2022年1月
- ▶「建築展評、そのスタートに際して」日本建築学会建築討論(ウェブメディア)、2022年1月
- ▶「住宅の近代化と「床の間」大正から昭和、起居様式の変化に伴う鑑賞機能の諸相」『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術館、2022年3月31日、2-32頁
- ▶「ブック・デザインを美術館で展示すること チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s 開催報告」『CROSS SECTIONS』Vol.10、京都国立近代美術館、2022年3月31日、90-93頁

[口頭発表等]

- ▶講演会「増田友也—アーカイブズが開く建築世界」主催：京都大学総合博物館、オンライン、2021年10月30日
- ▶講演会「映画の中のオフィス」主催：京都建築映像祭、会場：京都メディアショップ、2021年12月19日
- ▶インタビュー「建築展評 | 01 | 戦後デザイン運動の原点」主催：日本建築学会、オンライン、2022年1月
- ▶インタビュー「建築展評 | 02 | 白井晟一入門」主催：日本建築学会、オンライン、2022年2月

[助成]

- ▶科学研究費補助金(若手研究)「郷土資料館のたてられた時代の再検証—建築はどのように集められ・展示されてきたか—」(2019年度～2020年度※2021年度まで延長：研究代表者・本橋仁)

名簿 Nominal List

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館評議員 (50音順) 令和3年度 The Board of Trustees

現職	氏名
京都市京セラ美術館長	青木淳
京都精華大学教授	上野真知子
京都市立芸術大学理事長・学長	赤松玉女
国際日本文化研究センター所長	井上章一
東京藝術大学理事	国谷裕子
美術史家	河本信治
京都中央信用金庫理事長	白波瀬 誠
日本画家	箱崎睦昌
京都府副知事	古川博規
京都国立博物館長	松本伸之
京都工芸繊維大学長	森迫清貴
美術作家・舞台演出家	やなぎみわ
京都文化財団理事長／京都府京都文化博物館長	山田啓二
京都市副市長	吉田良比呂
楽美術館理事長・館長	樂直入

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館職員 令和3年度 Museum Staff

現職	氏名
館長	柳原正樹 (～令和3年4月末)
〃	青木早苗 (令和3年5～6月)
〃	福永治 (令和3年7月～)
学芸課長	池田祐子
主任研究員(所蔵品管理第二室長／展示調整室長)	小倉実子
主任研究員(所蔵品管理第一室長／情報資料室長)	梶岡秀一
主任研究員(教育普及室長)	牧口千夏
主任研究員	平井啓修
〃	大長智広
任期付研究員	宮川智美 (令和3年7月～)
特定研究員	松山沙樹
〃	本橋仁 (～令和4年2月末)
研究補佐員	邑林由起英
〃	渡邊くらら (～令和3年8月末)
〃	高見澤なごみ (～令和3年9月末)
〃	松本圭子
〃	松下桂子 (令和3年10月～)
〃	山本幸子 (令和3年11月～)
〃	福家梨紗
情報研究補佐員	馬場佳世
事務補佐員	吉澤あき
総務課長	津寄憲治
運営管理室長／総務・事業係長	西田恭子
総務係員	松本大河 (～令和3年10月)
〃	迫智子 (令和3年10月～)
〃	清山桃子 (令和3年11月～)
事務補佐員	徳永千鶴
〃	中川剛
〃	磯野由花
事業主任	米田翔
特定研究員	土山里子
会計係長	大宜見一画
会計主任	岡本裕子
〃	荒牧真史
事務補佐員	林順子
派遣職員	北林滋

調査研究

名簿

京都国立近代美術館 活動報告
令和3年度

令和5年3月14日 印刷
令和5年3月30日 発行

発行者 福永治
発行所 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
電話：代表 (075) 761-4111
印刷所 和光印刷株式会社
電話：(075) 441-5408

[非売品]
ISSN 2185-1859

MoMAK Report 2021
The National Museum of Modern Art, Kyoto

Published by The National Museum of Modern Art, Kyoto
Printed by Wako Printing Co., LTD.
© 2023 The National Museum of Modern Art, Kyoto

[not for sale]
ISSN 2185-1859

The National Museum of Modern Art, Kyoto